令和7年第1回京丹波町議会定例会（第2号）

令和7年3月6日（木）

開議 午前 9時00分

1 議事日程

第 1 諸般の報告

第 2 一般質問

2 議会に付議した案件

議事日程のとおり

3 出席議員（13名）

1 番 山 崎 裕 二 君

2 番 山 崎 眞 宏 君

3 番 畠 中 清 司 君

4 番 伊 藤 康 二 君

5 番 居 谷 知 範 君

6 番 西 山 芳 明 君

8 番 谷 口 勝 巳 君

7 番 隅 山 卓 夫 君

9 番 山 田 均 君

10 番 東 まさ子 君

11 番 松 村 英 樹 君

12 番 森 田 幸 子 君

13 番 梅 原 好 範 君

4 欠席議員（0名）

5 説明のため、地方自治法第121条の規定により出席を求めた者（25名）

町	長	畠	中	源	一	君
副	町	山	森	英	二	君
総	務	松	山	征	義	君
健	康	木	南	哲	也	君
産	業	栗	林	英	治	君
企	画	堀		友	輔	君
総	務	田	中	晋	雄	君
財	政	山	内	明	宏	君
デ	ジ	田	畑	昭	彦	君
税	務	小	山		潤	君
住	民	大	西	義	弘	君
福	祉	原	澤		洋	君
健	康	西	野	菜	保	子
子	育	保	田	利	和	君
医	療	中	野	竜	二	君
農	林	山	内	敏	史	君
商	工	片	山		健	君
上	下	村	田	弘	之	君
会	計	谷	口	玲	子	君
瑞	穂	豊	嶋	浩	史	君
和	知	山	内	善	史	君
教	育	松	本	和	久	君
教	育	岡	本	明	美	君
学	校	宇	野	浩	史	君
社	会	西	山	直	人	君

6 欠席執行部（1名）

土	木	建	築	課	長	井	上	晴	之	君
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

7 出席事務局職員（3名）

議	会	事	務	局	長	樹	山	敬	子
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

書
書

記
記

山 本 美 子
松 谷 洋 二

開議 午前 9時00分

○議長（梅原好範君） 改めまして、皆さん、おはようございます。

本日の会議は、健康管理のため、出席者の入場前の検温、手指消毒を行うとともに、水筒等での飲料の持込みを許可しております。

ただいまの出席議員は13名であります。

定足数に達しておりますので、令和7年第1回京丹波町議会定例会を再開いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

《日程第1、諸般の報告》

○議長（梅原好範君） 日程第1、諸般の報告を行います。

井上土木建築課長から体調不良のため、本会議を欠席したい旨届出があり、受理しましたので、これを報告いたします。

3月3日、議会広報広聴特別委員会が開催され、議会だより発行に向けた会議が行われました。

3月5日、全員協議会が開催され、京丹波町まち・ひと・しごと創生総合戦略について、地域公共交通について、並びに権利の放棄について協議がなされました。

京丹波町情報センターに対し、自主放送番組での本会議の放映を依頼しましたので、報告します。

以上で、諸般の報告を終わります。

《日程第2、一般質問》

○議長（梅原好範君） 日程第2、一般質問を行います。

一般質問は、通告に従い、順次発言を許可します。

質問者は、最初の質問のみ質問席で行い、以降は自席に戻って、自席にて答弁を受け、次の質問を行ってください。

最初に、伊藤康二君の発言を許可します。

4番、伊藤康二君。

○4番（伊藤康二君） 改めまして、おはようございます。

議席番号4番、伊藤康二です。

議長の許可が出ましたので、通告書に従って質問をします。

質問に入ります前に、一言述べさせていただきます。

今、岩手県大船渡市で山林火災が発生をいたしております。8日目になり、2,900ヘクタール以上が焼失、集落にも被害が及んでいます。本町の山林面積が2万5,000ヘクタールですので、本町の10分の1強の山林が灰になったこととなります。

本町におきましても、このような山林火災が発生することのないよう注意喚起をしっかりとしていかなければならないと思います。

山林火災で被災された方々にこの場をお借りして、心からお見舞いを申し上げます。

それでは、質問事項1、障害者グループホームについて、質問事項2、出生数が教育に及ぼす影響について、質問事項3、国道9号観音バイパスについて、質問事項4、新しい地方経済・生活環境創生交付金について、質問事項5、施政方針についてでございます。

また、本年は、本町にとっての改選年でありますことから、将来を見据えた質問事項となっていると思いますので、答弁のほどよろしくお願いを申し上げます。

それでは、質問事項1、障害者グループホームについてです。

町長は、施政方針の中で、障害のある方が安心して暮らせる環境づくりは、最も重要な政策課題でありますと表明されました。

そこで、(1) 障害者グループホームについての今年度の取組状況をお伺いをいたします。

○議長（梅原好範君） 畠中町長。

○町長（畠中源一君） グループホームの開設に向けて検討をいただいております法人との協議を、現在、継続的に行っているという状況であります。

以上です。

○議長（梅原好範君） 伊藤君。

○4番（伊藤康二君） それでは、(2) 例えば、公設民営など、運営方針に関わる打診や研究、関心を寄せる機関との協議の進捗状況についてお伺いをいたします。

○議長（梅原好範君） 畠中町長。

○町長（畠中源一君） 本年度、法人との協議を数回実施をいたしてございまして、協議の内容でありますけれども、主に開設場所に関する事項を中心として協議を行っております。

○議長（梅原好範君） 伊藤君。

○4番（伊藤康二君） それでは、(3) 障害者グループホームの立ち上げ（イニシャル面）及び運営（ランニング面）のそれぞれにおける課題として、見据えている点についてお伺いをいたします。

○議長（梅原好範君） 木南健康福祉部長。

○健康福祉部長（木南哲也君） グループホームの開設に当たっては、施設整備のために費用

負担が発生し、社会福祉法人等を対象とした補助金がございますが、上限もございますし、費用が多額になれば、法人の負担も増加するということになるかと思えます。

また、障害福祉サービス費による収入で運営をされるということになりますけれども、サービスに従事いただく人材と入居者の確保が大きな課題になるのではないかと考えているところでございます。

以上です。

○議長（梅原好範君） 伊藤君。

○4番（伊藤康二君） それでは、（4）ですが、来年度、障害者グループホームの開設、運営に向けて、具体的にどのようなスケジュールで臨むのかお伺いをいたします。

○議長（梅原好範君） 畠中町長。

○町長（畠中源一君） この問題は、以前からいろいろと強いご要望もいただいております、議会のほうでも本当に真剣にご検討いただきました。大きな課題であると認識しておりまして、早期の開設が大事だろうと思えますときに、引き続きまして、グループホームの開設に向けて検討いただいております法人との協議を積極的に継続してまいりたいと考えております。

○議長（梅原好範君） 伊藤君。

○4番（伊藤康二君） それでは、（5）国や府、府身体障害者団体連合会などに協力・サポートを要請し、立ち上げの一助、持続安定的な運営が可能となるよう、早急に道筋をつけていくべきではないかと思えますが、伺います。

○議長（梅原好範君） 畠中町長。

○町長（畠中源一君） グループホームをはじめといたします障害福祉サービスというのは、どこに暮らしておられても、安定的に受けられますように、特に中山間地でございます京丹波町の状況を踏まえつつ、今後とも、国、京都府などの関係機関にしっかりと要望を続けてまいりたいと考えております。

○議長（梅原好範君） 伊藤君。

○4番（伊藤康二君） 町長は、施政方針の中で、「地域共生社会の実現において、制度を担う福祉人材の確保による確固とした基盤の確立も重要です。深刻な福祉人材不足に対応するため、福祉人材確保対策事業や介護福祉士育成修学資金貸付事業等を通じ、引き続き、町内の介護、福祉事業の人材確保を支援してまいります」と発言をされております。

そこで、先ほども出ましたけれども、町の土地に福祉人材教育施設や障害者福祉施設、障害者の作業所などを併設し、介護や福祉人材の育成を委託する障害者グループホーム、福祉人材育成センター、仮名でございますが、をつくることを提案をいたしておきます。

以上、提案でございました。

それでは、2番目にまいります。

出生数が教育に及ぼす影響についてでございます。

(1) 令和元年度以降で、出生数が一番少ない年度は何人か、また、小学校区別に分けるとそれぞれ何人になるのかお伺いをいたします。

○議長（梅原好範君） 大西住民課長。

○住民課長（大西義弘君） 令和元年度以降、出生者数が一番少なかったのは、令和5年度で23人でございます。

小学校区別では、竹野小学校区で2人、丹波ひかり小学校区で6人、下山小学校区で3人、瑞穂小学校区で9人、和知小学校区で3人ございました。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 伊藤君。

○4番（伊藤康二君） それでは、(2)でございますが、本町の出生数は平成28年度までは70人程度で推移をしていましたが、平成29年度は55人と減少しはじめ、令和12年度の小学生数は約250人と推測をされます。このような状況が小学生の日々の学習に及ぼすメリットとデメリットをお伺いをいたします。

○議長（梅原好範君） 松本教育長。

○教育長（松本和久君） お答えします。

学校における集団の規模が、学習などに与える影響についてですけれども、一般的には、集団の規模が大きいほど活動の選択肢が増え、また幅広い人間関係の構築などにメリットがあるというふうに言われております。

反面、集団が大きくなると、個人が集団に埋没し、主体性、当事者意識が希薄になるとも言われております。

その逆に、集団の規模が小さくなると、一人ひとりの活躍の機会が与えられ、当事者意識が高まり、自主性や主体性が育ちやすいというふうに言われております。

学習においては、指導者と学習者の距離が近く、目の行き届いたきめ細やかな指導支援が可能となります。

反面、人間関係の固定化、活動の選択肢が少なくなるなどのデメリットがあるというふうに言われております。

以上です。

○議長（梅原好範君） 伊藤君。

○4番（伊藤康二君） それでは、（3）今のデメリットを解消するには、どのような対策が必要であるかお伺いをいたします。

○議長（梅原好範君） 松本教育長。

○教育長（松本和久君） デメリットの解消として、まず、現在取り組んでいることを申し上げます。

例えば、最も規模の小さな竹野小学校では、チーム担任制を導入し、通常授業の学習集団に加え、様々な活動を行う異年齢集団として、1年生から4年生のグループ、5年と6年の高学年グループを作り、幅広い活動ができる工夫をしています。

また、全校集団での活動を増やし、幅広い人との関わり、多様な活動ができるような工夫をしております。

さらに、学校の枠を超えた、他校との共同的な活動・学習として、宿泊を伴う校外学習、体育、環境学習など相互に出向く形での学習、オンラインを活用するなどして共同で学習するように取り組んでおります。

また、和知小学校では、中学校との連携教育の一環として、運動会と体育祭、学習発表会の合同開催など、多様な活動ができるような工夫もしております。

以上です。

○議長（梅原好範君） 伊藤君。

○4番（伊藤康二君） 合同でやってはるということですが、提案の一つとして、ちょっと長くなりますけども、京都府内の大学において、単位互換制度というのが行われております。

単位互換制度とは、他の大学・短期大学で開講されている科目を受講することができる制度であり、習得した科目の単位は、大学・短期大学によっては、現在所属する大学の単位として習得したものとみなされ、大学コンソーシアム京都では、前身の「京都・大学センター」が発足した1994年から本制度を運用しており、現在では40以上の加盟校と協定を締結し、多くの学生が単位互換制度を利用しております。単位互換制度を通じて受講できる科目はおよそ350科目。歴史や文化、芸術系のほか、国際関係や自然科学、京都を深掘りする科目等々、非常に多岐にわたります。また、授業の実施形態もオンキャンパス（科目開設大学の授業）、オンラインや、京都駅前にございますがキャンパスプラザ京都で実施される科目もあります。さらに英語で学ぶ科目も提供されております。

小中学校にはあまり単位がありませんし、関係ないとは思いますが、少人数校による教育に対し、今教育長の発言がありましたように、共同で開催をするという、運動会なり、

その場所へ移動しての学習でございますけども、私なりに一つ提案は、1校単位で考えるのではなく、町の学校全体で少人数学校の教育を考える必要があるのではないかと思います。

本町の人口は、年々減少し、小学校・中学校の存続、また学級の維持にも支障が出てきます。町にとって少人数学級の教育を支えるためにも、合同で勉強ができる場所が必要ではないでしょうか。

そこで、旧丹波町役場の跡地に、仮名でございますが、京丹波版コンソーシアム、教育委員会も併設することで、教育の町としての未来の子どもたちのために、人口の増加や移住が増えることを期待もし、このことを提案します。

以上で、第2項目は終わらせていただきます。

答弁のほうはよろしいですけれども、考えてもらってたらよろしいです。

3番目にまいりますけども、国道9号観音バイパスについてでございます。

(1) 昨年10月31日、本町と南丹市で国道9号観音バイパス整備促進期成同盟会を設立いたしました。私たちの悲願であります観音峠のバイパス化の実現に向けて、本年度から国会議員、国土交通省、京都府などの関係各方面へ要望活動を進めてまいりますと施政方針で表明されております。その後の進展について、町長にお伺いをいたします。

○議長（梅原好範君） 畠中町長。

○町長（畠中源一君） 昨年10月31日でありましたけれども、国道9号観音バイパス整備促進期成同盟会を南丹市とともに設立をさせていただきました。早速に、国土交通省近畿地方整備局京都国道事務所長、京都府知事などの関係機関へ、同盟会設立の挨拶及び報告を行いにまいりました。

この同盟会の活動の中心でありますけれども、国会議員、国土交通省、京都府などへの要望が中心となってまいります。

本議会に上程いたしております令和7年度一般会計予算案に、活動の原資となる同盟会負担金、また、要望活動に係る旅費などの関係予算を計上させていただきました。観音峠のバイパス化の実現に向けて、令和7年度から本格的に活動を推進していきたいと考えております。

○議長（梅原好範君） 伊藤君。

○4番（伊藤康二君） それでは、(2)にまいります。

バイパスは全長2.9キロメートル（うち、トンネル1.2キロメートル）の直線道路の事業化を目指すとされております。会長に就任された町長は、「今後、一致団結して一日も早い完成のために一生懸命頑張る」と述べたと報道されております。

滋賀県では、令和7年1月22日、国道1号バイパスの建設に向け、沿線自治体や経済団体でつくる促進期成同盟会（代表、三日月滋賀県知事）が、国土交通省に早期着手の要望書を提出いたしております。また、同知事は、福井県の杉本知事と合同で、両県を結ぶ国道365号栃ノ木峠道路について、災害時のルートとして機能させるためのバイパスを事業化するよう求める要望書を提出しております。このような他県の状況も踏まえての町長の見解をお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 畠中町長。

○町長（畠中源一君） 国道9号観音峠のトンネルは、ご案内のように大変古いものでございまして、また峠道は急カーブが連続しております。物理的にも心理的にも難所となっているところでございます。

国道9号観音バイパス道路は、自然災害時の緊急輸送ネットワークの強化をはじめとする、安心安全な道路交通環境の確保の中で、交流・移住・定住施策の基盤づくり、地域住民の安全で快適な移動の確保、さらには、原子力災害時の広域避難経路として大変重要な位置づけでございます。

今、ご質問ございましたとおり、国道1号バイパス、特に大津・京都間のバイパスとか、この近隣では亀岡・京都間の国道9号ダブルルート化というのも強く運動もされております。そういうことで、全国各地においてバイパス道路や高速道路の整備など、国への要望が大変多くなされていると私は考えておるところでございます。

その中で、観音バイパス道路の必要性、私は以前から言っておりますように、南丹市、京丹波町は、直接関与する自治体でございますけれども、この観音峠バイパスはそれだけじゃない。京都府の真ん中であって、中北部地域の府民の皆様方にとっても、大変メリットのあるバイパスになる。そういう意味合いがあるわけですから、そういった必要性を、国会議員、国土交通省のほか、関係機関へ強く訴えまして、一日も早い事業化決定を目指してまいりたいという思いでございます。

議員の皆様方も、どうかよろしくご協力をお願いします。

○議長（梅原好範君） 伊藤君。

○4番（伊藤康二君） よその県で知事とかが頑張っておられますので、町として、ちょっとスケールが小さい町でございますけれども、皆さんの力によって、負けず頑張ってバイパスを完成させたい。私も協力を惜しまずさせていただきたいと思います。

それでは、次の4番、新しい地方経済・生活環境創生交付金についてでございます。

（1）令和3年度のデジタル田園都市国家構想交付金デジタル実装タイプ（TYPE1）

の長野県塩尻市の事例に、センサーを活用した鳥獣害対策があります。本町においても、同様に実施可能な事業と考えますが、導入可能性について所見をお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 栗林産業建設部長。

○産業建設部長（栗林英治君） 本町におきましても、10年前にはゲートセンサー付きの自動捕獲檻の実証実験も行ってきましたが、そのときには、捕獲頭数から見た導入コストの課題などから導入には至ってはならないわけでございます。

また現在、町内において、GPSセンサーによる、位置情報の共有による猿被害防止にも取組を行っているところでございます。

年々、ICTでありましたり、IoTの進化によりまして、イノシシ・鹿・猿の捕獲システムの開発、販売が拡大傾向にあることは認識をしているところでございます。

そうした導入に関しましては、今後、京丹波町有害鳥獣対策会議や京丹波町猟友会などの関係機関と一緒に、研究を進めてまいりたいというように考えております。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 伊藤君。

○4番（伊藤康二君） 鳥獣害の被害は、まだまだ京丹波町でも発生をしておりますので、またよろしくお願いを申し上げます。

それでは、（2）同交付金、同タイプの北海道岩見沢市・更別村の事例に、自動走行トラクターやドローンによる農薬散布があります。町においても同様に実施可能な事業と考えますが、導入可能性について所見をお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 栗林産業建設部長。

○産業建設部長（栗林英治君） 本町のような中山間地域では、ご質問のとおり、ドローンを活用した薬剤散布作業が効率的であるという情報を聞くところでございまして、町内でも、ドローンを活用した防除に取り組まれている状況もございます。

また、自動走行トラクターにつきましては、農道や圃場の進入路の傾斜がきつい、特に本町においては危険等の懸念もあるところでございますけれども、今後、中山間地域への導入事例などを注視してまいりたいというように思っております。

こうしたスマート農業への取組支援につきましては、多くの補助メニューがあることから、今後、導入が進んでいくものと認識をしておりますので、京丹波町水田農業ビジョンにも掲げておりますけれども、省力生産技術の導入については、積極的に研究課題としてまいりたいというように思っております。

○議長（梅原好範君） 伊藤君。

○4番（伊藤康二君） 私も、大分、一般質問の中で、ドローンに関する補助金などの質問もさせていただいたところでございます。前向きな補助金とか、ドローンの免許を取るときの費用とか、町からの補助に入れていただければ幸いです。

それでは、（3）町独自の取組として、質問事項で触れました小規模校の課題に対し、将来を見据え、質問事項2で提案いたしましたスマート・スクール、仮名ではございますが、TYPE2・3でございます。遠距離ライブ授業（TYPE1）が有効であると私は考えておりますが、見解をお伺いをいたします。

○議長（梅原好範君） 松本教育長。

○教育長（松本和久君） 現在、学校ではGIGAスクール構想の下、1人1台端末が導入をされております。町内の学校間でウェブを使いまして、教室を結んでの授業あるいは交流を進めております。

さらに、町外の学校間でも、竹野小学校では宇治の笠取小学校と、瑞穂小学校や和知小学校では、十文字ことさんゆかりの新座市の小学校などとウェブを使い幅広い交流学习に取り組んでいます。

ご提案のように、ICTを活用することにより、多様な教育活動が可能となると考えます。小規模校のデメリットの解消にも効果的であると考えております。

今後、さらに積極的な活用を進めていきたいと考えております。

以上です。

○議長（梅原好範君） 伊藤君。

○4番（伊藤康二君） 先ほど質問事項で提案いたしました大規模な教育、和知の教育機関であります教育部局の移転でございます。それと併用した小規模校の合同授業ができる場所を建設していただくという提案でございましたけども、データでやる授業もいいとは思いますが、皆さんと一緒に、先ほども一番最初のほうに人数でありましたけども、23人ですか、竹野小学校が2人、そんな少ない人数でやるよりは、合同で学習ができる場所をつくったほうが効果的であると、私は、ふだんからコンパクトシティの質問ばかり大体しておるつもりでございます。全体を見て、聞いてもらったら、これは皆コンパクトシティにつながっております。そんなことでよろしくお伺いをいたします。

それでは、（4）データ連携基盤を活用したスマートシティ構想も本町の将来に向け重要な施策であると考えますが、町長の見解をお伺いをいたします。

○議長（梅原好範君） 畠中町長。

○町長（畠中源一君） 京丹波町では、スマートシティを実現することを目的にいたしまして、

大学・研究機関、企業、観光連盟・DMO、行政などの産学公の幅広い組織で構成いたしております、一般社団法人京都スマートシティ推進協議会の京都ビッグデータ活用プラットフォームに参画をして研究を行っております。

また、令和6年4月に策定いたしました京丹波町DX推進計画を推進いたしまして、データ連携基盤を活用したスマートシティ実現に向けて、研究してまいりたいと考えております。

○議長（梅原好範君） 伊藤君。

○4番（伊藤康二君） それでは、最後になります5番目の施政方針についてでございます。

（1）道の駅「瑞穂の里・さらびき」の改修の目的についてお伺いをいたします。

○議長（梅原好範君） 片山商工観光課長。

○商工観光課長（片山 健君） お答えいたします。

道の駅「瑞穂の里・さらびき」に関しましては、1999年の供用開始以降、地域の方のみならず、多くのお客様にお越しをいただいております。京阪神から京丹波町に訪れる玄関口として、その機能を果たしてきたということでございます。

一方、供用から約25年が経過をしております。一部、増築などを実施しまして運営をしておりますけれども、全体的な老朽化や、顧客ニーズの変化、時代の変化といった状況の変化に対応し、改修するということを決めたものでございます。

改修を行うことで、集客・収益構造を厚くするとともに、関連産業への波及効果を強化することを目的としているということでございます。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 伊藤君。

○4番（伊藤康二君） それでは、（2）グリーンランドみずほ管理運営において、サウンディング調査の結果をどのように反映したのかお伺いをいたします。

○議長（梅原好範君） 片山商工観光課長。

○商工観光課長（片山 健君） 今年度実施をいたしましたグリーンランドみずほにおけますサウンディング調査に関しましては、方法といたしまして、同様同規模の公園管理関係者ですとかレジャー施設運営の専門家などの意見聴取というものをしております。また、あわせまして、エリアポテンシャル調査というものなんですけれども、読み替えますと周辺環境可能性調査といったものを実施をしたものでございます。それは、現在、受託業者によりまして、調査結果の最終調整ということになっておりまして、その後の公表に向けまして、国土交通省との調整を進めているという段階にあるということもご理解いただきたいというふうに思っております。

しかしながら、調査期間中におきまして、一部報告の内容といったものも実は聞こえてきておりました。例えば、浴場の機能ですとか、宿泊ニーズに対応する需要が挙げられるというようなことも実は聞こえてきております。こういった様々なことを、今後、全体を分析する中で、どのように経営に反映していくかということは、今後検討してまいりたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 伊藤君。

○4番（伊藤康二君） 課題が出てきたということでございますが、（3）で、みずほガーデンロッジのサウンディング調査の結果、どのような需要や課題が明らかになったのかお伺いをします。また、運営の方向性について、どのような示唆が得られたのかお伺いをいたします。

○議長（梅原好範君） 堀企画情報課長。

○企画情報課長（堀 友輔君） サウンディング調査の詳細な結果は最終調整中でございます。公表に向けまして、準備を進めているところでございます。

なお、みずほガーデンロッジに関しましては、関係者へのヒアリングを進める中で、特に、スポーツ後の浴場利用や、宿泊ニーズに対応する需要が大きいことが分かりました。

また、用途については多様なアイデアが寄せられておまして、複合的機能の発揮に期待値が高いものと考えております。

一方、このほど行った施設改修につきましては、利用者を限定した運用は想定していないことから、今後も民間事業者等による様々なアイデアを取り入れながら、ニーズに即した稼働率の高い運営が図られるように検討を進めたいと考えております。

○議長（梅原好範君） 伊藤君。

○4番（伊藤康二君） （4）にまいります。伺っている答弁がこの中に含んでいると思うんですが、サウンディング調査の結果を踏まえ、みずほガーデンロッジの今後の運営方針はどのように決定する予定であるのか。特に、今言われてますターゲット層や活用の具体的なアイデアについて、もう少し深掘りをしてお伺いをいたします。

○議長（梅原好範君） 堀企画情報課長。

○企画情報課長（堀 友輔君） みずほガーデンロッジの今後の運用につきましては、サウンディング調査で明らかになった市場の需要や、施設のスペックを踏まえまして、来年度の指定管理公募に係る仕様書の作成までに、関係機関を含めた庁内各部局との協議検討によりまして、方針を決定することとしております。

なお、来年度の指定管理者公募受付に際しては、利用者層の拡大や地域との調和を図るためにも、柔軟な提案を受け付けたいと考えております。

一方、施設についての基本的な考え方として、当該施設の役割は、立地や施設の機能等から見ても、住民を含めた、多様な方々の活動や交流の拠点であるというふうに考えておりました。このことから、新たな機能等も生かして、さらに幅広い活用を進めたいと考えているところをごさいます。ターゲット層としましては、家族連れやスポーツ参加者、自然体験を求める方々等の需要に加えまして、企業や大学生の研修や、合宿の拠点としての利用など、多彩なニーズに応えることで、地域に根差した施設としての価値を高めていきたいというふうに考えております。

○議長（梅原好範君） 伊藤君。

○4番（伊藤康二君） それでは、（5）にまいります。

みずほガーデンロッジは観光客のアクセスには適しているものの、地域住民との交流がしにくく、関係人口の拠点としては不適であると考えます。そのため、用途を弾力的にし、サウンディング調査の結果を軸にした柔軟な運用を行うべきではないか。例えば、観光拠点として活用を主軸にしつつ、地域住民や事業者のニーズに応じた利活用の可能性を探ることを検討すべきではないかと思いますが、見解をお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 山森副町長。

○副町長（山森英二君） みずほガーデンロッジを含むグリーンランドみずほの立地につきましては、京阪神からのアクセスが良好であるということから、観光拠点としての活用に大きな可能性があるというふうに認識をしております。

また、みずほガーデンロッジが地域住民と直接交流する場としての機能を発揮するには、さらなる仕組みづくりが重要であるというふうに考えておりました。サウンディング調査の結果も踏まえつつ、弾力的な運用を検討していくことが肝要であるというふうに考えております。

具体的には、宿泊拠点としての魅力を最大化しながら、地域住民や事業者のニーズに対応できる利活用を図りまして、また、町内に類似した施設が少ないことや、大学生の教育研修の受け入れが増加傾向にあることも踏まえまして、交流拠点としての活用や研修・合宿など、多様な活用が可能だということに見込んでいます。

こうした場が、新たな関係人口の拠点となり、地域の活性化にも寄与することを目指すべき方向性であると考えておりました。今後も、サウンディング調査結果をベースにいたしまして、観光客・地域住民、双方の需要に応じた柔軟な運用やサービスの拡充を図り、より多く

の人々が訪れていただけるように、利用できる施設づくりに今後も取り組んでまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 伊藤君。

○4番（伊藤康二君） （6）、最後の質問になりますけども、新しい地方経済・生活環境創生交付金（拠点整備）3億2,630万円、合併特例債3億6,770万円を主な財源とする道の駅「瑞穂の里・さらびき」再整備事業は、観光などのさらなる地方創生に向けた取組を加速させ、持続可能な地域振興拠点を目指すとあるが、あわせて、本改修によってグリーンランドみずほ管理運営委託料が不要となるような運営基盤を確立していくことを目指す必要があると考えますが、今回の改修によって、そのような方向性は実現可能なものであるのかお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 畠中町長。

○町長（畠中源一君） グリーンランドみずほは、私は以前から言っておりますように、立地条件的に言っても、施設内容から言っても、本当に大きな可能性を秘めた総合施設であろうと考えております。

道の駅「瑞穂の里・さらびき」は、現状でも、道の駅単体で黒字経営を実現いたしております。今回の改修で、売場面積の拡大、あるいは飲食分野での収益強化を図るということで、一層の収益の向上を期待してまいりたいと思っております。

また、グリーンランドみずほ内の他施設との連携というものは当然あるわけでございまして、そこをしっかりと結びつけながら、相互の集客あるいはサービスを補完し合うという、そういう効果を生むということで、施設全体あるいは地域全体への経済波及効果が一層高まると思っておりますし、また、近隣では丹波自然運動公園とのお互いの運動施設の補完作用といったこともしっかりと利用を高めていくべきだろうと思っております。

また、サウンディング調査の結果に基づきまして、指定管理者の新たな提案とか創意工夫、また、行政との様々な事業における密接な連携を通じまして、経営努力を重ねることがこれから大きな課題になろうと思っております。長期的に指定管理料を、私はぜひこれは軽減すべきだろう、しなければならぬと思っております。持続可能で自立的な運営基盤を確立していくということをこれから目指してまいりたいと思っております。

○議長（梅原好範君） 伊藤君。

○4番（伊藤康二君） 瑞穂に限らず、和知にも委託料が大分つぎ込まれているわけでございますけども、今度は6億7,000万円から8,000万円ぐらいのお金をかけて改修する

わけでございますので、その中に入られる業者の方にもテナント料といたしますか、今はどう
いうふうになってるか私も分かりませんが、それから土地代も私もどうなってるか分か
りませんが、お支払いをいただいて、委託料を町自体が払わんでもいいような施策であ
るようになれば、子どもの数が一番少ない年で23人ということを先ほど聞きましたけ
ども、交付金とかいろいろお金はありますけども、1億円相当は子どもたちに借金として肩
にかかっていくわけですので、その借金を早いことその中の人たちの経営努力によって支払
いをしていただきますように願っております。

それから、一番最初のグループホームの件でございますけども、瑞穂の病院の前辺りに駐
車場の町の広い土地があるんですけども、私もいろいろ話を聞きに行ったりすると、先ほど
答弁にもございましたように土地の問題があるようでございます。広い土地を民間の方にお
貸しするのはなかなか勇気が要る。町のことでございますけども、グループホーム、それか
ら福祉の教育施設、それらを合同で経営することによって、大きい土地を利用できるのでは
ないかと思っております。

それから、教育のことで、京丹波町の旧庁舎は、あそこは中学校に一番近いですし、将
来的に小学校や中学校が1校ずつになるような人数配分で、維持ができないようになった場
合でも、それまでに子どもたちには少しの人数ではなしに、ちょっと多めの人数で教育を受
けられるような施設が大切ではないかと私は思っております。そのことによって、新たに住
民に加わってくれる方、移住される方、それからお子さんを産もうかなというような、よそ
にはないような教育機関が京丹波町にはあるんやというようなことを思われ移住も増えるの
ではないかという提案でございましたけども、これからお考えをいただきまして、よろしく
お願いいたしておきます。

それでは、これで私の質問とさせていただきます。ありがとうございました。

○議長（梅原好範君） これで、伊藤康二君の一般質問を終わります。

次に、隅山卓夫君の発言を許可します。

7番、隅山卓夫君。

○7番（隅山卓夫君） 7番議員の隅山卓夫でございます。

議長より発言の許可を得ましたので、令和7年第1回定例会における一般質問を通告書に
従いまして行ってまいりたいと思っております。

昨年末から新年にかけて、お世話になった方々とお別れすることになり、本庄区だけ
でも8の方が永眠をされるような事態となりました。悲しいことの連続で心が折れるやり
場のない幕開けと本年はなってしまいました。

よく言われます三寒四温のごとく、厳しかった寒さも和らいでまいりました。いよいよ町民の皆様も、それぞれの活動の準備をされますが、伊藤議員からもございましたが、現在、岩手県大船渡市において、未曾有の山林火災が発生をしております。山火事の消火の厳しさと困難さは身にしみて感じておりましたが、最悪の気象条件下での恐ろしさに言葉もありません。今、春の全国火災予防運動が1日から7日まで全国各地で実施されておりますが、本町においても、これから乾燥状態に入りまして、春風が予想されます。いま一度、枯れ草等のたき火は厳に慎んでいただくよう、広報やアプリによる十分な啓蒙をよろしくお願ひしたいと思ひます。

さて、畠中町長は、就任以来、「みんなで元気・希望・笑顔のあふれる京丹波町に」の実現には、町を愛する心と地域への愛着と誇りを持つ心、矜持とも発言されていましたが、を大切にしまちづくりをこの3年間、精力的に町政運営をされ、大きな実績を積み上げられてきました。任期最終年を迎えられまして、町長の表現をお借りいたしますと、黎明期から隆盛期に向かうための本年は結実の年であります。町民の皆様が肌で感じられ、そして、町民の皆様からさらなる期待を込めた大きな後押しが得られる施政方針を示されましたことに、まずは歓迎の意を表明したいと思ひます。

私は、同志7人で結成しております、これからの京丹波町の在り方を研究や遂行するメンバーの一人としまして、示された施策に対し、吟味をしながらしっかりと賛成の立場を堅持をしてまいりました。

その上で、私の本定例会における質問事項は、お示しのありました施政方針ほか4項目につきまして質問をしたいと思ひます。

最初に、施政方針につきまして、以下4点お伺いをいたします。

伊藤議員からもあったんでございますけれども、少し趣向を変えまして、伊藤議員とダブらないように質問を申し上げたいというふうに思っております。

1点目でございますけれども、令和5年12月議会において、観音峠のバイパス化につきまして、早期着工に向けて近隣市とも連携し、関係機関への要望をお願いをしましてから、昨年10月には、今もありませんように観音バイパス整備促進期成同盟会設立総会の開催に尽力をいただきまして、誠にありがとうございます。感謝を申し上げます。

本年4月以降、府、国土交通省など関係方面へ要望活動を展開されると思ひますが、幅員・狭小・屈曲等の交通上の問題点の解消、大規模災害時における復興支援道路の幹線であることや、近年の自然災害における避難や復旧には生活道路の通行止めが大きな障害であり、一日も早い着工が望まれます。実現に向けましては、相当期間が必要となります。

北神衆議院議員の国会質疑において、国においても必要性の認識はされたところでありま
す。先日の2月28日、予算委員会第八分科会、これは国土交通省に関する予算審議でござ
いますが、北神議員の質問がありましたが、吉富駅西側の土地開発に府道竹井室河原線の道
路幅が狭い上、踏切があり、通行がめちゃくちゃ悪い。拡幅に向けた対策をできないかとい
うものでありました。道路局長は、改善に向け調査をする旨答弁をされておりました。また、
中野国土交通大臣は京都出身で、父方の実家は南丹市であると自らが発言をされておりました。

私、何が言いたいかと申しますと、北神議員に対する要望協力と要請を頻繁にやっていた
だきたいのであります。中野大臣も、南丹市や本町の認識はさきの斉藤大臣以上だと思っ
ておまして、着工の短縮に希望が持てる機会となるのではないのでしょうか。府や国に向けて
さらなる要望活動の展開をよろしく願いをいたします。

差し当たり、観音峠バイパス工事早期着工の横断幕と申しますか懸垂幕を、庁舎の掲示ポ
ールに掲げられるなどの考えはありますでしょうか、お尋ねをいたします。

○議長（梅原好範君） 畠中町長。

○町長（畠中源一君） 国道9号観音峠バイパス整備促進の取組につきましては、先ほど伊藤議
員の質問において回答させていただいたとおりでございますが、このほかにも、やはり世論
形成、また関係機関の認識を深めていただくということが非常に大事でありますので、南丹
市の西村市長も非常に熱心に認識をされておまして、その都度都度、国会議員とかあるい
は国土交通省の方々をお願いされておるといことでございます。私も、昨年、福知山市長とと
もに福知山市と京丹波町間の国道改修の促進期成同盟をつくっておりますけど、そのこと
で要望した際にも、本省の橋本道路局長、また企画課長、以前から面識ある人でありますので、
口頭でそういったこともお願いもさせていただき、また、他の国会議員にも、私もその都度
都度、口頭で述べさせていただいておるとい状況でございます。

議員からもございましたとおり、近年頻発する豪雨・大雪等の影響で、通行止めまたは片
側交互通行の交通規制が行われたことがございます。通勤、通学、買物などの日常生活、物
流などに大きな影響を及ぼしておりますし、せんだっての2月の大雪のときも、国道9号老
ノ坂あるいは京都縦貫道の八木中・長岡京間の通行止めがございました。そういったあおり
を受けまして、観音峠も大渋滞を来したと聞いているところでございます。

また、峠の線形が非常に悪い。過去には痛ましい死亡事故も複数発生いたしております。

こういうことから、バイパス道路の早期事業化は、かねてからの住民の強い要望でもあり
ます。バイパス道路の必要性をこれからも熱心に訴えて、一日も早い事業化を目指してまい

ります。

今おっしゃいました啓発の横断幕等につきましては、有効な手だてだと思います。今後検討させていただきたいと考えております。

○議長（梅原好範君） 隅山君。

○7番（隅山卓夫君） ありがとうございます。

非常に活動をしていきたいと町長の認識は承りましたので、次の質問に入らせていただきます。

2点目は、須知高校の活性化や魅力化についてであります。

私が施政方針の中で注目して一番取り上げたい画期的な事業を立ち上げていただいたことでもあります。昨年亡くなられた海士町の山内町長は、地方創生の先駆けとして注目をされ、統合による廃校寸前だった島前高校の危機を魅力化で復活された歴史があります。4期16年務められ、退任式では、これから大事なことは、地域でいかに人間力を育み、地域の未来を担う子どもたちを育てていくか、ものづくりと人づくりが持続可能な海士町である。畠中町長と同じ考え方であるんだなというふうな思いを私はしておりますが、海士町が生き残るために最後に問われるのは本気度だ。皆さんの本気度が未来をつくる。職員に熱い思いを託されたようであります。

今、国において、公立高校の授業料実質無償化や学校給食無償化の動きがあり、さらなる生徒数の確保が危ぶまれる状況になるのかというふうに思っております。従来から府下でも例のない行政支援を行ってこられました。どのような支援を考えているのでしょうか、お伺いをいたします。

○議長（梅原好範君） 畠中町長。

○町長（畠中源一君） 須知高校は、食とかホッケー競技などの町の取組とも深く連携している学校であります。何よりも、町の将来の担い手を育成する町内唯一の府立高等学校であり、府立といえども、京丹波町の大切な大切な高等教育機関だと、私は宝と思っております。須知高校教育活性化推進交付金により、教育力の向上等に向けた支援を、本当に今おっしゃいましたように、京都府では唯一と言っていいほど強力な支援を行っておるところでございます。

しかし、少子化等もございまして、将来的にも生徒の確保はさらに厳しい状況になるんじゃないかと私も危惧いたしておるところであります。今後において、町内からの進学率の向上、また町外からの通学者の増加等の両面から、生徒の確保をする必要があると強く認識をいたしておるところでございます。

須知高校への志願者の増加に向けましては、ほかの高校のやり方とは違った魅力を増す、そういうことが私は必要だと思うんですよ。魅力のないところには生徒が集まらないということでもあります。これも自明の理なんですよね。

そういうことから、須知高校の魅力化と生徒の増加に向けた取組について、須知高校の関係者の皆さん方とともに勉強会を今まで開催し、検討を現在も進めているというところがございます。

今後、京都府教育委員会をはじめ、多様な主体とともに、検討を進めることといたしておりますけれども、まずは、令和7年度の当初予算の中で、目標となる将来ビジョンを定めるとともに、魅力化に向けた取組等の具体化をサポートする魅力化コーディネーターの人材も配置を行ってまいりたいと今考えて、一層、強い強い取組をこれから行ってまいります。

○議長（梅原好範君） 隅山君。

○7番（隅山卓夫君） 希望のある答弁を賜りまして、誠にありがとうございます。

今日は、京都新聞町塚記者も傍聴されておりまして、ぜひ今の町長答弁も含めまして、明日の朝刊とは申しませんが、丹波版あるいは社会面に大々的に須知高校の応援について、京丹波町の取組をぜひとも広報をお願いしたい、こんなふうにも思っております。よろしくお願ひします。

今も答弁いただきましたが、先日の食品科学科生徒の探求的な取組について、栗マカロンの開発や竹林から新たな可能性「メンマプロジェクト」で地域に貢献として発表をしていただきました。来春からは、地域の皆さんの協力を得ながら、さらに拡大をしていきたいなど意気込みも感じたところでもあります。町長も、当然、高評価の講評をされておりましたが、そこにとどまらず、商品化や制度に関する課題解決や支援が私は必要であろうというふうに考えております。考え方を伺ってもよろしいでしょうか。

○議長（梅原好範君） 畠中町長。

○町長（畠中源一君） 今おっしゃいましたように、食品科学科というのは、京都府立高校の中では唯一の特色ある学科でもあります。これは、食の町を標榜する本町にとっては、まさにぴったりとフィットする学科でございます。フードバレーということを私は提唱いたしておりますけれども、これとマッチした事業内容も一層進展していただいて、そして新たな商品開発につなげる。それが京丹波町を産業活性化させていく動機づけにさせていただく。そういう学校になれば、単に食品開発だけじゃなしに、地域の魅力を増す、活性化を図る、そういう大きな展望を持った魅力ある高校なんだということを全国に知らしめて、そして、府内からはもちろん、全国からも生徒を集める、そういう学校でなければならないと私は思ってお

ります。

○議長（梅原好範君） 隅山君。

○7番（隅山卓夫君） 答弁、ありがとうございました。

魅力ある須知高等学校に向けて、いよいよスタートをしていただきますので、大変、私自身期待をしておりますので、よろしくお願ひしたいというふうに思っております。

続きまして、3点目でございますが、全国都市緑化フェアと関連をしまして、交通系ICカードを町内の駅で利用できる改札の設置につきまして、和知駅での要望を展開と施政方針にございますが、JR西日本旅客鉄道株式会社とのこれまでの要望活動を町長もされてきたと思います。その状況と実現に向けた強い思いを聞かせていただきたいと思います。また、ICカード改札は町内全ての駅にも必要でございますので、併せて考え方を聞かせてください。よろしくお願ひします。

○議長（梅原好範君） 畠中町長。

○町長（畠中源一君） 和知駅をはじめ、町内には4つの鉄道駅がございます。その中で、ICカードが使えないというのは、以前から本当に大きな問題でありまして、地域の皆様方から強い要望も賜っておるところでございます。

そういう中で、せんだってニュース等でも報道されましたけれども、亀岡市長、南丹市長、私、そして、利用を図っておられる諸団体の会長の皆様方、特に本町では、和知駅を守る会の吉田会長とともに署名簿を提出し、強い要望をさせていただいたところでございます。これはJRさんに本当に私は再三再四要望もいたしておるところであります。これは、駅舎で使えないという単純なことじゃなしに、地域間格差を実は生む。ICカードも使えない地域なのかという認識が広まりますと過疎化も一層進んでいく。地域間格差を生む大きな大きな問題だと私は思っておるものでございます。そういった観点から、JRさんにも強く要望させていただきました。

緑化フェアの開催日も決定いたしておるわけでありまして。多くの来訪者がその節には京丹波町地域、特に山野草の森というのは一つの大きな会場でありますから、和知駅の乗降客は格段に増えると私は思っております。もう目の前に来ているときに一体それをどうするんだという言い方も私はさせていただきました。本町へも誘客できるように今準備を進めておるところであります。混乱なく利用されるようにしなければ、本当に大変な混乱が生じることになるかと思っております。

和知駅だけじゃなしに、下山駅、安栖里駅、立木駅も同様にICカードシステムの導入の要望も行っております。ぜひこれは実現するべく、今後とも一層強力にお願ひ申し上げたい

と思っておりますし、今、JRの収支上の問題として捉まえられておりますけど、先ほど言いましたように、地域間格差の問題もあると思うんですよ。ですから、これは国会議員にもそういう観点で強く要望させていただいております。税を投入してでも、やっぱりこれは実現してほしいと思うのは、私の正直な気持ちであります。

○議長（梅原好範君） 隅山君。

○7番（隅山卓夫君） 答弁、ありがとうございました。

私も鉄道を利用しての来町者をはじめ、駅利用者の利便性向上と公共交通機関を使う幅広い層の新規顧客を取り込むことができると思っております。しかも、プリペイド（先払い）方式でございますので、使い過ぎや不正利用などの心配をすることなくキャッシュレス決済ができます。スマホに取り込むことで、買物や食事代金決済も可能となります。欠かせないアイテムであろうというふうに思っております。

今も、町長から心強い答弁を賜りましたが、設置に向けまして、粘り強く交渉をお願いいたしまして、4点目の質問にまいりたいと思っております。

4点目は、合併20周年に当たりまして、2日間にわたって種々イベントを開催し、町のにぎわいにつなげ、今後の町政を夢と希望を持って積極的・多面的に展開し、安定した町政を実現し、発展への第2ステージへと次代につなげる責任についてお伺いをしたいというふうに思います。そのためには、対話と信頼を深め、礼節を重んじ、品格ある役場づくりに一層努めるとされていることなど、本年にかける意気込みと熱意の強さを感じております。

さらに、本年は、町長・町議会議員通常選挙が執行されますが、その発展への第2ステージへの責任とは、来期町政を担うという出馬表明と受け取らせていただきますが、よろしいのでしょうか。もしもそうでありましたら、この時点での出馬表明がぜひとも私は必要だと考えておりますので、この場でしっかりと出馬表明を求めたいと思っておりますが、どうぞよろしくお伺いをしたいと思っております。

○議長（梅原好範君） 畠中町長。

○町長（畠中源一君） ありがとうございます。

私は、町長に就任いたしまして、今年で4年目に入ります。私、就任に当たりまして、京丹波町を活性化するための有効な手だてというのは何かということ、私の長年培ってまいりました行政経験、そして知見を基に、一生懸命考えました。それが食と健康、そして教育、子育て、ふれあいのまちづくりであります。この目標を達成するために、確固たる信念を持って、具体的な施策を構想し推進してまいりました。ようやくそれらの施策が定着をしつつあり、活性化への道筋が明らかになりつつあるんじゃないかと私は確信をいたしております。

今、議会に提案している予算案は、4年の仕上げの集大成でございまして、過去最大の規模となりました。相当ユニークな京丹波町らしい特色を盛り込んだものと自負をいたしております。

しかし、このことは、京丹波町が今後発展していくための第一歩にすぎません。言わば、まちづくりの黎明期であって、持続的な発展を促すためには、切れ目のない施策を講じて、一層伸張する。発展期、隆盛期へと駒を進めることが必要だろうと思っております。私は、施策をしっかりと推進し、あるべき京丹波町の姿形を整えていかなければなりません。

京丹波町は、今年で発足20周年を迎えます。この間、実は私で町長は4人目なんです。今、町民の皆様方等が最も求められているのは、安定した町政の確立ではないでしょうか。職員も落ち着いて仕事をすることを望んでいるのではないのでしょうか。議員各位のご協力をいただきまして、町民の皆さんとの信頼関係を築き、職員の能力を最大限引き出して、あるべき姿形を整えて、熾烈な自治体間競争に打ちかつ強固な京丹波町をつくるということは、私に課せられた大きな責任であると考えております。議員各位との絆を崩すことは許されません。どうかそうしたことを深く洞察をいただき、ご協力をお願い申し上げます。

○議長（梅原好範君） 隅山君。

○7番（隅山卓夫君） いきなり答弁に苦慮されるお尋ねをいたしまして、大変申し訳ありませんでした。

ただ、私の交友をしている多くの皆様から、その期待の声があったことをお伝えをしまして、次の質問に行かせていただきます。

施政方針最後に、和知地区小中一貫教育の推進につきましては、何度も、私、取り上げてまいりました。児童生徒数の減少や多様化、複雑化する社会状況の変化等を背景に、小中学校の統廃合や高等学校の再編統合が進んでおります。少子化のさらなる進行によりまして、学校の小規模化に伴う教育上のデメリットの顕在化や、学校がなくなることによりまして地域コミュニティの衰退が懸念をされておりました。本町の実情に応じた活力ある学校づくりの推進が今求められております。和知地区小中一貫教育の推進につきましては、松本教育長には大変なご尽力を賜りまして、誠にありがとうございます。

その上で、地域とともに歩む学校づくりを推進をし、保護者と地域の思いを踏まえた学校の在り方検討委員会が設置されたようではありますが、その意義と今後の進め方につきましてお伺いをしたいと思います。よろしく申し上げます。

○議長（梅原好範君） 松本教育長。

○教育長（松本和久君） 少子化の進行によりまして、先ほどからの質疑の中にもありました

ように、小中学校の小規模化が進んでおります。

こうした学校を取り巻く環境の変化を受け、学校の在り方について、検討する必要があると考えております。

ご質問の和知地区の小中学校の在り方について、和知小学校と和知中学校のそれぞれの学校運営協議会から、小中一貫教育校への移行を含む検討を求める意見書の提出がございました。

学校運営協議会は、PTA、地元区長会、民生児童委員の代表などで構成をされております。

こうしたことから、今回の意見書は、保護者や地元地域の意思を踏まえたものと判断をし、2月20日に開催をいたしました総合教育会議の議題として取り上げることになりました。その場で和知地区の小中学校の今後の在り方について、小中一貫教育校への移行を含め検討するための検討委員会の設置を決定をいたしました。

令和7年度の早い時期に、検討委員会の設置に向け取組を進めてまいります。

以上です。

○議長（梅原好範君） 隅山君。

○7番（隅山卓夫君） 答弁、ありがとうございました。

本町ならではの教育に取組をしていただきまして、地域の課題をテーマとした探求的な学びや課題解決、学力と申しますか、自らの良さに気づく非認知能力の育成を目指すとされておりまして、大きく前進しましたことに感謝をしております。ありがとうございました。

次に、質問項目2点目、和知地区における民俗芸能の現状と課題について、お伺いをしたいと思っております。

ご承知のように、和知地区には、府の指定を受けた無形民俗文化財である和知人形浄瑠璃をはじめとしまして、小畑万歳や和知太鼓保存会、文七踊り保存会の4つの団体がございます。今や地域に受け継がれた伝承システムでは、民俗文化財を維持伝承し、次代に引き継ぐ人材が危ぶまれる状況となっております。無形民俗文化財では、有形民俗文化財のように状態をそのまま維持することではなく、維持すべき形がありません。今現在、担っている方々が生きた文化財と言われております。維持でなく、持続させることが保存であり、後継者の育成が欠かせないと思っております。

先日開催をされましたジュニア世代の学びと提案によりまして、地域に根差した探求型学習、後継者を増やすためにはとして、和知中学校生徒が発表をしてくれたところがございます。和知中学校におきましては、従前から人形浄瑠璃の伝承に取り組み、南あわじ市立三原

中学校との生徒による交流会の開催をしてみたいと思います。

そういうことから、以下の点について、見解や考え方をお伺いしたいと思います。

(1) 和知地区民俗芸能4団体の活動評価につきまして、お伺いをしたいと思います。

○議長（梅原好範君） 松本教育長。

○教育長（松本和久君） お答えいたします。

地域の伝統文化や文化財は、先人のたゆまない努力の積み重ねによりまして、今日まで引き継がれた貴重な地域の宝であり、地域の誇りであると考えております。

こうした地域の伝統文化、文化財を引き継ぐことを通じまして、地域の絆、地域の結束力を確かなものにしてきたと評価をしております。

和知地区に残ります和知人形浄瑠璃、和知太鼓、文七踊り、小畑万歳の4つの伝統芸能は、それぞれの保存会などの関係者の皆様のたゆまないご努力によりまして、今日に引き継がれてきたものと敬意を表し感謝を申し上げます。

こうした皆様のおかげをもちまして、和知地区の活性化にも大きなご尽力をいただいていると評価をしております。

以上です。

○議長（梅原好範君） 隅山君。

○7番（隅山卓夫君） 答弁をいただきまして、ありがとうございます。

実は、維持継続につきましては、民俗芸能の積極的な保存活動や民俗芸能を活用しました地域活性化事業がぜひとも私は必要であろうというふうに考えておりまして、その考え方をお伺いをしたいというふうに思います。

○議長（梅原好範君） 松本教育長。

○教育長（松本和久君） 和知地区の活性化を考えますときに、和知の伝統文化の魅力は大きな力を発揮するものと考えております。

そのために、伝統文化の後継者育成は喫緊の課題であり、学校教育の場に伝統文化を取り入れること、また、和知の伝統文化、歴史、さらに特色ある河岸段丘の景観などを含めた取組を検討したいと考えております。

まずは、次年度開催予定をしております地域学芸員講座では、和知の魅力に焦点を当て、和知の様々な魅力を知ってもらえる講座になるよう検討したいと考えています。

また、和知の歴史、景観を生かす文化的景観についても調査研究をしていきたいと考えております。

以上です。

○議長（梅原好範君） 隅山君。

○7番（隅山卓夫君） ありがとうございます。

（3）にまいりたいと思います。

和知人形浄瑠璃の長老越節義之誉や傾城阿波の鳴門の演題につきましては、上演時間が50分、総勢6人が必要というふうに聞いております。本来、人形操りは3人の演者が必要であると聞いておりましたが、和知人形浄瑠璃は1人で行うのが特徴であります。

人形操りや三味線、語り部演者の高齢化で、担い手育成が急務となっております。もとより、熟練期間が大変必要であることから、その支援が必要と考えておりますが、その点についても見解をお伺いしたいと思います。

○議長（梅原好範君） 松本教育長。

○教育長（松本和久君） 今ございましたように、伝統文化あるいは伝統芸能の後継者育成は、喫緊の課題であると私もそのように考えております。

民俗芸能の保存継承に取り組まれている団体など、他の先進事例についても調査研究をし、どのような支援ができるのか検討していきたいと思います。

以上です。

○議長（梅原好範君） 隅山君。

○7番（隅山卓夫君） 質問でも申し上げましたように、長老越節義之誉、これは全四段から成る物語でございますけれども、現在は、二段目物語のなりわいや三段目子別れの約15分程度で終了する公演をされているようであります。

現在、保存会会員数は13名おられまして、平均年齢が75歳以上で、人形の重さは約10キロ、体力的な面の考慮も必要になってきていると感じております。

そうしたことから、（4）4団体の活動に必要な資金は、和知地区住民が運営協力を従来してきております。人形一体でも高額となっております、運営資金について、これも支援が必要と考えますが、どのような支援ができるのでしょうか、お伺いをいたします。

○議長（梅原好範君） 西山社会教育課長。

○社会教育課長（西山直人君） 現在、4つの団体で構成されております和知民芸保存会に対しまして、運営補助金を交付しております。

引き続き、支援に努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 隅山君。

○7番（隅山卓夫君） （5）です。

今後においても、無形民俗文化財の存続や継承には、用具の修理・新調・収蔵施設の保全や改修などその経費の一部を補助する必要があると考えますが、どのような支援ができるのかについて、お伺いをしたいと思います。

○議長（梅原好範君） 西山社会教育課長。

○社会教育課長（西山直人君） 伝統芸能の継承に当たっては、ご指摘のように、多額の経費が必要となります。

まずは、京都府の文化財補助事業や本町の社寺等文化資料保全補助金を活用していただけるように、支援をさせていただきたいと思っております。

さらに文化庁の事業の活用など、支援の補助の在り方については、今後研究をしてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 隅山君。

○7番（隅山卓夫君） ぜひよろしくお願ひしたいというふうに思っております。

今、小畑万歳が小畑区であるんでございますけれども、小畑万歳につきましては、皆さんご存じのようにNHKで放映もされまして、小畑区で小畑万歳同好会と申しますか、応援する会というものを小畑区ではお考えになっておるようでございます。

こうなってきますと、小畑区が発祥地でございますので、年中行事の中で、小畑区の区予算を使いながら補助をしていきたい。何としても、過去に3年程度空白期間がございましたけれども、それをなくしたいという小畑区民の強い強い思いを私は感じておるんですけれども、そういうふうに区が立ち上げられまして、町に先駆けてやられるということについては、大変な敬意を表するわけです。人形浄瑠璃につきましては、今でも綾部市の方、南丹市の方もあるというふうに聞いておりますけれども、そういう地域から応援をいただきながら、75歳以上の高齢を意識しながら、自分の健康状態、体力、そういったものをしながら、一生懸命、無形民俗文化財の保存に努めておられるということについては、いま一度、真剣に考えていただきまして、何とか保存の維持ができますように、格段のご協力をお願いしたいというふうに思っております。そういったことをお願いしまして、質問項目3点目に行きたいというふうに思っております。

3点目は、高齢社会のまちづくりについて、お伺いをしたいと思います。

2025年に団塊の世代が後期高齢者になり、5年後には要介護状態が増える可能性があります。それを回避するには、高齢社会のまちづくりが必要と言われております。いかにして健康寿命を延伸しまちづくりに貢献できるのか、そして、身体機能・認知機能が低下しま

しても、自分らしく、自己表現ができる町をつくっていくかが重要だと考えられております。

そうしたことから、(1) 高齢者は全て社会福祉の対象として捉えるのではなく、経験や知識を積極的に語り、町に生かす個人の居場所づくりが必要と考えられますが、見解をお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 畠中町長。

○町長（畠中源一君） 高齢社会になりまして、まだまだ第一線で元気に活躍しておられる方々はたくさんおられます。現に、農林業や集落の担い手として元気に活動しておられます。そうした人々によって、何とか京丹波町の現状が保たれている状況にもあります。いつまでも元気で、どうか頑張っていたきたい。切なる願いでございます。

また、近年、こども食堂というのが全国各地で増えております。これは単なる食堂ではなしに、子どもからお年寄りまでが垣根なく集う居場所へと進化をしている状況にあります。こうした方向性も、今後あってもいいんじゃないかなと思っております。

後につきましては、木南部長から答弁いたします。

○議長（梅原好範君） 木南健康福祉部長。

○健康福祉部長（木南哲也君） 現在、福祉施策の一環として実施しております居場所づくり事業としては、各地域で実施されておりますサロン活動や、一般介護予防事業として実施しておりますスリーエー教室、また、健康体操教室月2の会というものもあるんですけども、そういった高齢者ご自身も、運営に主体的に携わっていただいているという実態もございません。

高齢者の趣味や嗜好が多様化する中で、多様な活躍と居心地のよい居場所があって、そこで生き生きと過ごせることこそが、今後の居場所づくりの姿になるのではないかと考えております。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 隅山君。

○7番（隅山卓夫君） 時間があと5分少々となってまいりまして、できるだけ質問を済ませたいということで、スピードを上げてまいりたいというふうに思っております。

(2) 居場所となる空間としまして、学校の空き教室など公の施設を利用できるようにすることが必要と考えますが、考え方をお尋ねしたいというふうに思います。よろしく願いします。

○議長（梅原好範君） 木南健康福祉部長。

○健康福祉部長（木南哲也君） 移動手段が限られる本町の現状を考えますと、高齢者が気軽

に集うことができる居場所となる空間としては、身近な施設の有効活用が大切と考えます。

施設ごとに、利用上の取決めがある場合もありまして、可能な限り利用につなげることができればと考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 隅山君。

○7番（隅山卓夫君） （3）高齢者は自分語りができ、安心できる環境で「在りたい自分」を見つけ、生きがいを実感できることが必要かと考えますが、考え方をお伺いしたいと思います。

○議長（梅原好範君） 木南健康福祉部長。

○健康福祉部長（木南哲也君） 多様な経験を重ねられました高齢者の方々、経験を生かした活動を続けられたり、次世代につながる、あるいは日々続けてこられた日常の生活を、ご自身が役割を感じながら続けられることこそ、生きがいの実感につながるのではないかというふうを考えております。

これまで重ねてこられました経験や人生が大切にされる視点を、今後の施策に反映させてまいりたいと考えているところでございます。

以上です。

○議長（梅原好範君） 隅山君。

○7番（隅山卓夫君） （4）でございます。

（4）につきましては、健康老人の方が体を動かし、頭を使い、そういう形を私考えておりました、新たな活躍場所を見いだせずには自宅に閉じ籠もる傾向があります。生きがいや自己実現ができれば、健康づくりや介護予防につながると考えられます。町内企業の皆様に生きがい就業について協力要請することがそういったことの解消につながると思っております。考え方をお伺いします。

○議長（梅原好範君） 木南健康福祉部長。

○健康福祉部長（木南哲也君） 高齢期の就業環境が大きく変化し、各企業も高齢者の雇用に積極的に取り組んでいただいている、そのような世の中になってきたと考えております。

また、高齢者が就業を通じて地域社会への参加と活躍の機会を提供するとともに、生きがいづくりと健康の維持増進に取り組んでいただいております京丹波町シルバー人材センターをはじめとして、関係の皆様と協力を図り、就業を通じた生きがいづくりに努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 隅山君。

○7番（隅山卓夫君） ありがとうございます。

次に、質問項目4点目でございます。

移住定住窓口の運用実態と推進について、お伺いをします。

開設以来2年が経過をし、今日までの成果についてであります。

（1）窓口2人体制となったことによる効果があったのかどうかについてお伺いをします。

○議長（梅原好範君） 堀企画情報課長。

○企画情報課長（堀 友輔君） 移住相談窓口につきましては、昨年12月に地域おこし協力隊が着任をいたしまして、2人体制で窓口対応ができるようになりまして、大きくサービスが向上したところでございます。

このことから、移住相談や空き家の内覧等につきましてもスムーズな対応が可能となりまして、相談件数も増加をしているような状況でございます。

また、体制が整ったことで、移住ツアー事業や出張相談事業等の企画立案などにも取り組みやすくなりまして、今後においては幅広く多様な手法を検討し、移住支援事業を実施していきたいというふうに考えております。

○議長（梅原好範君） 隅山君。

○7番（隅山卓夫君） 効果が出ておるということでございます。

（2）今日までの相談件数累計と直近2か月の詳細をお伺いをします。

○議長（梅原好範君） 堀企画情報課長。

○企画情報課長（堀 友輔君） 移住相談窓口の開設からの相談件数累計につきましては、732件となっております。

直近2か月につきましては、12月が40件、1月が35件となっております。

○議長（梅原好範君） 隅山君。

○7番（隅山卓夫君） ありがとうございます。

（3）移住相談の成立件数とIターン者についてお伺いをします。

○議長（梅原好範君） 堀企画情報課長。

○企画情報課長（堀 友輔君） 移住相談窓口の開設以降、相談から移住につながった方については、33件となっております。

全員が、Iターン移住と聞いております。

○議長（梅原好範君） 隅山君。

○7番（隅山卓夫君） （4）Uターン者はあったのでしょうか、お伺いをします。

○議長（梅原好範君） 堀企画情報課長。

○企画情報課長（堀 友輔君） Uターン移住に関しましては、相談を通じて把握した方はおりません。

○議長（梅原好範君） 隅山君。

○7番（隅山卓夫君） 続きまして、（5）登録空き家への入居件数についてお伺いします。

○議長（梅原好範君） 堀企画情報課長。

○企画情報課長（堀 友輔君） 移住相談窓口開設からの入居件数につきましては、34件となっております。

○議長（梅原好範君） 隅山君。

○7番（隅山卓夫君） ありがとうございます。

（6）移住促進には観光とタイアップし、観光から移住への道筋を太くする必要があると考えますが、見解をお伺いします。

○議長（梅原好範君） 堀企画情報課長。

○企画情報課長（堀 友輔君） 移住を検討していただくには、京丹波町の地域を知り、魅力を感じてもらうことが重要であるというふうに考えております。

このことから、まずは、地域に足を運んでもらうことが必要となり、そのためには着地型観光を企画していくことが有効であるというふうに考えられます。

観光をきっかけとして、交流人口や関係人口へと発展いただくために、つながり続ける施策を展開し、移住定住を支える支援も強化する中で、地域との連携も強めながら、着実に取り組んでいきたいというふうに考えております。

○議長（梅原好範君） 隅山君。

○7番（隅山卓夫君） ありがとうございます。

（7）移住に際しての金銭的支援の内容についてお伺いをします。

○議長（梅原好範君） 堀企画情報課長。

○企画情報課長（堀 友輔君） 移住者に対しての金銭的な支援につきましては、住宅の改修に関する助成金、起業支援に関する助成金、空き家を取得、改修するために必要な資金調達を目的とした融資を受けた際の金利の支援などが、主な支援内容となっております。

○議長（梅原好範君） 隅山君。

○7番（隅山卓夫君） ありがとうございます。

（8）関係人口創出の取組による効果はあったのかについてお伺いします。

○議長（梅原好範君） 堀企画情報課長。

○企画情報課長（堀 友輔君） 関係人口創出の役割を担う京丹波町地域SDGs活動プラットフォームの連携によりまして、移住につながったケースがございまして、効果はあるというふうに考えております。

今後も、ファンクラブ事業等の関係人口創出事業との連携を深めながら、移住定住施策を実施していく予定でございます。

○議長（梅原好範君） 隅山君。

○7番（隅山卓夫君） 続きまして、（9）移住後の暮らしの満足度や困り事への対応について、そういったことがあったのかどうか、あれば答弁をお願いします。

○議長（梅原好範君） 堀企画情報課長。

○企画情報課長（堀 友輔君） 移住相談窓口につきましては、移住後の定住に向けてのサポートやアフターフォローにつきましても、重要な役割というふうに捉えております。

今後も、京の田舎ぐらしナビゲーターの皆様や地域との連携を強化しまして、移住後も寄り添った対応を行う窓口として、業務を行ってまいります。

○議長（梅原好範君） 隅山君。

○7番（隅山卓夫君） 以上、ありがとうございました。

本当に、私、移住定住相談窓口につきましては、開設以来頑張っておりまして、その効果、今の答弁にもございました。今後、移住定住をいかに取り組んでいくか、このことがやはり子育てゾーンをこの町に最盛させるためにも、ぜひ必要なことだというふうに思っております。駆け足的な質問になりましたことを申し訳なく思っております。

以上で、私の本定例会におけます一般質問を終了させていただきます。熱心な答弁を賜りまして、感謝を申し上げたいというふうに思っております。ありがとうございました。

○議長（梅原好範君） これで、隅山卓夫君の一般質問を終わります。

質問の途中ですが、これより暫時休憩に入ります。再開は11時ちょうどします。

休憩 午前10時43分

再開 午前11時00分

○議長（梅原好範君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

次に、山崎裕二君の発言を許可します。

1番、山崎裕二君。

○1番（山崎裕二君） ただいまから、令和7年第1回定例会における山崎裕二の一般質問を行います。

今期14回目、通算30回目の一般質問です。30回目になって初めて今日、朝、妻が、

今日は何時からやと聞かれまして、傍聴に来るのかな、恥ずかしいなと思ってたら、何でやと聞いたら、午後からやったらお弁当に青ノリのふりかけかけへんほうがええかなと思ってと言っていました。そんなことで、ここはケーブルテレビでもカットしてもらったらいいですけど、道路異状通報システムについて、まず質問いたします。

京都縦貫自動車道（国道４７８号）を含む国道４路線、府道１６路線の町内区間での各延長に、町道７０１路線の延長、実に３８７．８６４キロメートルを加えた計７２１路線の町内での総延長距離についてお示してください。

○議長（梅原好範君） 栗林産業建設部長。

○産業建設部長（栗林英治君） 京丹波町内における道路の延長でございますけれども、京都縦貫自動車道を含みます国道４路線が７２．４キロメートル、府道１６路線が９３．２キロメートル、先ほど町道につきましては、議員からもございましたけれども、３８７．９キロメートルでございます、総延長が５５３．５キロメートルということでございます。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○１番（山崎裕二君） 実に、九州まで行けるような距離が総延長としてあるというような答弁を今いただきました。町道だけでも相当な長さがあるわけですが、昨年３月２９日から、国土交通省による道路異状通報ＬＩＮＥ、通告書に二次元コードを示しておりますので、興味のある方は読み込んでいただいて、気づいたところを通報いただければというふうに思っております。全国で開始となりました。同ＬＩＮＥの対象道路、通報可能な道路異状の具体的な種別・内容、従来の通報方法と比較した場合の相対的優位性・有利性、利点と言えるようなところをお示しいただければと思います。

○議長（梅原好範君） 栗林産業建設部長。

○産業建設部長（栗林英治君） 今もございましたけれども、３月２９日からスタートしております、スマートフォンアプリを使いましたＬＩＮＥによる道路異状通報の対象道路につきましては、全国の高速道路、国道、都道府県道、市町村道などで、通報ができることとなっております。内容につきましては、路面の穴ぼこや段差、路肩の損傷、落下物、ガードレールや標識等の損傷など異状の種類と、その内容を選択肢の中から選ぶことができます。

また、従来の報告書や電話による通報に比べて、写真や位置情報も添付して送ることができまして、誰でも、いつでも通報ができるという利点がございます。

また、通報を受ける道路管理者側では、今も申し上げましたけれども、写真と位置情報が添付されておりますので、その場所や状況を事前に把握した上で、現場に向かうことができるという利点があると考えております。

以上です。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○1番（山崎裕二君） 利点をお示しいただきました。

強いて挙げるなら不利な点というか、国道でも府道でも町道でもなかった場合の対応が、なかなか通報者に伝わりにくい。そういったところがあるかと思いますが、かなり有効なシステム、先ほど言っていたように、位置情報でありますとかどういう状況にあるかといったところ、構えた状態で修繕に行けるといった状況です。穴ぼこ、段差、路肩の崩壊やガードレール・標識などの損傷、落下物や落石、土砂流入や樹木の張り出し、路面の汚れなどの異状について写真などが添付された状態で、どういう状況にあるのか、ある程度分かった状態で現場に向かえるとといったような利点もあるかと思えます。

3つ目ですが、同LINEによる町内の道路関連の通報件数と町道関連の内数についてお示してください。

○議長（梅原好範君） 栗林産業建設部長。

○産業建設部長（栗林英治君） 町内の道路に関します通報件数でございますけれども、8件ございまして、そのうち、町道の穴ぼこが4件、町道認定外道路が3件、町管理でない街灯が1件というような状況となっております。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○1番（山崎裕二君） 私は、土木建築課がやっていたやつ、瑞穂支所がやっていたやつ、和知支所がやっていたやつ、1つずつ出しましたので、私だけで3つ、隣にいらっしゃる眞宏議員を入れたら4つということで、今、町内の町道4つ皆出てしまったわけなんですけど、直近にも今日までに直していただいた道路もあるように聞いております。

そこで、通報後の対応の流れと完了までに要する日数の目安、お示しいただきたいということです。雪が積もった状態でなかなか現場が確認に行けない。直しても除雪車が入って、また同じような状況になるのではないか。そういった想定がある場合、日数の目安といっても、イレギュラーなケースも出てくるかと思いますが、大体の目安をお示してください。

○議長（梅原好範君） 栗林産業建設部長。

○産業建設部長（栗林英治君） 道路の通報ですけども、通報は24時間受付となっておりますのでございます。通報の受信確認は、国土交通省が管理する国道及び高速道路以外は、開庁時間内となるところでございます。

これまでの通報を見ると、受信確認をされまして、町道関係であった場合は、開庁日の当日かまた翌日には町に転送されております。

また、町の対応でございますけれども、具体的な日数というところはあるわけではございますけれども、写真の状況を確認をさせていただいて、実際に現地のほうも確認に行った後に、即時対応できるものなのか、緊急性を要するものかというところを判断をしながら、対応をしていくというような状況でございます。

以上です。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○1番（山崎裕二君） 私が通報した国道・府道の例を挙げますと、国道だと次の対応、府道も、もうできてるわというようなぐらいの早さでした。あと、町道についても、すぐに対応していただいたやつも含めて、確認をしております。国土交通省による道路異状通報LINEが全国で運用されることになりましたので、かなり気合の入った対応が国道なんかでは見られるのではないかなというふうに思っております。これに関しては、今聞いていただいたように特にデメリットはないと思いますので、このシステムが今さっき言った通報件数の少なさがちょっと課題かなというふうに思いますので、特に区長会でこういうものがあるということを実演しながら、LINEのアプリをダウンロードしてもらうぐらいの勢いでやってもらったりとか、広報京丹波を使うとか、文字放送とかでも行けるかもしれませんし、そういったところで、同LINEによる通報システムの周知・普及を目指して、これは町内にある道路の安全につながる話ですので、一層の広報を図っていただきたいというふうに思っております。その方針をお示しいただければと思います。

○議長（梅原好範君） 栗林産業建設部長。

○産業建設部長（栗林英治君） 今後、道路の管理体制と併せまして、これまでの区長さん等からの報告書や電話による通報と併せて、今回の国土交通省のLINEシステムも、先ほど議員からもございましたけれども、あらゆる場を通じて、周知を図っていく方法について検討しながら、早く皆さんにご理解いただけるようなことで検討してまいりたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○1番（山崎裕二君） 区長さんでも、仕事をされている方とか役場に出向いて場所を伝える、そういったこともなかなかしにくい。写真があっても、地図がなかなかうまいことお互いに確認できないとかそういったこともありますので、24時間いつでもできるシステムですので、気づいたときに写真を撮っていただいて、地図を示していただいて、LINEを送ってもらうというような仕組みをつくっていただくことが、道路の安全につながると思っております。

ますので、よろしく願いいたします。

2つ目に入ります。

須知高校生の通学支援についてです。

先ほども須知高校の魅力化といったところがありましたが、もう少し私の中ではこういったところが必要じゃないかなというところを提案させていただきます。

それに当たりまして、まず1つ目ですが、町では、町立小学校及び中学校の遠距離通学費一部負担金に関する徴収要綱に基づき、2017年度（平成29年度）から、町立の小中学校に在籍し、バスで通学する児童生徒を対象として、同要綱第5条に規定する町営バスや民間路線バスの通学定期代一部負担金を当分の間徴収しないと、これも私、そのとき議員をやっておりましたので、かなりたくさんの議員が何回もかけて訴えて行って実現したといったような経緯がありました。いわゆる通学バスの無償化を行っています。その目的について確認させてください。

○議長（梅原好範君） 宇野学校教育課長。

○学校教育課長（宇野浩史君） 町立小中学校への通学に当たり、バスを利用する児童生徒の通学バス負担金を徴収しないこととしておりますのは、居住地による通学に係る負担の格差を是正し、保護者負担の公平性を図ることを目的としております。

以上です。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○1番（山崎裕二君） 通学バスの無償化が行われる前、1つだけ財産区の予算でやられているところがありました。そういったところからも、全町に速やかに適用せなあかんのちゃうかなというふうなことを感じて今に至っておりますので、徴収していた額は、小学校では500円、中学校では1,000円やったと思いますけど、それが12か月ありますので、そういったところから、保護者の経済的負担の軽減と義務教育の円滑な推進を図るといったところの目的が達成できているのではないかと考えています。

2つ目ですが、町では、町立中学校自転車通学に関する支援事業実施要綱に基づき、2018年度（平成30年度）から、自転車通学を行う生徒への支援として、保険、いわゆる府PTA協議会子ども総合補償制度に加入に要する経費を全額補助しております。本事業の目的についてもお示しください。

○議長（梅原好範君） 宇野学校教育課長。

○学校教育課長（宇野浩史君） 町立中学校へ自転車通学する生徒の自転車保険の費用を公費で負担しておりますのは、自転車保険への加入が義務づけられたことを受けて、通学バス負

担金と同様に、居住地による通学に係る負担の格差を是正し、保護者負担の公平性を図ることを目的としております。

以上です。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○1番（山崎裕二君） これについても私も言わせていただきましたし、複数の議員で訴えて実現した。保護者の方からは、自転車通学保険でかなり喜んでいただいたようなことが思い出されます。自転車により通学する生徒の安全を確保し、保護者の経済的負担の軽減を図るためといったところが目的にあると確認できました。

3つ目ですが、町では、京丹波町町営バス利用促進助成金交付要綱に基づき、これはもう少し前なんですけど、2011年度（平成23年度）から、町内の高校、いわゆる須知高校の通学に要する町営バス定期券の額の半分以上を助成金として交付しています。本制度の町営バス利用促進以外の目的についてお示してください。

○議長（梅原好範君） 堀企画情報課長。

○企画情報課長（堀 友輔君） 京丹波町町営バス利用促進助成金につきましては、町営バスの利用促進のほかに、通学費に係る保護者負担の軽減を図るため、実施をしております。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○1番（山崎裕二君） ここで、町営バスの利用促進と通学費に係る保護者負担の軽減を図るためといったところが出てくるわけですが、須知高校に通うのは通学バスとして使っている町営バスだけだろうかといったところが、ちょっと提案の中に含まれております。

加えて、2008年度（平成20年度）の道路交通法第63条の11追加以前から、自転車通学における生徒の安全を確保するため、これは各中学校の予算で捻出しているかと思いますが、新1年生への自転車通学用ヘルメットの無償配布を続けているという実態もあります。

さらに、今回、教育と子育ての町、人材育成による持続可能なまちづくり事業として、京丹波町教育魅力化事業といったところがあります。もちろんソフトの魅力を高めていくことも大事ですが、ハード面での経済的負担、そして、通学に関する安全に関わることで、こういった提案を次にさせていただきます。

これらの事業の目的を今確認していきましたが、そういったところを透かして見ますと、生徒の安全を確保し、保護者の経済的負担の軽減を図るため、須知高校に自転車通学する生徒に対しても、自転車保険の加入に要する経費及び自転車ヘルメットの購入に係る助成を行い、町内高校における教育環境の一層の整備・充実を図っていくべきでないかと提案いた

します。答弁を求めます。

○議長（梅原好範君） 畠中町長。

○町長（畠中源一君） 非常に有効なご意見だと思っておりますので、今後検討してまいります。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○1番（山崎裕二君） 今、かなりヘルメットをかぶって通学している子も中にはいらっしゃるんですけど、かぶってない子もいらっちゃって、その中には、通学途中に自転車でこけたとか、雪が降ってるときに大きな転倒をしたとか、松村議員が朝活動されてるときに、助けられたという話も3年ぐらい前にあったかと思うんですけど、直近でもそういう話を聞いたことがあります。ヘルメットをしてたり、それが自損であっても、相手があった場合、やはり自転車保険のことも必要になってくるだろうし、そういったところを須知高校の中で、町がそういうこともやっていますよといったところを魅力として追加していくことが必要ではないかなというふうに思っております。

今日、中期選抜の入試の状況が出て、食品科学科に関してはともかく、普通科に関してなかなか須知高校が選ばれにくいという実態が浮き彫りになっているかと思えます。

私、手前みその話なんですけど、4年前に娘が須知高校卒業したとき、かなり須知高校に行ってよかったなと親子で思っております。手前みその話なんですけど、15人同じクラスに生徒がいて、5人が国公立大学に進学したというような年でありましたので、かなり教育に関しても手厚く、そして、娘は、もう1人の生徒とともに理系の進学を目指したんですけど、高校3年生で数学Ⅲとか、物理とか、なかなかほかの学校でも生徒が履修しないような科目であっても、その2人、3人のために、先生をちゃんと配置していただいて、しかも優秀な先生を配置していただいて、しっかり少人数の中で指導していただいて、私が塾をやっていますので、塾に通うこともなくというわけではないんですけど、そういったところで娘も進学しましたし、その実績というのは、その前後でも、大阪市立大学に行った子でありますとか、その次の年には、私が行った大学に30年ぶりに進学した子がいたんですけど、そういったところがありますので、須知高校は町立の高校やというぐらいの気持ちで、いろんなことを考えていただきたいなというふうに思っております。

その中で、5つ目ですが、町立学校在籍のバス通学者の場合と軸を一にして、須知高校に通学する生徒の民間路線バス定期券についても、助成の対象に加えるべきではないかと提案いたします。例えば、下大久保・上大久保からバスに乗ろうと思ったら中京交通に乗らないといけない。そこでは町営バスのような半額補助がないといったところは、やはりなかなか

受け入れ難い話じゃないかなと思います。そして、町外の学校の生徒にたくさん来てもらうといったところでは、当然、園部駅で降りていただいて、中京交通に乗っていただく。そういったこともあるかと思いますが、やっぱり軸を一にする必要があるのではないかと提案いたします。答弁を求めます。

○議長（梅原好範君） 畠中町長。

○町長（畠中源一君） 私も、須知高校に対しては議員と同感でございまして、須知高校は、先ほど来もお答えいたしましたけども、町内に唯一存在する高等教育機関で宝であろうと思っております。須知高校の存在なくして、地域の活力を図れないと思っております。

一般的に、高校が消滅した市町村は、存続している自治体に比べて人口減少のスピードが速い。また、高校が廃校となった場合、近隣市町村へ教育環境を求めて、働き世帯の転出が増加する。また、地域活力や担い手不足による歴史・文化が衰退する。そういうことが明らかになっておるわけでございますから、ぜひとも高校は存続しなければならないと思っております。

そのために、私は、府立高校と町という組織の違いはありますけれども、実質的に町立高等学校なんだという、私はそういう場合に捉えていく必要があると思っております。

京都府ともしっかりと連携しながら、京丹波町の主導によりまして取り組んでいかなければならないと強く考えております。

先ほど議員からご提案ございました、自転車保険あるいはヘルメットの購入、民間バスの定期券等についても、こうした考え方の下に、様々な場面でご意見をいただきながら、支援の1つとして検討を行っていきたいと考えております。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○1番（山崎裕二君） 須知高校は、菊とかチーズで有名になりましたが、今後、栗マカロンであったり、竹メンマであったり、そういったところも全国でまた注目されるようなことが増えてくるんじゃないかなと思います。決して須知高校に進学して後悔することは私はないと思います。私自身もそうでしたし、長いこと塾をやってくる中で、須知高校に進学して希望の進路が実現できなかつたといったことで後悔された人も見たことがありませんので、そういったところでは手厚く、須知高校を町と一体となって考えていただくことが必要だと思います。須知高校は系属校には選ばれませんでしたけど、まだまだ須知高校の魅力を訴えていく部分があると思いますので、魅力を増やしながら訴えていただければと思っております。

3つ目です。

ウッディパルわちについてです。

持続可能なまちづくりや地域のにぎわい創出に向け、町と香港理工大学が連携し、昨年秋、町内でのフィールドワークと中間成果報告会が実施され、そのおよそ1か月後の昨年11月には、最終成果報告会の開催があった。どちらの成果報告会にも出席した議員は私一人やったというのが、もっとたくさんの人に見ていただきたかったなという思いもあります。最終成果報告会は、蒲生野中学校の職場体験と重なっておりましたので、蒲生野中学校の中学2年生の子たちも見ておりました。

1つ目、香港理工大学の概要・特長と町との連携に至る契機と経緯について、また、同大学の何学院（学部）何学系（学科）との連携であるのかお示してください。

○議長（梅原好範君） 片山商工観光課長。

○商工観光課長（片山 健君） 今も議員がおっしゃいました、昨年、教育観光プログラムの一環といたしまして、香港理工大学の学生、また教授にお越しいただきました。香港理工大学というのは、香港にももちろんございます公立大学でございます。

特長といたしましては、世界のデザインスクールランキング25というようなものにおいて、アジア圏で唯一ランクインした、国際的にも知名度の高いデザイン学部を有する優秀な大学であるというふうに認識しております。

香港理工大学デザイン学部につきましては、学士課程におきまして、農山村における持続可能な開発に関する調査研究というのを、国内外で進められているところでございます。

そして、研究フィールドを検討していた大学側と、本町の教育観光事業のテストマーケティングを進めていたタイミングがちょうど重なりました。このマッチングができたことによりまして、連携を進めるということに至ったものでございます。

学部につきましては、デザイン学部でございます。学科につきましては、手元ございません。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○1番（山崎裕二君） 香港理工大学の校訓として、人々の利益のために学び、応用するといったような校訓を持たれているようです。ますます京丹波町との関わりを続けていただきたいなというふうに思っております。

その中で、その一助となるのかどうかあれなのですが、総務省の新規事業として、若者の力を生かした魅力的な地域づくりや未来の地域づくり人材の育成・還流の取組を加速化させるため、大学等と連携し、学生のフィールドワーク等を受け入れて実施する大学生等の若者の視点を取り入れた地域課題解決プロジェクトに取り組む場合の経費を支援する「ふるさとミライカレッジ」というものがあります。同大学や一橋大学とのさらなる関わり深化を目指

して、提案書の提出期限は3月28日とタイトなスケジュールになっておりますが、委託費1件当たり1,000万円を上限とする15件程度を採択予定としているモデル実証事業にチャレンジしてはどうかと提案いたします。答弁を求めます。

○議長（梅原好範君） 畠中町長。

○町長（畠中源一君） 来年度、教育観光事業をより一層地域と連携した形で、本格的に実施をしてみたいと思っております。

議員ご指摘の、総務省による本支援制度につきましても、活用を目指して、既に、提案書の作成に向けた研究を進めているところでございます。

本町におきましても、地域の担い手不足や関係人口との継続的な関係構築は大変重要であると思っております。当事業の実施により、大学が自治組織などと連携を行うことなど、多様な意見や関係者が集うということで、地域課題解決のアイデアやプロジェクトが生まれて、そして、より一層、持続的な住民自治運営が実現することを目指しております。

積極的に、今、香港の大学ともですが、国内の各大学と連携を結ぶようにいたしております。私は、この町に、非常にローカルではございますけども、いろんな大学の学生も集める、そして、知識と知性を集積した、そういう町にして、国内はもとより、世界へ情報発信していく、そういう町を目指してみたいと思っております。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○1番（山崎裕二君） この「ふるさとミライカレッジ」のモデル事業に、京丹波町が選ばれなかったらどこが選ばれるんやというぐらいに私は思っていますので、一橋大学、香港理工大学、国内外のトップ大学です。そういったところとの連携が体制的な担保の下、一層深化するように願っております。

香港理工大学の提案にあった、ウッディパルわちに落とし込んでもう少し聞いていきます。

ウッディパルわち利用料改定後の利用状況についてお示してください。

○議長（梅原好範君） 山内和知支所長。

○和知支所長（山内善史君） 令和5年度に料金改定を行いましたが、その令和5年度の利用者につきましては、1,962名でございました。前年度が1,920名でございましたので、ほぼ横ばいでございました。令和6年度については、1月末までの集計ですが、1,400名ということで、やや減少傾向にございます。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○1番（山崎裕二君） 2,000人弱、1月末までで1,500人弱といったところですが、ウッディパルわち（京丹波町わち緑の交流空間施設、京丹波町土と緑いきいき農園簡易宿泊

施設)設置の目的について確認させてください。

○議長(梅原好範君) 山内和知支所長。

○和知支所長(山内善史君) 設置目的でございますが、京丹波町の緑豊かな自然と農林業を結びつけた観光施設を整備することにより、農林業はもとより地域全体の振興の拠点とするため、森林の総合的な利用を図る目的で設置をしております。

○議長(梅原好範君) 山崎君。

○1番(山崎裕二君) 今度は、都市緑化フェアと絡みますが、コア期間を来年9月から11月とする都市緑化フェア開催の目的についても確認いたします。

○議長(梅原好範君) 栗林産業建設部長。

○産業建設部長(栗林英治君) 第43回全国都市緑化フェアin京都丹波は、令和8年9月18日から11月8日までをコア期間として開催をするものでございます。

開催の目的でございますけれども、日本の原風景とも言える農村・里山等緑豊かな自然が広がる京都丹波において、恵まれた環境と文化的価値、その魅力を地域に暮らす人々と訪れる人々が共に享受をいたしまして、新たな地域振興のポテンシャルを生む機会をつくるとともに、都市と農村の交流を促進し、心豊かなライフスタイルによる、新たな時代の幸福社会の実現に寄与することとしておるところでございます。

また、開催の意義ですけれども、京都丹波の財産と言えます自然等の資源を生かす、また、食農を基幹とした地域経済の活性化、文化・芸術を通じた地域の魅力発見と振興ということでおるところでございます。

○議長(梅原好範君) 山崎君。

○1番(山崎裕二君) 今、お二つお示しいただきましたが、ウッディパルわち設置の目的と都市緑化フェア開催の目的には相通ずるもの、シンクロする部分があると思います。相乗効果も期待できると考えますが、見解をお示してください。

○議長(梅原好範君) 山内和知支所長。

○和知支所長(山内善史君) ウッディパルわちの設置目的と都市緑化フェア開催の目的については、議員おっしゃるとおり相通ずるものがあると認識をしております。

また、フェアスポットとしまして、長老ヶ岳、七色の木が指定をされたところでございます。フェア会場のわち山野草の森とほぼ中間点に位置をしますウッディパルわちについては、宿泊施設としても、地域全体で来訪者を迎える観点からも親和性が高いものと考えておりますので、相乗効果が期待できるものと考えております。

以上です。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○1番（山崎裕二君） それでは、ウッディパルわちのさらなる利用向上などを目指して、ウッディパルわち管理委員会と協議を行っている事項はあるのか。ある場合、どのような内容か。

管理委員会の委員長さんが、北部振興会の会長だと思うんですけど、この方も成果報告会に2回とも来られてましたし、そういったところから、かなり関心を持たれてるんじゃないかなと思うんですが、こういったところはどうなっているかお聞きします。

○議長（梅原好範君） 山内和知支所長。

○和知支所長（山内善史君） ウッディパルわち管理委員会と施設のPRについて協議を行っておるところです。特に、SNS等を積極的に活用いただいて、積極的にPRあるいは情報発信をしていただくよう、お願いなり協議をしているところでございます。

以上です。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○1番（山崎裕二君） それでは、香港理工大学の大学生によるプレゼンテーションを基軸に置き、プロモーション戦略室とも連携して、インバウンド需要の掘り起こし、町内への誘引も念頭に置きつつ、英語、中国語など、多言語に対応したウッディパルわち内コテージのリノベーション、これも香港理工大学のプレゼンテーションにもあったとおりですので、見ていただいた方、ご存じの方は、すごいレベルの高いものがお示しいただいたなというふうに思っておりますが、目指したガバメントクラウドファンディングを募ってはどうかと提案いたします。答弁を求めます。

○議長（梅原好範君） 山内和知支所長。

○和知支所長（山内善史君） ウッディパルわちにつきましては、和知の北部地域に位置しておりまして、長老ヶ岳から流れ出る清流がその脇を流れる、大変豊かな自然環境に恵まれた施設でございます。大都会のいわゆる摩天楼の中で生活をされてます香港理工大学の学生から、和知の北部地域の美しい自然と人々の暮らしが織りなす農山村の風景を含めて、大変高い評価をいただきました。

町としましても、同施設は和知北部地域の中核として、交流人口の増加や地域の活性化につなげてまいりたいと考えておりますので、学生からの提案については、参考にさせていただきまして、ウッディパルわち管理委員会や関係課で多面的にこれから議論を行いまして、インバウンド需要の掘り起こしや誘客の可能性について、研究してまいりたいと考えております。

また、実現が可能となった段階で、おっしゃるガバメントクラウドファンディングを募って財源確保を行うことは、非常に有効な手段であるとも考えております。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○1番（山崎裕二君） いろいろ答弁をいただきました。

先ほど、30回目の一般質問と言いましたが、30回目になって初めて同級生と質問と答弁をやり取りすることができました。

4つ目に行きます。

地域通貨についてです。

地域通貨の導入には、開発コスト、コンサルコストやシステム利用料、決済手数料などのランニングコストなど、多額の投資が必要と算段する。お示しいただいたとおりかと思いますが、それぞれについて、どの程度を見込んでいるのか改めて確認させてください。

○議長（梅原好範君） 堀企画情報課長。

○企画情報課長（堀 友輔君） 初期投資としての開発コストは1,355万円、それから、毎年度必要となるシステム利用料と決済手数料等のランニングコストについては、年間約800万円を見込んでおります。

なお、チャージ手数料は、クレジットカード利用時に約3%を予定しております。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○1番（山崎裕二君） 流れで入ってしまったんですけど、この地域通貨に質問するのが、私、今回2回目なんです。1回目も、あまり前向きな質問ではなかったと思うんですけど、今回も同じく前向きな質問ではないんですが、京丹波町の予算が実を結ぶ予算というキャッチフレーズがありました。実を結ぶ予算の中で、唯一実を結ばない予算じゃないかなと私は思っていますので、その辺もちょっと踏まえた上で、質問させていただいておりますので、ご容赦ください。

2つ目として、投資に見合う経済効果として、どのような点を見込んでおり、町民の皆さんの福祉をどのように向上するものなのか。また、投資回収・損益分岐などにまつわる具体的な戦略は備えているのかお示してください。

○議長（梅原好範君） 山森副町長。

○副町長（山森英二君） デジタル地域通貨につきましては、事業主体であります京丹波町の財源確保に向けた収益活動として行うものでございます。町民の利便性の向上やSDGsプラットフォーム等と連携をした公共事業として行うことに意義があるというふうに思ってお

りますし、経済面で効果が現れるだけでなく、投資効果についても重視をしているところでございます。

また、住民への効果といたしましては、今後も本町の高齢化率の高い状況が続いてまいりますので、運転免許証の自主返納も進む中で、キャッシュレスに移行することで、ATM等の活用機会を減らすなど、生活面での負担を減らすことにもつながるといふふうに予測をしております。

将来的には、マイナンバー連携による公共サービスを提供できるようになることで、公共の福祉に資するものと考えております。

このことにつきましては、当該事業のコンソーシアムメンバーの京都銀行様と同調しているところでございまして、京都府全体で様々な検討が行われているところでございます。

今後も、全てのコンソーシアムメンバーとの連携の下、地域通貨の導入による社会変革に、それぞれの立場で取り組んでいくこととしているところでございます。

また、町営バスなどの公共交通の料金や様々な手数料等の支払いも可能になることも視野に入れてございまして、清算事務等に係る人件費の低減等にもつながるといふふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○1番（山崎裕二君） 3つ目です。

フィジビリティ・スタディ（実行可能性調査）の一環として、アンケート調査を実施するなど、Pay Payなどの民間によるキャッシュレス決済の町内での普及状況の把握はできているのか。民間のキャッシュレス決済が、町内において十分に浸透・波及していない段階であるならば、そもそも論として、地域通貨事業は何を意義とし、いかなる層をターゲットとしているのか、お示してください。

○議長（梅原好範君） 堀企画情報課長。

○企画情報課長（堀 友輔君） Pay Payの町内導入の状況については、町内のおおむね3割程度の普及率にとどまっているというふうに捉えております。

民間のキャッシュレス決済につきましては、加盟店に対して決済時の手数料が発生するとともに、事業者の不安感等も解消できないことから、行政が一定の負担を行いながら、地元の金融機関や商工会等と連携しまして、普及を図ることで、普及率を高めたいというふうに考えております。

ターゲットは、住民はもちろんのこと、関係人口や定期的に町に訪れ滞在する事業者でござ

ざいます。

調べによると、10代から30代にかけては、キャッシュレス決済の対応がないことで、購入を諦めたことある割合が過半数を超えており、特に20代では59.5%と非常に高い状況であることが分かりました。

このことから、キャッシュレスの導入が進まないと、事業者の販売額や消費者の利便性についても影響があることが分かります。

こういったことから、地域通貨の導入と普及は、住民も関係人口も共に過ごしやすい京丹波町の実現につながるという意義があるというふうに考えております。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○1番（山崎裕二君） P a y P a y で3割ということですが、キャッシュレス決済の普及が町内外にいろいろ寄与するといったことがあるという話もありましたが、それがグリーンペイでなければならないという理由があるのかどうか、まだちょっとあれなので、4つ目として、先ほどもI C O C Aの話がありましたけど、例えば、I C O C Aというキャッシュレス決済が使えるように町内の施設に普及をさせる。そういったことによって、外掘りを埋めていくような形で、和知駅、下山駅、安栖里駅、立木駅にI C O C Aのキャッシュレス決済の出入口をつくるといったようなこともできると思いますし、それをすれば、地域通貨事業としても、I C O C Aの側面を支援するといったようなところでよかったのかなというふうに思ったりもします。ちょうど後ろに来ていただけてますけど、南丹市議会の一般質問を傍聴に行ったときに、彼らではなかったんですけど、ほかの議員がその質問をされるのを楽しみに聞こうとしてたら、時間が足りなくてその質問ができなかったといったことがあったんですけど、南丹市議会でも同じような問題意識を持たれて、胡麻駅までI C O C Aがあるんですけど、I C O C Aをもっと普及させるために、I C O C Aを使ってる商店とか事業所を増やして、「これだけI C O C Aを使ってもらってるんやさかいに、J Rの復便にもつながるんちゃうか、経済効果もあるんや」といったことを訴えて質問する趣旨だったとは思いますが、私もそういうふうには思いました。

そういったところから、地域通貨事業というのは運営上、スケールメリットが重要な事業と見積もります。あえて、町内限定のローカルで行おうとする意味は。

先ほど言いましたように、I C O C Aやったら町外でも使えますけど、グリーンペイは町外では使えないといったところがあります。P a y P a yでもそうですし、そういったところがあるので、ローカルで行おうとする意味について確認させてください。

○議長（梅原好範君） 堀企画情報課長。

○企画情報課長（堀 友輔君） おっしゃるとおり、地域通貨事業につきましては、スケールメリットを図ることで、利便性を向上させていくことができることから、広域の地域通貨として事業拡大していくことがコスト的な部分も含め有効であるというふうには考えております。

ただし、様々な課題もあることから、地域金融機関とともにビジョンを描き、地域DXとして検討してまいりたいというふうに考えております。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○1番（山崎裕二君） これまでからスーパープレミアム商品券事業などを紙ベースで実施してきていることから分かりますように、地域通貨事業は取扱事業者にとって、必ずしも利便性が高いものにならず、町民の皆さんほか利用者にとっても、またニーズに合致したものにならないのではないかなというふうに思います。あんしんアプリの講習をいろいろやっていただいておりますが、それでもまだなかなかハードルが高いと思われてる方もいらっしゃいますし、デザイン思考とかけ離れた押しつけ型かつ独善的な事業と言ってしまったら、身も蓋もないのかもしれませんが、化さないか心配をしております。答弁を求めます。

○議長（梅原好範君） 山森副町長。

○副町長（山森英二君） 今後のプレミアム商品券事業につきましては、デジタル地域通貨アプリケーションを利用しまして、効率かつ利便性の高いサービスを提供していく予定としております。そのためには、商工会等と連携をいたしまして、事業者と利用者の両面に向けて、利用促進を進めてまいりたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○1番（山崎裕二君） 発行するプレミアム額に限りがある以上、アプリで運用した場合、公平性が保てるかどうかとか、購入したい方がどういうプロセスで購入できて、購入できない人が出てくるのかといったところもあると思いますので、その辺もなかなか難しいのではないかなと思ったりもしています。

私にとっては追い風だったんですけど、答弁する方にとっては向かい風なのかもしれませんが、こういった事例がありました。

福知山市では、システムの維持運営経費に年1,000万円以上かかっており、また、ポイント付与などは国からの財源を充ててきており、市の独自財源で同様の運用をしていくのは困難として、2月末でキャッシュレス決済アプリの取扱いを終えます。係る判断事例は、具体的にどのような示唆を含意しているのかお示してください。

○議長（梅原好範君） 山森副町長。

○副町長（山森英二君） 今ございましたように、近隣市での取組につきましては、プレミアム商品券の発行を契機として、実施されたというふうに承知をしているところでございます。

町内の消費を促すなど、京丹波町で行う地域通貨の取組と目的が重なる部分はございますが、関係人口を含めた取組としてスタートする京丹波町の取組といたしましては、投資目的が異なると考えておまして、事業費に期待される投資効果に差異があるというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○1番（山崎裕二君） プレミアム商品券を追い風として、一気に弾みをつけようと福知山市では導入したということですが、それでもうまくいかなかったといったところが私の中には含意です。

企業版ふるさと納税による寄附金の使途、今回、この事業にも充てていただくし、今後も充て込むんじゃないかなと思うんですが、使途はどのように決めているのか。町からのプレゼンテーションによるマッチング、いわゆる営業活動は何を軸としているのか。また、十分にできているというふうに判断しているのか答弁を求めます。

○議長（梅原好範君） 畠中町長。

○町長（畠中源一君） 財源が非常に厳しい本町にとっては、事業を積極的に遂行するためには、企業版ふるさと納税というのは非常に有効な手だてだろうと考えますときに、私は、トップセールスにより、そういったことをしっかり町の課題・魅力、あるいは投資価値などを訴えかけて、企業さんと京丹波町の共同のまちづくりをお願いするということが大事だろうと思っております。

そういったこともありますけれども、私は、今、企業との連携を積極的に進めておまして、毎年のように企業訪問をして、トップの方と親しく懇談をし、お願いしているところでございます。

まだ、直接的に、ずばっと企業版ふるさと納税をお願いしますというような状況にはありません。しかし、これから、やっぱりこのことはしっかりと訴えていこうと思っておりますし、口頭だけじゃなしに、いろんな資料を持って説得するというようなことをお願いするべく、これからしっかりと対応してまいりたいと思っております。

しかし、寄附事業の選択権というのは、あくまで企業側にありますから、町の地域再生計画に記載する事業などを提示し、事業者さんが応援したい、そういう事業を選択していただ

くようにこれからしなければならぬと思っております。トップセールスは、さらにこれから積極的に進めますとともに、各課の連携を構築いたしまして、横断的な取組を進めていかなければならぬと考えております。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○1番（山崎裕二君） 今言っていたように、町長のトップセールス、それに勝るものはないと思います。来年度、2,000万円の当初予算をつけていただいておりますが、再来年度もその倍といったような形で、3年間期限の特例も延長しましたので、企業版ふるさと納税をフルに活用していただいて、子育てと教育の町であるとかそういったところの充実に共感いただいて、寄附をいただけるように願っております。

8個目としまして、地域通貨の導入に伴い、管理面や運用面のコストとして、固定費が継続的に発生します。もろもろのコストは、幾らになると見込んでおり、中・長期にわたって、持続可能となる財源の裏づけができていないのか。事業が不調に終わった場合のリスクヘッジやコンティンジェンシープラン、予期せぬ事態に備えて、あらかじめ定めておく緊急事態対応策のことですが、明確に掲げておくべきではないかと提案いたします。この点についての答弁を求めます。

○議長（梅原好範君） 畠中町長。

○町長（畠中源一君） ランニングコストにつきましては、先ほど答弁いたしましたように、年間約800万円を見込んでおります。現在、それは国費によって賄っておりますけれども、いつまでもそれが続くわけじゃないです。一般財源相当額の確保をしなければなりません。企業版ふるさと納税の募集等も行っていきたいと思っております。

後年度負担に対する財源確保といたしましては、引き続き、企業版ふるさと納税の募集を行いますとともに、ふるさと納税との連携などについても検討を行って、持続可能な取組として構築を進めてまいりたいと思っております。

さらに安定した運営に向けまして、地域経済分析をしっかりと実施いたしまして、町内の消費動向調査やアンケートも行って、そして、調査内容を踏まえた利用促進施策を具体的に検討しなければならぬと思っております。

また、この仕組みは、インターネットを介したサービスの提供であるなども踏まえまして、リスクは多種多様に発生するんじゃないかと思っておるところであります。

予測できない事態への対応として、コンティンジェンシープランにつきましても、コンソーシアムで研究を進めたいと考えております。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○1番（山崎裕二君） 聞かせていただきました。

ある総理大臣を父に持つ世襲議員が環境大臣を歴任している時に、気候変動についての質問を受けて、「何とかしなければならないと考えている。だから何とかしなければならない」と答えて、英語の同時通訳があったんですけど、「I have no idea」と訳されていました。

今回の地域通貨の行く末が、今言ったこととシンクロしないことを私は願っております。かなり危惧しておりますので、もう少し注視して見ていく事業だと思っております。

その中で、代替案として、私のコンティンジェンシープランとして、9つ目ですが、町独自の地域通貨の導入にこだわらず、民間のキャッシュレス決済との提携を手当てし、先ほど、Pay Payを使ってもらったら手数料が発生して、加盟店には手数料の分が負担になると。それであるならば、Pay Payの加盟店にキャッシュレスの手数料の分を補助するようなやり方もあったんじゃないかなと思いますし、地域への再投資を促進するスキーム、先ほどICOCAの話もしましたが、構築していくほうが利便性が高まって、800万円とか言わない、低コストかつ迅速に効果も看取できるのではないかなというふうに提案いたします。この点についての答弁を求めます。

○議長（梅原好範君） 堀企画情報課長。

○企画情報課長（堀 友輔君） 本事業につきましては、単にキャッシュレスサービスを導入しようとするものではなく、地域を限定した地域通貨を利用できるアプリケーションの導入を行うものでございます。

地域通貨アプリを導入することで、大手のキャッシュレスサービスでは取り組みにくい商店等のクーポンの発行や店舗情報等も発信できることで、関係人口により、地域の飲食店や商店等の利用を高めるとともに、住民による町内消費を促すことにもつながるというふうに考えております。

また、コンソーシアムメンバーとの連携によりまして、安心してキャッシュレスサービスを開始できる体制も構築しまして、手数料等も低減することで、加盟店も広げていけるというふうに考えております。

今後も、様々な主体との協議を行う中で、地域通貨アプリ機能の有効活用を検討しまして、暮らしやすいまちづくりを進めていきたいというふうに考えております。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○1番（山崎裕二君） 今や、数々のキャッシュレス決済の機能が付与された学生証を持っている大学生がたくさんいらっしゃいます。都会の大学に行ってるだけじゃなくて、もちろん

京丹波町から大学に通っている子も学生証を持っていますので、そういった形で同じようなものを持たれている中で、そういったやり方も、もしかしたらあったんちゃうかなと思いますし、グリーンペイといった形で一本立ちする、そして持続可能になっていく、それがそして期待する効果が現れるといったところは、なかなか私は見通せないところがありますので、最後は消極的な話になってしまったんですけど、そういったことも議員として訴えていく必要もあるのかなという形で、今回取り上げさせていただきました。どうかご容赦いただきたいと思いますが、あのときはああ言ってましたけど、ああなりましたねと言っていれば結構ですので、事業効果を発揮できるように、お互いに注視していきたいと思います。よろしく願いいたします。

以上で、私の一般質問を終わります。

○議長（梅原好範君） これで、山崎裕二君の一般質問を終わります。

これより暫時休憩に入ります。再開は13時10分とします。

休憩 午前11時55分

再開 午後 1時10分

○議長（梅原好範君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

次に、松村英樹君の発言を許可します。

11番、松村英樹君。

○11番（松村英樹君） 議席番号11番、公明党の松村英樹です。

ただいま、議長の許可を得ましたので、令和7年第1回定例会におきまして、通告書に従い一般質問をさせていただきます。

質問事項につきましては、1、消防団員の免許取得の助成について、2、防災士の育成について、3、下水道対策について、4、子ども司書の養成講座について、以上、4点について質問いたします。

畠中町長におかれましては、誠意ある答弁をよろしくお願いいたします。

まず初めに、1点目、消防団員の免許取得の助成について、質問いたします。

消防団員の皆さんは、火災や災害が発生した際には、いち早く現場に駆けつけ、消火・救助活動をするとともに、地域住民の命と財産並びに安心・安全を守るために、防火啓発活動や特別警戒などの活動に努めていただいています。

（1）京丹波町消防団の定員数は何人か。また、2月1日現在で団員数は何人か、各支団ごとに人数をお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 畠中町長。

○町長（畠中源一君）　まずもって、私のほうからお答えいたしますけれども、常日頃、消防団員の皆様方には、自らの地域は自ら守るという崇高な理念でもって、生業の傍ら、日夜を分かたずご貢献いただいておりますこと、心から感謝とお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。

あとにつきましては、担当課長からご答弁申し上げます。

○議長（梅原好範君）　田中総務課長。

○総務課長（田中晋雄君）　まず、団員定数でございますが、８５０人でございます。

それから、本年２月１日時点の団員数でございますが、団長・副団長で４名、丹波支団２８８名、瑞穂支団１８２名、和知支団１８４名、予防警防部７名、合計６６５名が在籍しております。

以上でございます。

○議長（梅原好範君）　松村君。

○１１番（松村英樹君）　ありがとうございます。

定員数８５０人、団員数６６５名とお聞きしました。

（２）令和６年度に入団された新入団員数は何人かお伺いいたします。

○議長（梅原好範君）　田中総務課長。

○総務課長（田中晋雄君）　新入団員の方につきましては、１２名でございます。

以上でございます。

○議長（梅原好範君）　松村君。

○１１番（松村英樹君）　ただいま、新入団員数は１２人とお聞きしました。ありがとうございます。

（３）防災力の強化のためには、地域における消防・防災の担い手として団員の確保が必要となります。町として、どのような団員募集の取組をされているのかお伺いいたします。

○議長（梅原好範君）　田中総務課長。

○総務課長（田中晋雄君）　これまでの入団の実績を見ましても、一般的な広報だけでは入団申し出いただくのは難しい現状であります。１つの効果的な方法といたしましては、地域で身近に活動されています地元の部長さんを中心に、毎年１２月から１月頃にかけて、それぞれ入団対象となる方に直接お声がけをいただいている、そういった状況で募集や勧誘を行っておる状況でございます。

以上でございます。

○議長（梅原好範君）　松村君。

○11番（松村英樹君） ありがとうございます。

（4）地域だけで入団を推進するのは難しいとのお声を聞いています。ケーブルテレビや広報誌などを活用して、団員の募集啓発をする考えはないか伺いたします。

○議長（梅原好範君） 田中総務課長。

○総務課長（田中晋雄君） これまでからも、自主放送番組でありましたり、広報誌等を通じた募集をはじめ、募集に際してはチラシを町で作成するといったことも含めまして、様々な機会を通じて募集を行っていききたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 松村君。

○11番（松村英樹君） （5）本町の消防団にある小型ポンプ積載車と消防ポンプ自動車の台数を支団ごとにお伺いたします。

○議長（梅原好範君） 田中総務課長。

○総務課長（田中晋雄君） まず、消防ポンプ自動車が各支団で1台ずつございまして、3台ございます。それから、小型動力ポンプ付積載車でございますが、丹波支団に14台、瑞穂支団に14台、和知支団に18台、予防警防部で1台、合計で47台配備をしております、トータルで50台となります。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 松村君。

○11番（松村英樹君） ありがとうございます。

ただいま、合計50台ということでお聞きしました。

次に、（6）道路交通法の一部を改正する法律が、平成29年3月12日に施行され、新たに準中型自動車免許が創設されました。これに伴いまして、同日以降、普通自動車免許を取得した人が運転できる車両は、車両総重量3.5トン未満に限定されました。そのため、同日以降に普通自動車免許を取得した消防団員は、車両総重量3.5トン以上の消防ポンプ自動車を運転することができません。将来的に消防団活動に支障が生じるおそれがあると考えられます。

そこで、車両総重量3.5トン未満の普通自動車免許を取得している団員は何人か伺いたします。

○議長（梅原好範君） 田中総務課長。

○総務課長（田中晋雄君） 現時点におきまして、団員個々の免許保有実態については把握していないという状況でございますが、この年度末に行います在籍団員の活動実態確認と併せ

て、自動車免許保有状況やほかの免許等の保有状況も調査するように進めてまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 松村君。

○11番（松村英樹君） ありがとうございます。

また、実態調査ということで、確認をよろしくお願いいたします。

（7）普通自動車免許を取得している団員が、車両総重量3.5トン以上の消防ポンプ自動車を運転するには、準中型自動車免許の取得が必要となります。準中型免許が取得できる自動車学校は、この近くでは、京都湯の花自動車学校と福知山自動車学校で、教習費用は約17万円かかると、非常に高額であります。例えば、長岡京市や京丹後市では、消防団員の準中型免許の取得教習費用の合計金額の3分の2を助成しています。

そこで、本町においても、準中型免許の取得を希望される消防団員に、費用の助成をするべきと考えますが、見解をお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 畠中町長。

○町長（畠中源一君） 自動車免許の実態調査の結果によりまして、3.5トン以上の車両を配備している部の免許をお持ちの方で、普通自動車の普通免許に区分される団員数をまずは把握していくことが大事だろうと思っております。

その上で、準中型免許取得の希望とか、また府下の取組状況などを調べてまいりたいと思っております。

○議長（梅原好範君） 松村君。

○11番（松村英樹君） ありがとうございます。

今後の消防団員に支障がないように、また、団員の皆さんが安心して消防ポンプ自動車を運転できるように、免許取得費用の助成を前向きに検討していただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

2点目に、防災士の育成について、質問いたします。

近年、地震や台風・水害など多くの自然災害が頻発化、また激甚化しており、防災対策が求められています。地域社会の防災力向上のため、一人ひとりが防災・減災の正しい知識を身につけ、災害が発生したときに、避難誘導や応急手当などの適切な対応や活動ができるように、防災士の育成が重要であると考えます。

防災士とは、災害への備えと対策に関する具体的な知識や技術を習得し、社会の安全を守るために活動する人です。

日本防災士機構が開催する養成講座を受講し、試験に合格することにより、防災士として認証されます。自助・共助・協働の原則に基づいて、災害時の対応力を高めることを目的とし、どなたでも取得可能な資格です。

(1) 地域防災のリーダーとして活躍できる人材を育成するため、京都府や福知山市、亀岡市などにおいても防災士養成講座が開催されております。私と森田議員も2年前に福知山市で開催された防災士養成講座を受講し、防災士の資格を得ました。そのときに、小学4年生の男の子とお母さんが一緒に受講され、2日間の講座で一生懸命学んでいる姿を見て、防災に関する意識が高いことに感心しました。本町において、防災士養成講座を受講し、防災士の認定を受けた方は何人かお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 田中総務課長。

○総務課長（田中晋雄君） 防災士は、NPO法人日本防災士機構が認証する民間資格であります。そちらのほうに問合せをさせていただきましたところ、令和7年1月末時点におきまして、本町の在住・在勤・通学者を含めました防災士資格取得者の登録は、27名あると聞いております。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 松村君。

○11番（松村英樹君） ありがとうございます。

ただいま、令和7年1月末で27名登録されていることをお聞きしました。

(2) 住民の方に防災士養成講座の受講啓発について、どのような取組をされているのかお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 田中総務課長。

○総務課長（田中晋雄君） この件につきましては、京丹波町自主防災組織育成事業費補助金交付要綱におきまして、令和5年度から防災研修でありましたり、資格取得に関する経費を補助対象経費に追加をさせていただいております。

したがいまして、自主防災組織の代表者に対しましては、先ほど議員が申されましたような講習等の募集案内等を通知させていただきまして、周知啓発を行っておるところでございます。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 松村君。

○11番（松村英樹君） 次、行きます。

(3) 蒲生野中学校の生徒が、新聞紙を使ってスリッパを作るなど、身近なものを活用し

た防災グッズを作成し、ケーブルテレビで紹介をされていました。

そこで、防災に関心を持っておられる小学生や中学生、保護者の方に防災士養成講座の受講を推進する考えはないか伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 松本教育長。

○教育長（松本和久君） 今、ご紹介もいただきましたように、現在、町内の小中学校におきましては、安全教育あるいは防災教育ということで、災害から身を守るための学習に取り組んでおります。

ご紹介をいただきました蒲生野中学校においては、1年生の探求的な学びとして、関西大学社会安全学部、あるいは京都府砂防協会などの支援を得て、年間を通じて学習に取り組んでおります。その学習内容は、今ありましたように、2月20日の京丹波ジュニア世代の学びと提案で、議員の皆様にもご覧をいただいたことと思います。

関西大学のご指導いただいております近藤教授からは、「学んだことを、様々な人に広げることが大事」だと講評をいただき、学びを継続させること、あるいは発展させることの大切さを指導いただいております。

そういうことでもありますので、このような学習を通じまして、興味関心を持った児童生徒を対象に、発展的な学びとして、防災士を目指す取組を研究、検討していきたいというふうに思います。

以上です。

○議長（梅原好範君） 松村君。

○11番（松村英樹君） ありがとうございます。

ただいま、安全防災教育ということで、1年生の学びで、年間を通じて教育していただいているということで大変うれしく思います。また、より多くの方に防災について関心を持っていただけるように、前向きに推進をお願いいたします。

（4）桧山地域では、防災運動会を開催し、地域住民の方に土のうづくりや消火栓の取扱いなどを取り入れ、より身近に防災を感じてもらおう工夫をされています。地域社会の防災力向上を図るため、地域でのイベントや学校のイベントなどに防災コーナーを取り入れる考えはないか伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 田中総務課長。

○総務課長（田中晋雄君） イベントなどにおきましては、京都中部広域消防組合でありましたり、京都府南丹警察署で防災コーナーを開設いただきまして、広く啓発活動に取り組んでいただいているものと認識をしております。

また、各種団体でありましたり、振興会などが実施をされます防災研修におきましては、要請に応じまして、職員の派遣でありましたり、また、備蓄物資の提供などを行わせていただいております。

今後も地域ぐるみの共助の活動の中で、防災意識が高まるような取組となるように進めていきたいと思っております。

学校に関しましては、先ほど教育長から答弁があったとおりでございます。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 松村君。

○11番（松村英樹君） ありがとうございます。

各イベントなど、また防災のコーナーを取り入れていただきますと、防災力の向上にもなりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

（5）亀岡市では、防災士の資格を取得した方を対象に、相互の親睦を深めるとともに、研修・訓練を通じて知識及び技能の研さんに努めることを目的に、かめおか防災士ネットワークを設立し、フォローアップ研修会を開催されています。

本町においても、防災士の資格を取得した方を対象に防災士ネットワークを設立し、フォローアップ研修をするべきと考えますが、見解をお伺ひいたします。

○議長（梅原好範君） 畠中町長。

○町長（畠中源一君） フォローアップ研修につきましては、日本防災士機構と連携を図る中で、広域的な観点と、京都府や近隣市町との連携を含めて対応を検討したいと考えております。

○議長（梅原好範君） 松村君。

○11番（松村英樹君） ありがとうございます。

地域の防災力向上のために、防災士の資格を取得された方が、学ばれた知識や技能を生かし活躍できるように、ぜひともフォローアップ研修の開催を前向きに検討していただきたいと思ひます。

3点目に、下水道対策について、質問いたします。

今年1月28日に、埼玉県八潮市で、道路が突然陥没し、走行中のトラックが落下する事故が発生しました。今もなお運転手の捜索が懸命に続けられています。県によると、事故の原因は、老朽化により腐食した下水道管が破損し、管の中に土砂が流れ込み、地中に空洞ができたためと見られています。また、下水道管の直径が4.75メートル以上と非常に大きかったこと。下水道管が地下10メートルと深い位置にあった。下水道管周りの地盤が非常

に軟弱だったという3つの条件が重なり、地下10メートル分の大量の柔らかい土が太い管路に一気に流れ込み、それが道路の大きな陥没につながったと見られています。

下水道管の破損による道路の陥没は、全国各地で多発しており、国土交通省によると、2022年には2,600件起きており、原因の多くは老朽化による破損です。下水道管の老朽化は、全国で深刻化しており、道路の陥没がいつ、どこで発生するか分からない状況です。下水道管の標準的な耐用年数50年を超える下水道管は、今後急増することが見込まれているため、下水道管の老朽化対策は喫緊の課題であり、早急に点検・補修することが大切であると考えます。

本町の下水道管で、耐用年数を超過した管路数をお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 村田上下水道課長。

○上下水道課長（村田弘之君） 本町におきます標準耐用年数を超過いたしている管路につきましては、特定環境保全公共下水道下山処理区の中のグリーンハイツ区内の下水道管が、1974年の供用開始から50年を超過している状況でございます。

以上です。

○議長（梅原好範君） 松村君。

○11番（松村英樹君） ありがとうございます。

グリーンハイツで50年を超えるような下水道管があるということをお聞きしました。

（2）埼玉県八潮市の道路陥没事故を受けて、再発防止のため、国土交通省が下水道管を管理する全国の自治体に緊急点検を要望しています。本町において、点検の対象となる下水道管はあったのかお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 村田上下水道課長。

○上下水道課長（村田弘之君） 緊急点検の対象は、特定環境保全公共下水道の処理区内における口径が2メートル以上の下水道管路でありましたことから、本町において該当する下水道管はございませんでした。

以上です。

○議長（梅原好範君） 松村君。

○11番（松村英樹君） ありがとうございます。

本町には、こういう緊急点検がなかったということで、一つ安心をしました。ありがとうございます。

（3）下水道管の破損による道路の陥没事故を防止するため、本町の全ての下水道管路において、早急に点検を行うべきと考えますが、見解をお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 村田上下水道課長。

○上下水道課長（村田弘之君） 特定環境保全公共下水道のそれぞれの事業計画に定めのある主要な管路から、路面状況の目視による自主点検を実施しておる状況でございます。

また、農業集落排水には、このような事業計画がありませんので、特定環境保全公共下水道に準じた形で点検を行うこととしております。

以上です。

○議長（梅原好範君） 松村君。

○11番（松村英樹君） ありがとうございます。

（4）です。

下水道管の点検について、何年に何回といった頻度や点検方法についてお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 村田上下水道課長。

○上下水道課長（村田弘之君） 国土交通省令で定める排水施設の点検につきましては、主要な管渠と点検を行うマンホールを定めまして、5年に1回以上の適切な頻度で行うこととされております。

令和6年度には、特定環境保全公共下水道区域19か所のマンホールにつきまして、マンホールの中からライトを使用しての目視点検を行っております。

また、このほかに、過去にはリモコンで操作できるカメラで管路内を踏査した実績はありますけれども、管路内の特定箇所を閉塞物を緊急的に点検したもので、平時の点検での使用実績はありません。

以上です。

○議長（梅原好範君） 松村君。

○11番（松村英樹君） ありがとうございます。

5年に1回以上、点検、また、令和6年度は19か所のマンホールの点検をしていただいております。ありがとうございます。引き続き、点検等をよろしくお願いたします。

（5）ドローンを活用し、下水道管の点検をしている自治体があります。

例えば、富山市や横浜市、高知県の須崎市などでは、安全性の向上と調査エリアの拡大を目指して、企業と共同で小型ドローンを活用し、下水道管の点検調査をしています。また、豊中市では、ドローンや特殊カメラを活用した水管橋の点検をしています。

そこで、本町において、ドローンを活用した下水道管の点検を実施する考えはないかお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 畠中町長。

○町長（畠中源一君） 一般的に口径80センチメートル以上の下水道管につきましては、調査員が管内から点検を行うということが多いと言われております。水流や水位、有毒ガス等により入れない場所につきましては、ドローンによる調査も非常に有効であろうと思っております。

しかし、本町の主な下水道管の口径は、大体15センチから25センチとあまり大きくないために、ドローンによる調査につきましては、慎重に検討していくことが必要だろうと思っております。

○議長（梅原好範君） 松村君。

○11番（松村英樹君） ありがとうございます。

点検にドローンを使う自治体も少なくありません。管路の大きさや環境に合わせ、空中や水中を問わず、人が入れない危険な場所でも調査することから、活用が広がっています。下水道管の損傷箇所を早期に発見するとともに、安全性の向上及び効率的に点検ができるドローンを活用した点検について、今後、前向きに検討していただきたいと思っております。

（6）令和6年3月議会の一般質問において、京丹波町のブランドロゴなどをデザインした新しいマンホール蓋及びマンホールカードの作成を提案しました。その後の進捗状況についてお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 村田上下水道課長。

○上下水道課長（村田弘之君） デザインマンホールにつきましては、タウンプロモーションの取組の一環といたしまして、商工観光課との連携の中で、イノベーションラボに作成いただきました原案3つから、町内小学校4年生の意見も参考にさせていただきながら一つに絞りまして、現在は、マンホール蓋メーカーでの製作を進めており、間もなく出来上がるような報告も聞いております。

また、設置工事につきましては、町内5か所に年度内に設置することとして、既に発注済みということでございます。

また、マンホールカードの作成につきましては、デザインマンホールに取り組んだ時点から検討を始めておりますが、日本下水道協会が事務局となる下水道広報プラットフォームの募集に応募しまして、登録基準を満たす必要がございます。

募集はおおむね年3回とされておりますので、現地での設置完了以降、次の募集に向けて、事務を進めてまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（梅原好範君） 松村君。

○11番（松村英樹君） ありがとうございます。

作成に取り組んでいただいているということで、大変うれしく思います。

新しいマンホール蓋とマンホールカードを楽しみにされている住民の方もおられますので、また周知していただきたいと思います。

最後に、4点目、子ども司書の養成講座について、質問いたします。

子ども司書とは、図書館の仕事や本のことを学び、友達や学校、家庭や地域で読書の楽しさやすばらしさを伝える読書のリーダーのことです。

(1) 町内には、中央館、こだち図書、瑞穂分館、和知分館の4つの図書館と移動図書館めばえ号があります。これらの図書館を利用している中学生以下の子ども的人数は何人か。図書館ごとの人数をお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 西山社会教育課長。

○社会教育課長（西山直人君） 今年度、令和6年4月から令和7年2月17日までの期間について、各拠点の中学生以下（15歳以下）の子どもの利用延べ人数についてお伝えします。

中央館は301人、こだち図書は945人、瑞穂分館は87人、和知分館は171人、めばえ号が351人、延べ利用人数合計は、1,855人になります。

以上です。

○議長（梅原好範君） 松村君。

○11番（松村英樹君） ありがとうございます。

ただいま、中央館は301人、こだち図書は945人、瑞穂分館は87人、和知分館は171人、めばえ号が351人で、合計1,855人利用されているということで、大変たくさん子どもたちが利用されているなと思いました。

続いて、(2) 学校と図書館の連携事業として、京丹波町の図書館を使って調べる学習コンクール「しらべて、ガッテン！」が開催され、図書館の本や資料を活用し学習成果をまとめた作品が町内の小中学校や高校から104点と多数の出展がありました。この取組の成果についてお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 松本教育長。

○教育長（松本和久君） 学校と図書館が連携して取り組んでおります「しらべて、ガッテン！」は、本年2年目を迎えました。

1回目の昨年は、調べるに当たっての参考文献等について明確な条件を設けておりませんでした。2回目の今年度は、募集要項に「利用した資料（原則2冊以上）」を明記する条件をつけまして、その結果、昨年度よりも内容の深みのある作品が多く集まりました。

図書館との連携事業によりまして、児童生徒の探求学習の一層の深化につながっていると考えております。

以上です。

○議長（梅原好範君） 松村君。

○11番（松村英樹君） ありがとうございます。

（3）本町において、図書館のイベントや図書館を使って調べる学習コンクールなどを通じて、読書に関心を持っている子どもたちが多く感じています。

子ども司書は、2009年に福島県矢祭町で初めて誕生して以来、次世代の読書リーダーとして、地域で活躍する人材を育成することを目的に、子ども司書養成講座を開催する自治体が200か所以上あり、全国に広がっています。

例えば、大阪府堺市では、小学4年生から6年生までを対象に、子ども司書養成講座を開催し、受講した子どもたちに認定証を授与しています。

また、京都市では、東山図書館で夏休み中に子ども司書養成講座を開催しています。

子ども司書に認定された子どもたちは、図書館の様々な事業に参加し、子どもと本をつなぐ活動をしているそうです。

そこで、本町において、例えば小学校高学年から中学生を対象に、学校や地域の図書館で、読書の楽しさやすばらしさを伝える読書の推進リーダーを育成する、子ども司書養成講座を開催する考えはないかお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 松本教育長。

○教育長（松本和久君） 図書館事業の一つとして、小中学生を対象に、一日司書体験の開催、あるいは中学校の図書室の運営に当たっています図書委員の活動支援など検討を現在しております。

また、今年度から、中学生の職場体験の受入れも検討を進めております。

ご質問の子ども司書養成講座については、図書館の整備・準備など、実施に向けて研究を進めていきたいというふうに思います。

子どもたちの読書への関心を高めることは、図書館の重要な使命の一つであると考えておりますので、引き続き、取組研究をしていきたいと思っております。

○議長（梅原好範君） 松村君。

○11番（松村英樹君） 読書に関心を持っている子どもたちが子ども司書になって、学校や地域において、読書の楽しさやすばらしさを多くの人に伝え、次世代のリーダーとして活躍してほしいと願います。

また、将来、図書館司書として働きたいという子どもたちの夢の後押しにつながればうれ
しいと思います。

どうか住民の皆さんのお声を大切に、政策が実現できますように、ぜひとも前向きな検討
をお願いしまして、私の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（梅原好範君） これで、松村英樹君の一般質問を終わります。

次に、山崎眞宏君の発言を許可します。

2番、山崎眞宏君。

○2番（山崎眞宏君） 議席番号2番の山崎眞宏です。

議長より発言の許可を得ましたので、発言させていただきます。

今回は、7項目挙げております。

事項1、大阪・関西万博の見学について、事項2、SDGs活動プラットフォーム事業に
ついて、事項3、図書館機能移転について、事項4、役場庁舎建物の管理について、事項5、
環境問題について、事項6、職員の人材育成について、事項7、有機農業についての7項目
について、質問させていただきます。

まず、事項1の大阪・関西万博の見学について、お伺いたします。

この質問を考えているときに、まず顔が浮かんだのが松本教育長です。町長の顔はちょっ
と浮かばなかったんですが、教育長がいつもにこっとして答弁していただくので、どうして
も教育長の顔が浮かんだということになります。

昨年3月議会でも、大阪・関西万博の見学について質問させていただきました。いろい
ろな問題もありましたが、いよいよ4月13日（日曜日）から10月13日（月曜日）まで開
催されますことから、もう一度、確認の意味も含めて質問させていただきます。

私たちの命は、この世界の宇宙・海洋・大地という器に支えられ、互いにつながり合っ
て成り立っている。その中で人類は、環境に応じた多様な文化を築き上げることにより、地球
の至るところに生活の場を拡大してきた。今回の万博の開催理念としては、「いのち輝く未
来社会のデザイン」とされています。人々が協力し合い、未来社会に向けて共に歩むことを
目指すもので、人類の繁栄と持続可能な未来に向けた貢献を表現されています。

また、テーマも、「いのち輝く未来社会のデザイン」であります。テクノロジーやイノベ
ーションを活用して、全ての人々が平和に活躍できる社会づくり、未来の課題に挑戦し、解
決策を共に探るといった目的が込められています。簡単に言いますと、いのちや未来に対する
理解を深め、共生社会の実現に貢献することを目的とされていると思います。

そこで、まず1点目の質問ですが、本町の町立小学校・中学校及び府立であります、地

元の須知高等学校における関西万博の見学予定についてお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 松本教育長。

○教育長（松本和久君） これまでにもご質問いただいておりますが、最終的な参加の状況についてお答えをいたします。

本町の小中学校における大阪・関西万博の参加につきましては、小学校は4年生以上が、中学校は全学年が参加することとしております。

また、須知高校につきましては、全学年が参加される予定であると聞いております。

以上です。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○2番（山崎眞宏君） 次です。

小学校・中学校における見学方法はどのように検討されているのか、学校の規模にもより異なるかもしれませんが、学校単位なのか、または各学校における学年単位なのか、それ以外の方法なのか、見学方法をお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 岡本教育次長。

○教育次長（岡本明美君） 見学方法につきましては、各小中学校とも各学校単位での参加を予定しております。

そのうち、丹波ひかり小学校におきましては、小学校4年生と5年生のグループと、そして6年生のみのグループに分けて、2日間で参加する予定としております。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○2番（山崎眞宏君） （3）です。

見学実施に当たり、移動手段はどのように考えておられるのかお伺いいたします。

例えば、中学生ともなれば、電車で行くことも可能だと考えます。小学生の場合も、学年によっても異なりますが、貸切りバスやその他電車等の移動手段についてお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 岡本教育次長。

○教育次長（岡本明美君） 移動手段につきましては、小中学校全校とも貸切りバスを利用する予定としております。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○2番（山崎眞宏君） 多くの方が来場される。また、インバウンドの来場も多くあるのではと予想されております。大変込み合っているのではと考えたときに、引率についてはどのよ

うに考えておられるのか。例えば、万博協会のボランティアの利用や添乗員を増やす方法など、どのように考えておられるのかお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 岡本教育次長。

○教育次長（岡本明美君） 引率につきましては、現時点では、各校の教職員が同行する予定としております。

引率者数につきましては、各校の規模や参加人数、また、配慮を要する児童等の有無によって異なりますが、各校とも、安心・安全に参加できる体制を確保する予定としております。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○2番（山崎眞宏君） 先ほども言いましたが、場内が大変混雑していることを想定すると、昼食を取る方法も検討する必要があると考えます。場内の飲食店を利用することも可能でしょうが、先ほど言いましたように、混雑が予想されるので、混雑状況により見学行程の時間割がスムーズに行かなくなることも想定できます。そうなお弁当の持参が無難であると思いますが、昼食を取る場所の確保が必要になります。会場のシンボルであるリングと言われる大屋根の下が利用できるかなど、事前の下見調査をされる予定はあるのかお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 岡本教育次長。

○教育次長（岡本明美君） 全校、下見を予定をしております、既に日時の予約も行っている状況でございます。

また、4月から5月に参加予定の学校につきましては、万博協会におきまして、開幕前の4月初旬に予定をされております「テストラン」を活用した下見も可能とされておきまして、そういった機会も活用しながら、入念な情報収集を図ることとしております。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○2番（山崎眞宏君） 次に、（6）です。

町民に対する予定は、前回お聞きいたしました際の答弁では、京都府とも連携しながら対応を検討しているとのことでありましたが、その後検討されたのか、検討結果はどのようになったのかお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 畠中町長。

○町長（畠中源一君） 町民の皆様方の参加につきましては、検討いたしましたけれども、申し訳ないですが、国・府等の支援もございませんし、そういうことで、町が関わるイベント

等のスケジュールをお知らせしてまいりますので、それぞれにどうかご参加いただきたいと考えております。

しかし、万博というのは、やはり近くで行われる世界的規模の大きな大きなイベントでございますので、この機会というのは、町の振興にとっても大きな機会と捉えるべきであろうと。そういったときに、町としての万博の取組は、会場において、京丹波町の伝統芸能とか食を発信いたしまして、そして、着地型観光などを紹介するなどによりまして、京丹波町の新たな人の流れを生み出したいと考えております。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○2番（山崎眞宏君） 一応検討していただいたんですが、ということです。想定してまして、多分されないだろうなどは思ってました。ただ、先ほど言いましたように、引率の人数が多ければ多いほど安心だと思えるんですね。例えば、児童生徒の親御さん、家庭の方とかを引率として一緒に行っていただくとなったときに、町が負担をすれば、それは町民の参加という形にも取れるかなというのも一つ考えてましたので、また検討することがあれば、していただけたらと思います。

今いろいろお聞きいたしましたことは、まずは、子どもの安全を最優先していただくことを一番に考えての質問でありました。いろいろ考えていただいており、安心して子どもたちも行けるのではないかと思います。

それでは、次の質問に入ります。

（7）です。

今回の大阪・関西万博の閉会後に、各パビリオンや施設で使用された資材や備品が譲渡されるとの情報があります。私の知るところでは、「万博サーキュラーマーケットミャク市」というのがあります。その概要としては、①施設等の移築、②建材・設備のリユース、③什器・備品のリユースで構成され、入札もあるが、移築先が自治体の場合は、地域活性化計画などの活用により、無償譲渡、公募入札で決定するが、公共団体での利用を優先、一部だけの移築対応も可能などの情報を得ております。本町で有効利用できるものを受け入れることは検討されるのか。

例えば、以前に和知地区のグラウンドで夏場、日陰がなく、暑さ対策を要望され、テントの購入もされたようではありますが、その他の地域でも同じような要望があれば、日陰になるようなひさしなどを有効利用できると考えます。

また、本庁舎の大会議室のいすについても、キャスターがついており便利なんですが、高齢者の方が座ろうとしたときに動いて座りづらいという意見も聞いております。例えば、そ

れに代わるようなものがあるんだったら、またそういうことも一部追加することも可能ではないと思います。譲渡、リユース等についてはどのように考えておられるのかお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 松山総務部長。

○総務部長（松山征義君） 大阪・関西万博で使用された施設、資材及び設備等の再利用につきましては、万博閉幕後の資源循環、有効活用の観点から、有効な取組であると考えておりますけれども、現時点におきまして、本町での活用計画はございません。

今後、主催者からリユース品として提示されました資材等の中で、町の施設で活用ができるものがある場合は、別途検討したいと考えております。

以上です。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○2番（山崎眞宏君） 松山部長も万博に行っていたら、これは京丹波町で使えるなどいうのを見てきていただけたらと思います。

今、大阪・関西万博について、いろいろ答弁いただきました。2026年、来年秋には、京都府南丹広域振興局（亀岡市・南丹市・京丹波町）の管内一帯で催される全国都市緑化フェア in 京都丹波があります。万博終了後には、3市町の出展内容を再活用するプチ万博の開催も計画されているようです。大阪・関西万博を契機に、全国都市緑化フェア in 京都丹波を成功させ、一人でも多くの方に京都丹波地域に訪れてもらえるよう願います。

また、子どもたちには、亀岡市、南丹市にも目を向け、そして、自分たちの町、京丹波町にもこんな魅力があるということを再認識できる機会にもなることも一言付け加えさせていただきます。

次に、事項2のSDGs活動プラットフォーム事業について、お伺いいたします。

1点目です。

町内でのSDGs活動プラットフォームの認知度と浸透率について、現在、町内においてSDGs活動プラットフォームがどれだけ浸透していると考えておられるのか。ホームページアクセス数、利用者数、認知度など具体的な数値データをお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 堀企画情報課長。

○企画情報課長（堀友輔君） 町内に限定をしました数字を申し上げますと、会員として10名登録をしていただいております。

プラットフォーム事業への参加者につきましては、現在募集中の取組も含めまして、令和6年度は98名の参加を見込んでおります。

ホームページへのアクセス数につきましては、町内に限定した集計は難しいことから、全

体数で申し上げますと、令和6年3月末の運用開始から9,889回の接続回数となります。

認知度につきましては、まだまだ高くないというふうに認識をしております。広報やあんしんアプリの効果的な活用や、連携のある企業や大学等への発信を行うとともに、共催イベントなども企画するなどにより、活性化を図っていきたいというふうに考えております。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○2番（山崎眞宏君） 次です。

SDGs活動プラットフォーム導入後、地域活動やイベントの参加者数が増加していないと感じる状況が見られますが、参加者増加に向けた具体的な対策を講じておられるのか。また、講じた結果、どのような効果があったのかお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 堀企画情報課長。

○企画情報課長（堀 友輔君） 地域SDGs活動の参加者は、開催ごとに多い少ないはございますけれども、収穫体験や地域活動につきまして参加いただいているところでございます。

今後は、広告用ポスター等も製作しまして、デジタル地域通貨ポイントとの連携を契機とした情報発信を進めるとともに、移住ツアーなどと組み合わせたイベントを開催しまして、京丹波町と関わりを持ちたい方とのつながりを深めてまいりたいと思っております。

効果としましては、参加者の約5割はリピーターとなっていただいております。着実に関係人口が増加しております。

また、滞在型の地域活動を通じまして、大学生との地域のつながりが生まれたり、農業体験等に参加された方からの広がりや、新たな参加者へのつながりも生じ始めておまして、引き続き魅力あるイベント等を開催することで、地域の活性化につなげていきたいというふうに考えております。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○2番（山崎眞宏君） 次、3点目です。

周知活動と町民への情報提供方法について、このプラットフォームの認知度が低い要因の一つとして、周知活動の不足が考えられますが、現在ホームページやチラシ配布以外にどのような方法で町民や企画者側・利用者側に情報提供を行っておられるのか、具体的な取組をお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 山森副町長。

○副町長（山森英二君） 活動主体の増加に向けましては、住民自治組織の協議会や地域団体等の要請等で、説明会等を開催をしております。

これによりまして、一部の住民自治組織においては、滞在型の地域活動が開催されまして、

7名の方の参加がございました。

事業実施には至っておりませんが、他の地域でも検討を進めていただいているというふうにお聞きをしております。

今後につきましては、区長会等において事業の説明を行いまして、地域活動の増加に取り組んでまいりたいというふうに思っております。

また、企業等とも連携をいたしまして、共同で取組等も検討していきたいというふうに考えております。

一方、プラットフォームの利用者や参加者の増加につきましては、情報発信等についての見直しをすることといたしまして、これまでの手法に加えまして、ファンクラブの増加に向けた取組との連携や、様々な媒体に積極的に取り組んでいきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○2番（山崎眞宏君） 次、（4）です。

テストマーケティング結果と事業の成否判断について、現状のテストマーケティングの結果を見る限り、事業が失敗したと判断される要素が多く見受けられます。無駄な税金支出を防ぐためにも、この事業の効果をどのように評価されるのか。何を達成することで事業効果があったと判断されるのか。

また反対に、事業計画時において、どのような状況になれば事業撤退を行うと視野に入れ、本事業を計画された事業構想時の内容をお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 畠中町長。

○町長（畠中源一君） 本事業の目標は、関係人口の増加と活躍による地域の活性化でありまして、K P Iにつきましては事業の実施による関係人口の増加を設定いたしております。3年間の累計で500人を設定しているというものであります。

このプラットフォームの運用につきましては、京丹波町地域SDGs活動推進協議会、これは産業界とか学術、あるいは官、また金融、労働、観光、そういった方々で成り立っておりますけれども、そういう協議会の中で協議を行っているところであります。

4年目以降の目標数値でございますが、本協議会の中で検討していきたいと考えておりますし、事業実績に基づいて、改善点を議論し、そして持続可能な取組にしなければならないと思っております。

事業の終了時期につきましては、地域課題が解決するなど、当該事業が役割を終える時点

であると考えておりますけれども、そういったことの見極めも含めまして、しっかりと協議会において判断しながら事業を実施し、官民共同でまちづくりを行う自治体として、京丹波町の価値も高める必要があると思っております。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○2番（山崎眞宏君） いろいろ厳しいことを聞きましたが、ありがとうございました。

次に、事項3の図書館機能移転について、お伺いたします。

まず、1点目です。

昨年来、多くの議員から中央図書館の移転の話が出ております。移転に対して反対するものではありません。町民の方が本に少しでも親しまれる機会が多くなることは歓迎いたします。ただ、移転される理由は、丹波地域開発株式会社の丹波マーケス内の空き店舗対策としてなのか。それとも現在の中央図書館、中央公民館の建物の老朽化、構造上の問題に対する対応なのか。移転される理由をお伺いたします。

○議長（梅原好範君） 西山社会教育課長。

○社会教育課長（西山直人君） 図書館中央館が入っております中央公民館は、昭和49年9月の建設で、建物、設備を含め老朽化が進み、様々な支障が出てきております。

令和5年度に策定した社会教育施設の長寿命化計画に基づきまして、対応を検討しているところです。

こうしたことから、図書館中央館の設置場所について、検討を始めたところです。

そして、図書館機能を移転することの調査・検討の中で、例えば宮津市の事例などに見られるように、民間施設への公共機能移転という時流を捉え、人口減少や新規設備投資の管理リスクの軽減、町民生活の利便集約・向上としての課題を総合的に解決することを目的として、官民が連携する丹波マーケス内移転が発案されたところでございます。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○2番（山崎眞宏君） 次です。

丹波マーケスは、基本的に商業施設であると認識しております。一部はコミュニティスペースとしての機能もありますが、現在の中央図書館の図書機能を全面的に移転するに当たり、スペース、床面積などの問題はないのか。中央図書館の施設面積は563平方メートルと聞いておりますが、移転先と考えておられる場所が丹波マーケス内のどの辺りになり、また、その面積は何平方メートルになるのかお伺いたします。

○議長（梅原好範君） 片山商工観光課長。

○商工観光課長（片山 健君） その件に関しましてですけれども、現在、庁舎内で部署を横断的に組織しております「丹波マーケス公共機能活用検討チーム」というのがありまして、そこにおきまして、図書館機能と併せまして、その他の行政機能も併設が可能かどうかなども含めて、広く検討を始めているというところでございます。

つきましては、今おっしゃいました規模ですとか、内容ですとか、移転先の詳細な場所、キャパシティー、こういったことを総合的に検討して、今後、決定していくものと考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○2番（山崎眞宏君） 今の答弁を聞きますと、次の質問をしていいのかどうか分からないのですが、一応してみます。

その面積に対して、町が丹波マーケスに支払うテナント料は幾らになるのかお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 片山商工観光課長。

○商工観光課長（片山 健君） ということは、こういう答弁になるんですけども、今後、公共機能移転の内容とか規模が決定をしまいりますが、その際には、どういった利用の対価の拠出があるかですとか、実勢に即した、適正な算定に基づく協議を実施していくものと考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○2番（山崎眞宏君） 先ほどの答弁の中に、ミップルですか、あそこの商業施設もということですが、全然規模が違いますよね。丹波マーケスに入るというのは全く無理があるような気がします。それなら新しく建てられてもいいんじゃないかなとも思います。

質問ですが、先ほどの質問でも言いましたように、丹波マーケスは基本的に商業施設であると考えます。もともとその発想であそこはできてると思います。その場合、フードコート周辺にも空き店舗がありますが、これらも一旦町が借り上げて、町内のサークルで活躍されている方や町民が活躍ができる店舗として貸し出しをすることは考えないのか。最近はやりのおにぎりのお店だとか、モーニングサービスが食べられるお店だとか、手軽に利用できる場所として利用する方法もないかと考えます。

以前、議会の委員会で視察に伺った先で、高齢者の方がレストランを運営されるところで昼食を取らせていただきました。高齢者の方の生きがいの場になっている。働きがいがある

んですということもおっしゃっておられました。町が勧誘する場合、福祉とは言いませんが、町民の方々が参加し、活躍ができる場所の提供も必要と考えますが、その点に対する見解をお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 畠中町長。

○町長（畠中源一君） 私も、宮津市のミップルというんですか、商業施設の中に開設されている宮津市立図書館を見に行ったことがあって、よく知っておるわけですが、もともとやっぱり規模が違うんですね、本町の図書館と。また機能も違うと思います。随分立派な図書館でございました。ただ、私たちのこの町には、町に見合った規模・内容の図書館を設置する必要があると思うときに、それなりの丹波マーケスのキャパシティとも合わせた中で、最大限何ができるのかをしっかりと検討する必要があるかと思っておるところでございます。

そして、また、フードコート内の中に空き店舗が発生していることは、承知をいたしております。

ただ、空き店舗があるということは、利益がなかなか上がらないということで、テナント探しに丹波地域開発株式会社が常に不断の努力を重ねられているということもお伺いをしているところでございます。今後、そのようなことがどうなっていくかも、やっぱりずっと見ていかなければならないと思います。

ご提案にある空きテナントの活用方法なども、町民が集う新たなにぎわい拠点とする考え方に即したアイデアの一つと考えておまして、検討チームによる調査・研究の議題としてまいりたいと考えておるところです。

商業と公共施設を融合させることによって、新たなにぎわいをつくりたいというのは、私どもの大きな狙いであることは事実です。

いずれにいたしましても、公共機能移転の可能性というのは、丹波マーケスを運営する丹波地域開発株式会社の協力が不可欠でありますので、今後しっかりと協議を重ねてまいる必要があると思っております。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○2番（山崎眞宏君） 初めに言いましたように、特に反対するものではないので、いろいろ検討していただいて、町民の皆さんが本当によかったなと思ってもらえる方向を探っていただきますようお願いいたします。

○議長（梅原好範君） 暫時休憩します。

休憩 午後 2時10分

再開 午後 2時10分

○議長（梅原好範君） 再開します。

山崎眞宏議員、続けて発言をお願いします。

○2番（山崎眞宏君） 次の事項4の質問に入ります。

役場庁舎建物の管理について、お伺いいたします。

まず1点目ですが、このことにつきましても以前質問しておりますが、町民の共有財産として愛され、集い、そして、安心安全を守る防災拠点となる町民のための庁舎を基本理念としている。そのことから、末永く利用できる状態を維持することは、今使用している立場の者として責任があると思います。庁舎正面の大屋根の横といからの雨水のオーバーフローについて、どのように対処されたのか。昨年業者の工事が行われていたようにも思いますが、改善されたのか。改善できたのか。改善できたのであれば、その施工方法、どのような対策が取られたのかお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 山内財政課長。

○財政課長（山内明宏君） 庁舎正面大屋根の雨水漏れの改善策としまして、昨年9月に実施しました、議会棟の屋根改修工事に合わせまして、落ち葉等の詰まりを予防する蓋の撤去を試験的に行いましたが、蓋撤去の直後にゲリラ豪雨が発生し、軒といからの雨水あふれがひどかったため、再度、撤去した蓋を元に戻して、現在、注視している状況でございます。

その後、滝のような落水はないものの、軒といの一部から、通常の雨でも落水が生じている現象となっております。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○2番（山崎眞宏君） 次、（2）です

落ち葉の網を取り付けた、取り付けないということがあるんですが、まず、基本的に設計上問題がないのか。施工上の問題がないのか。原因をお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 山内財政課長。

○財政課長（山内明宏君） 現在、施工者、設計監理者を含めた3者で、原因調査及び対策方法を検討中ではありますが、改めて放水試験等を実施した上で、適切な対策方法を考えてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○2番（山崎眞宏君） 次、（3）です。

議会棟の外壁にクラック（ひび割れ）が当初より発生しております。補修されておりますが、以前よりひび割れがひどくなって、範囲が広がっているようにも見えますが、問題は起きていないかお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 松山総務部長。

○総務部長（松山征義君） 議会棟の外壁クラック補修痕につきましては、施工段階で生じたクラック補修の処置部分が、外壁仕上げ面より盛り上がった状態となっており、目立つ状況にあることを確認をいたしております。

施工者及び設計監理者におきましても、以前から状況を把握しておりまして、構造安全上、防水上の緊急的対応が必要な状態ではないことを確認をされております。

しかしながら、美観上の対策が必要であるため、本年5月末を目標に、再度の補修工事を実施する予定といたしております。

以上です。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○2番（山崎眞宏君） 次に、事項5の環境問題について、お伺いいたします。

昨年来、こちらでも質問が出ておりますPFASについて、まずお聞きいたします。

PFASは、環境中にも非常に低い濃度で存在し得るもので、種類も1万種類以上あるとも言われております。全ての化合物を検出することが難しく、代表的な化合物を対象として調査をしているとの認識をしておりますが、土壌や地下水に長期間残留することから、その追跡や除去が難しいとも言われております。また、一部のPFASは、生物の体内に蓄積しやすいとも言われておりますことから、町民の方からいろいろ質問されることがありました。そこで、町民の方に安心していただくためにお伺いいたします。

まず、1点目ですが、PFASの一種で問題になっているPFOA及びPFOSについて、猪鼻川で検出された検査結果データをお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 大西住民課長。

○住民課長（大西義弘君） 町におきまして、今年度3回のPFOS・PFOAの検査を実施しております。結果といたしまして、PFOSとPFOAの合計値になりますけれども、断定指針値1リットル当たり50ナノグラムに対しまして、令和6年6月5日採水分で67ナノグラム、2回目は、8月1日採水分で71ナノグラムでございます。そして、3回目は、令和7年1月24日採水分で、暫定指針値内の34ナノグラムございました。

以上です。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○2番（山崎眞宏君） 発生源と言われている瑞穂環境保全センター内での土壌に対する検査は実施されているのか。また、それに対する聞き取り及び要望等は行っておられるのかお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 大西住民課長。

○住民課長（大西義弘君） 現在、国において水道水は暫定目標値として、また、河川水等は暫定指針値として、それぞれ暫定値が設けられていますが、土壌につきましては、科学的知見が十分でなく、こうした目標値や指針値がないため評価ができないところでございます。

こうしたことから、土壌検査につきましては、町から実施の要望はいたしておりません。

また、京都環境保全公社におかれましても、現時点では、土壌検査は実施されていないとお聞きしております。

以上です。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

次、（3）です。

本町として、独自に猪鼻川下流域の水質検査を実施されたのか。実施されているのであれば、場所とデータ、問題の有無をお伺いいたします。実施しておられないなら、されない理由をお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 大西住民課長。

○住民課長（大西義弘君） 本町独自のPFOS・PFOAの検査につきましては、先ほど3回の検査の結果をお知らせさせていただいたところでございます。

検査箇所につきましては、環境保全公社の放流口から約500メートル下流の地点でありまして、従前から町が年1回、水質に係る健康項目や生活環境項目の検査を実施している場所でございます。

検査結果につきましては、1回目、2回目は、先ほども申しましたように、国の暫定指針値を上回っておりましたが、3回目は、暫定指針値を下回ったところでございます。

引き続き、京都府の助言等もいただきながら、令和7年度においても複数回の水質検査を実施し、経過を観察してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○2番（山崎眞宏君） 次です。

瑞穂環境保全センターから排出された土砂が中台と下大久保の2か所に移動され埋め立てられていますが、移動された土についても問題はないと確認が取れているのか。また、当該

箇所の下流域の水質に問題はないと確認されているのかお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 大西住民課長。

○住民課長（大西義弘君） ただいまの件につきましては、町の工事ではないことから、それぞれ直接確認は取っておりませんが、供用中であります第2期までの保全計画埋立地と現在工事を進められております第3期の埋立地とは、尾根で分かれていること、また、埋立地の地下層は、地下水を通しにくい不透水層であることから、第3期保全計画埋立地工事場所から搬出されている土砂に影響があるとは考えられないということを環境保全公社から伺っておる状況でございます。

以上です。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○2番（山崎眞宏君） 次に、町内のその他の埋立て箇所について、例えば自然運動公園横の養鶏場跡など、周辺に対する汚染や排水路の管理等、問題は発生していないのか。問題は確認されていないかお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 大西住民課長。

○住民課長（大西義弘君） 現時点におきまして、汚染や管理等に関する苦情等は聞いていない状況でございます。

以上です。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○2番（山崎眞宏君） 次に、6点目の質問です。

資源リサイクル関連業者の進出計画について、お伺いいたします。

町内のリサイクル業者の方と話をしていると、丹波地区にできた同系列と思われる業者が本町にあと2か所進出を計画されているようであるとの話を聞いておりますが、町としてそのような情報は入手されているのかお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 木南健康福祉部長。

○健康福祉部長（木南哲也君） 京丹波町民の安全で快適な生活環境を保全する条例に基づきまして、廃品の集積場または解体場を設置する場合には、指定作業場として届出の義務があることから、設置に関する相談があった場合は、届出書類の確認により、必要な指導等を行っているところでございます。

進出計画については、個別案件につき、答弁は差し控えさせていただきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○2番（山崎眞宏君） 次、7点目の質問です。

以前にも提案がありましたスクラップヤードの設置を許可する条例の制定を提案いたします。市場経済の中で、民有地における自由な企業活動、企業立地推進の観点から、制限をかけることは基本的に難しいと考えているとのことでありましたが、制限をかけるのではなく、スクラップヤードの設置を許可する条例の制定を提案いたしますが、見解をお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 畠中町長。

○町長（畠中源一君） この件につきましては、昨年9月議会で山崎裕二議員からご質問を賜っております。

全国的な課題として、基本的には法律による対策や規制が必要と思っております。

引き続き、府内の状況などについて、京都府と情報交換しながら、法制化などの要望を検討していきたいと思っております。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○2番（山崎眞宏君） 次に、質問事項6の職員の人材育成について、お伺いいたします。

1月下旬に、新聞報道で、2024年度の京都府の自治体が地方公務員の給与水準で、芦屋市に次ぐ全国2位であるとの報道がありました。本町は、京都府内では下から2番目で低い水準でありまして、上位になればいいと思うんですが、そのことは一旦置きまして質問に入ります。

職員の皆さんは、日々精力的に業務に取り組んでいただいていると思います。やはり人材は育成することが重要と思います。そこで、畠中町長は、自治体の仕事に長く携わっておられることから、その経験を生かし、町長として自ら人材育成に取組は何かされているのかお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 畠中町長。

○町長（畠中源一君） 私は、人材育成というのは、本当に大事なことだろうと思っております。

そういう中で、昨年度、副町長も参加して、入庁4年目の職員と食事を一緒にしながら、職場の環境とかまちづくり、または町政策への提言などについて、積極的に意見交換をいたしました。

日頃の業務に対する思いなども、本当にコミュニケーションを取ることもできまして、やっぱり日頃の対話というのは、非常に重要でありますし、本当に有意義なことである。こういったことを、これから機会を見つけて実施してまいりたいと考えておるところでございます。

す。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○2番（山崎眞宏君） 今、答弁いただきました。

他の市では、昼食をランチミーティングという形で取られて、職員の悩みを聞いて解決したということも聞いております。町長、忙しいと思いますが、またそういう機会をぜひたくさんつくっていただけたらと思います。

次、（2）です。

若手職員の育成方法として出向がありますが、今後、他機関への出向を計画されているのかお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 畠中町長。

○町長（畠中源一君） このことも、やっぱり他流試合ということで、非常に大事だろうと思っております、効果はあります。

他の自治体も含めまして、優秀な人材確保は大変難しい状況が現在続いておりますけれども、出向や人事交流につきましては、本町職員のスキルアップあるいは様々な経験を通じて、今後のまちづくりに大いに役立つものと私は思っております。

出向の機会があれば、積極的に検討してまいりたいと考えております。

かつては、経済産業省、また林野庁に職員を派遣いたしまして、そのことが今大きな好影響をもたらしていることも事実でありますし、先ほど言いましたように、今後とも機会をつくって、国・府あるいは企業などへの出向も視野に入れて、研修機会をつくってまいりたいと思っております

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○2番（山崎眞宏君） それでは、最後の7項目めの有機農業について、お伺いいたします。

人口が減少する中で、いかに京丹波町の魅力を発揮するか、フードバレー構想とウェルネスタウン構想を一体に推進するには、町民の健康にも目を向ける必要があります。単に食の町、食材の町というだけでなく、一步進んだ農業にも着目する必要は、私は強く感じております。先ほども発言いたしました、全国都市緑化フェアの中にも、健康を押し出すウェルネス観光という言葉も出ております。

まず、昨年、12月議会で食と教育に関する質問をさせていただきました。その際の答弁は、有機野菜の栽培農家数が限られ、学校給食に提供される品目は増加していないこと。また、有機米の導入にはまだまだ課題が多くあり、導入には十分な時間が必要だとの答弁もありました。ただ、教育長からは、できれば来年度から部分的にでも有機米あるいは低農薬米

の導入については、導入できる方向で検討し、組織の中で取組を進められたらという前向きな発言もありました。

そこで、1点目の質問です。

有機食材の学校給食への導入取組の進捗状況はどのようなものであるかお伺いたします。

○議長（梅原好範君） 松本教育長。

○教育長（松本和久君） 安全・安心な学校給食に向けまして、令和7年新米から、町内産の特別栽培米を使った米飯給食を提供したいと考えております。

その特別栽培米は、町内3地域の生産者の皆様にご協力をお願いしておりますので、町内で顔の見えるという条件を生かし、小学校の食に関する体験学習も併せて実施をしたいと考えております。

以上です。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○2番（山崎眞宏君） 2点目です。

有機農業を今後拡大する際の留意点として、農家研修についての考えをお伺いたします。

有機農産物の生産拡大に当たっては、ある種の検討が必要になると思います。それは、慣行農家の方の理解と協力が不可欠という認識が必要だと思います。慣行農家の方には、農産物の安定供給を維持するという大切な役割を担っていただくことをまず理解しておく必要があると思います。

また、有機農業に関する研修は、有機農家と慣行農家の両者を対象として実施することが大切だと考えます。

以上の2点により、慣行農家は、安定供給を維持しながら、有機農業の技術面も学ぶことができ、理解も生まれ、今後は少しずつ農薬の使用回数と化学肥料の使用回数を減らした、より安心・安全な農産物の提供をしていただける可能性が生まれます。

農家の方と話していると、農家も、できれば農薬を使いたくないという本音を聞くことができます。この本音にかなった方法が両者を対象とした研修であると思います。有機農業と慣行農業の分断化が避けられ、今後、食のさらなる安全にも期待ができます。有機農業を今後拡大する際の留意点と農家研修についての考えをお伺いたします。

○議長（梅原好範君） 山内農林振興課長。

○農林振興課長（山内敏史君） 有機農業では、化学肥料を使用しない土づくりや養分の供給、化学農薬を使用することなく、植植物と共生していくなど、事前に十分な基礎知識の習得が必要であると考えます。

また、有機農産物を生産する圃場では、圃場に使用禁止剤が飛来流入しないように、防止対策を取る必要があるため、周辺の農家様と一緒に、十分な調整が必要となることも留意しなければならないことの一つであると考えております。

質問のとおり、慣行農家様と一緒に有機農業の基礎を学ぶことで、低農薬・低価格肥料の栽培への普及にもつながることが考えられます。

令和7年度において、有機栽培に限らず、作物の栽培の基本は土づくりが大切であることから、まずは土づくりについての研修会を、広く担い手様に呼びかけをいたしまして実施したいと考えております。

引き続き、農業技術者会議の活動として、継続的な研修会の開催に努めていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○2番（山崎眞宏君） 3点目です。

有機農業の啓発、広報、学習、講演会の開催について、お伺いいたします。

有機農業の本を読んでいると、有機農業は子ども世代への贈物と書かれていることをよく目にいたします。時間がかかっても、多くの課題があっても、その意義を理解し、オール京丹波で取組を望みます。その具体的な方法としては、生産者向けの農家研修は言うに及ばず、それに加えて、有機農業に関する一般向け啓発パンフレットの作成や生産者、役場職員、町民など、誰でもが参加できる開かれた勉強会や講演会の開催も行うことについてどのように考えておられるのか。

先日、フードバレー推進協議会の研修会が開催されておりましたが、その研修会もその一つとも取れますが、見解をお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 山内農林振興課長。

○農林振興課長（山内敏史君） ただいま、山崎議員からもありましたように、フードバレー協議会との連携に併せまして、学校給食への特別栽培米の導入や、明治国際医療大学との協定締結を契機に、有機農業を含む、環境に優しい農業についての土台づくりの機運醸成、裾野拡大に向けて、質問いただきました取組の実施に努めてまいりたいと考えます。

以上です。

○議長（梅原好範君） 山崎君。

○2番（山崎眞宏君） 最後に、以前にも言いましたが、皆さんご存じのダーウィンの名言の一つに、「生き残る種とは、最も強いものではない。最も知的なものでもない。それは、変

化に最もよく適応したものである」というのがあります。若者がもっと表に出て、いろいろな年代が、そしていろいろな角度から関係を持ち、明るく元気な、そのような京丹波町になることを望み、京丹波町をアピールし、今後、現在、京丹波町に住まわれている町民の方々に、住みやすくなったと言ってもらえるような施策を提案し続けることに取り組み、力を注いでまいりますことを申し上げまして、私の一般質問を終わります。

○議長（梅原好範君） これで、山崎真宏君の一般質問を終わります。

次に、畠中清司君の発言を許可します。

3番、畠中清司君。

○3番（畠中清司君） ただいま、議長の許可を得ましたので、通告書に従い一般質問を行います。

今回は、災害備蓄について、環境推進について、有害鳥獣捕獲檻について、通学路におけるグリーンベルトについて、支所の今後の在り方についての5項目について、質問をさせていただきます。

まず、1つ目としまして、災害備蓄についてであります。

災害備蓄とは、地震や風水害に備え、保管しておく食料、水、トイレなどの物資であります。

災害対策基本法は、市区町村や都道府県などによる備蓄を規定しています。政府広報では、家庭についても、最低でも3日分、できれば1週間分ぐらいの食品を備蓄しておくことが重要であると言われていています。

内閣府は、能登半島地震を教訓に、令和6年11月1日時点での各自治体ごとの災害用物資の備蓄状況を初めて調査し、公表しました。備蓄の充実を支援して自治体に十分な量の確保を促すとされています。地域ごとに人口や想定される災害が異なるため、必要な備蓄量は示していませんが、全国の合計で主食は一定量の備蓄が確認できたとしています。簡易ベッドについては、もう少し増やす必要があるとの認識を示しています。

そこで、（1）災害時には、避難所には様々な人が身を寄せ、避難所で過ごすこととなります。現在の食料と飲料水の備蓄状況は何人分と想定しているのか伺いたいと思います。

○議長（梅原好範君） 田中総務課長。

○総務課長（田中晋雄君） 本町の備蓄計画の中では、京都府地震被害想定調査結果というものを基に考えておりまして、本町における家屋の全壊・焼失等によります最大避難者数が約2,100人、それから、観光客等の帰宅困難者や災害対応者を含めた約400人、合わせまして2,500人を想定しておるといふものでございまして、被災直後1日分の備蓄物資

を計画的に整備したり、更新したりしておるというものでございます。

現在の飲食に関する備蓄状況につきましては、アルファ化米と呼ばれるものでありまして、携帯おにぎり、おかゆなどのご飯類を2食分換算で約5,000食、乾物のビスケットを1食分換算で約2,700食、飲料水は500ミリリットルのペットボトルを約7,500本、調理用の水としまして2リットルのペットボトルを約500本備蓄しています。

ほかにも、新生児や育児用といたしまして、粉ミルクでありましたり、アレルギー用の対策ミルク、それから液体ミルクを保有しています。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 畠中君。

○3番（畠中清司君） 高齢者向けの非常食としては、嚥下が難しい方のために、柔らかくて食べやすい嚥下食の準備や、栄養バランスが取れた補助食品やドリンク、それから長期保存ができる食品、乾燥野菜、レトルト食品、缶詰などとされております。

今、答弁にもありましたとおり、幼い子ども向けの非常食としては、瓶詰やパウチタイプのベビーフードは手軽で便利であって、子ども向けの栄養があり、食べやすいスナック類の用意、乳幼児用の粉ミルクやジュースを準備しておくことも大切とされています。

そこで、（2）としまして、高齢者や幼い子どもは、通常の非常食を食べられない可能性があります。対策について伺いたいと思います。

○議長（梅原好範君） 田中総務課長。

○総務課長（田中晋雄君） いわゆる災害直後の場合につきましては、やはり命を守ることが前提にありまして、こういった主食品を中心に、備蓄をしていくということにまず主眼を置いております。

その上で、比較的食べやすいおかゆでありましたり、先ほど申し上げました携帯おにぎり、それから保存期間の確保できる乾物、液体ミルクなども備蓄をしておるという状況でございます。

このような備蓄物資は、日々進歩するものでございまして、更新時には比較的食べやすいものでありまして、味の良いものであったり、そういったものを購入できるように検討しているところでございます。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 畠中君。

○3番（畠中清司君） 災害が発生してからライフラインの復旧まで、1週間以上要するケースも多いとされてます。

また、災害支援物資が3日以上到着しないことや、物流機能の停止によって、1週間はスーパーマーケットやコンビニなどで食品が手に入らないことも想定されています。

そこで、(3)としまして、各家庭においても最低でも3日分ぐらいの食品を備蓄しておくことが重要と言われていています。また、カップ麺や缶詰などの消費期限が近いものから消費して、新しいものを買って足す「ローリングストック」が推奨されています。家庭での備蓄に関して、住民への周知をどのように行うのか伺いたいと思います。

○議長（梅原好範君） 田中総務課長。

○総務課長（田中晋雄君） まず、各家庭にお配りをしております防災ハザードマップの最終ページには、非常時の持ち出し品の準備とチェックというものを掲載しております。非常時備蓄物資は、先ほど議員がおっしゃったように、最低3日、できれば7日分備蓄いただくように呼びかけをさせていただいております。

それから、自主放送番組の安心ほっとステーションの企画におきましても、非常時持ち出し品として、水や非常食を事前に準備いただくように企画もいただいております。

今後におきましても、広報や自主放送番組、京丹波あんしんアプリによる緊急情報配信訓練なども今実施をしておりますので、そういった広報媒体を通じまして、広く周知が図れるように努めてまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 畠中君。

○3番（畠中清司君） 昨年、私も、非常食を食べる機会がありまして、今答弁のあったように、菓子パン、お米、いろいろありまして、非常食を試食体験することで、防災意識が高まるということでは有効な手段であったんじゃないかなと私自身は思っています。実際に、非常食を試食することで、災害時にどのような食事が提供されるかを知って、備蓄の見直しや改善に役立てることも私はできると考えます。

そこで、(4)としまして、住民が非常食を試食する機会を各地区で設ける必要があると考えますが、見解を伺いたいと思います。そして、また、実施する計画はあるのか伺いたいと思います。

○議長（梅原好範君） 田中総務課長。

○総務課長（田中晋雄君） 地域や団体が実施されております防災研修でありましたり、避難訓練などにおきましては、備蓄物資の提供を希望されるときには、数量等には限りがございますけれども、更新計画において生じます食料備蓄品も提供させていただいておりますので、

その都度ご相談いただきたいというふうに思っておりますし、具体的に、今、いつどこでというこの実施計画はございませんが、それについてはその都度対応させていただきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 畠中君。

○3番（畠中清司君） 続きまして、2番目です。

環境推進について、伺いたいと思います。

可燃ごみの収集庫の設置及び維持管理については、地域の協力が不可欠で、地域で皆さんでやっておられます。区からの要望によって、設置や修繕なども行っているのが現状だと思います。

そこで、（1）としまして、可燃ごみの収集庫の設置について、令和5年度、令和6年度に設置場所の変更、修繕、新規設置などの事例はあったのか伺いたいと思います。

○議長（梅原好範君） 大西住民課長。

○住民課長（大西義弘君） 可燃ごみの収集庫の状況でございますが、まず、令和5年度でございます。設置場所変更が2件、修繕が20件、新規設置が3件でございます。

続きまして、令和6年度ですけれども、2月17日現在ということをお願いをしたいと思います。まず、設置場所変更が3件、廃止が1件、修繕が27件、新規設置が1件。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 畠中君。

○3番（畠中清司君） 今聞かせてもらって、毎年のように修理、変更、新規設置がある。これは、令和5年度、令和6年度に限って聞きましたけれども、令和4年度まででもそういう状況じゃないかと思っております。

それでは、（2）としまして、ごみ収集庫はどのような基準で設置となるのか。また、地区の戸数などの条件も関係しているのか伺いたいと思います。

○議長（梅原好範君） 大西住民課長。

○住民課長（大西義弘君） ごみの収集庫の設置基準でございますけれども、特に設けられているわけではございませんが、まず、各区等からの要望に基づきまして、収集運搬を行います船井郡衛生管理組合と協議を行いまして、収集ルートや近隣収集庫の排出量などを考慮いたしまして、認められたものについて設置を行っておるところでございます。

以上です。

○議長（梅原好範君） 畠中君。

○3番（畠中清司君） それでは、（3）としまして、設置場所については、了解が得られれば個人の敷地であっても可能なのか伺いたいと思います。

○議長（梅原好範君） 大西住民課長。

○住民課長（大西義弘君） 各区からの要望によりまして設置場所を調整をさせていただくでございますけれども、了承が得られましたら、個人の敷地に設置することも可能でございます。

しかしながら、所有者が変わられた後、撤去や移設等を求められることも考えられますので、十分な事前の調整が必要になるというふうには考えております。

以上です。

○議長（梅原好範君） 畠中君。

○3番（畠中清司君） 4つ目としまして、新規設置の場合に、収集車が収集に回れる場所であれば、戸数などが少なくても設置としては可能なのか伺いたいと思います。

○議長（梅原好範君） 大西住民課長。

○住民課長（大西義弘君） 先ほど答弁をさせていただきましたとおり、各区の要望に基づきまして、船井郡衛生管理組合との協議によりまして決定をさせていただいておるところでございますけれども、まずは、区内でのごみ収集庫の設置状況、区によってこれまでから様々なところもございますけれども、排出量などからどうしてもいっぱいになるのでとかいうような理由によって認められたところについて、設置をさせていただいておるといような状況でございます。

以上です。

○議長（梅原好範君） 畠中君。

○3番（畠中清司君） なぜこの話になったかという、私、この話で町内の方と話していたわけではなかったんですけども、運転ができないということで、高齢になられた方と話をしているときに、免許証の自主返納の話をしてたら、免許証を返すと収集庫へ持っていけないというようなことで聞きまして、そのため免許証を返せないというような状況も聞きまして、そして、今回、収集場所とか条件をお聞きしたので、またそちらのほうへ伝えていきたいと思っております。

それでは、3つ目としまして、有害鳥獣捕獲檻について伺いたいと思います。

住宅への侵入により食料を荒らしたり、電気配線をかじることで火災の原因になることもあり、外来種の小動物が在来種に対して競争優位に立つことで、生態系に影響を及ぼすこともあります。特に、ペットとして飼われていた動物が野生化するケースが問題視されていま

す。また、小動物が媒介する感染症のリスクも高まっています。これによって、人間の健康にも影響を及ぼす可能性があると言われてしています。小動物が農作物を食害する事案が増えていると聞いています。特に、果物、野菜に対する被害が深刻であります。

そこで、（１）町所有の小動物捕獲檻は、何基所有しているのか伺いたいと思います。

○議長（梅原好範君） 山内農林振興課長。

○農林振興課長（山内敏史君） 町で保有してあります小動物の捕獲檻につきましては、本庁で60基、瑞穂支所で25基、和知支所で40基の計125基所有しております。

以上です。

○議長（梅原好範君） 畠中君。

○3番（畠中清司君） 今、台数を聞きましたけども、捕獲檻が長期間個人宅に置かれているということを住民の方からも聞きます。

そこで、（２）としまして、捕獲檻の貸出申請方法と、貸出期間について伺いたいと思います。

そして、また、貸出期間中に捕獲できなかった場合の対応について伺いたいと思います。

○議長（梅原好範君） 山内農林振興課長。

○農林振興課長（山内敏史君） 本庁また両支所で申請を受け付けております。貸出期間は、最長1年を目安としております。

また、期間中に捕獲ができなかった場合につきましては、貸出期間を延長することは可能としております。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 畠中君。

○3番（畠中清司君） 小動物も1匹ではないので、長期間借りたいという方もあると思うんですけども、そこで、（３）としまして、貸出期間を過ぎた捕獲檻の督促などはどのように行われているのか伺いたいと思います。

○議長（梅原好範君） 山内農林振興課長。

○農林振興課長（山内敏史君） 主には、貸出者に対して電話連絡で行っているところでございます。

以上です。

○議長（梅原好範君） 畠中君。

○3番（畠中清司君） いろんな小動物もいますので、（４）としまして、捕獲可能な小動物以外が捕獲された場合の町としての対応と対策はどのように行われるのか伺いたいと思いま

す。

○議長（梅原好範君） 山内農林振興課長。

○農林振興課長（山内敏史君） 町が貸し出す捕獲檻につきましては、特定外来生物法に基づきます対策として、アライグマとヌートリアのみが捕獲対象であるため、それ以外を捕獲した場合は、申請者様で放獣してもらうこととなります。

捕獲不可能な動物、タヌキなどの小動物の対策としては、ホームセンターでも購入ができる臭いで追い払う方法であったり、ひし形金網や威嚇音、フラッシュライトの活用が手軽に行えるのではないかと考えております。

以上です。

○議長（梅原好範君） 畠中君。

○3番（畠中清司君） （5）としまして、捕獲可能な小動物については、申請者にどのように周知を行っているのか伺いたいと思います。

○議長（梅原好範君） 山内農林振興課長。

○農林振興課長（山内敏史君） 申請いただいたときに捕獲対象については、アライグマとヌートリアのみであるということを申し添えているところでございます。また、それ以外の動物を捕獲した場合は、先ほど答弁させていただいたとおり、放獣してもらうことを伝えて貸し出しているところでございます。

以上です。

○議長（梅原好範君） 畠中君。

○3番（畠中清司君） 獣害による農作物の被害というのは、農業者だけでなく、国でも問題視をされています。その被害額は200億円に及ぶとも言われています。

そこで、6番目としまして、個人が捕獲檻を購入した場合の補助金制度はあるのか。そして、また、鹿などの大型捕獲檻の補助金制度についても伺いたいと思います。

○議長（梅原好範君） 山内農林振興課長。

○農林振興課長（山内敏史君） 個人で小動物等を捕獲する際には、町の捕獲許可が必要となりますことから、個人での捕獲檻の購入に対しましては、誤った捕獲を助長するおそれがありますので、行っておりません。

また、鹿などの大型捕獲檻につきましては、農家組合様で檻の適正な管理を条件として、町が購入したものを貸与して使っていただいているような状況でございます。

以上です。

○議長（梅原好範君） 畠中議員の質問の途中ですが、これより暫時休憩に入ります。再開は

3時15分とします。

休憩 午後 2時57分

再開 午後 3時15分

○議長（梅原好範君） 休憩前に引き続き、畠中議員の質問中の4の項目から会議を再開いたします。

畠中君。

○3番（畠中清司君） それでは、質問事項4の通学路におけるグリーンベルトについて、伺いたいと思います。

グリーンベルトとは、通行車両の速度を抑制させるとともに、通行帯を明確にすることで、歩行者との接触事故を防ぐことを目的としています。通学路におけるグリーンベルトの設置は、子どもたちの安全を確保し、快適な通学環境を提供するために非常に重要であります。グリーンベルトは、ドライバーに通学路であることを認識させ、注意喚起させる視覚的な安全対策であります。

そこで、（1）町内の通学路におけるグリーンベルトの設置状況を旧町ごとに伺いたいと思います。

○議長（梅原好範君） 宇野学校教育課長。

○学校教育課長（宇野浩史君） 丹波地区では、町道蒲生西階線、町道須知実勢線及び府道富田豊田線の3路線に、瑞穂地区では、町道前田出口線、上大久保下大久保線の2路線に、和知地区では、国道27号中山地区に設置されております。

以上です。

○議長（梅原好範君） 畠中君。

○3番（畠中清司君） 必ずしも、グリーンベルト上を児童が通行しなければならないというものではないとされてますけども、そこで、（2）設置の基準を伺いたいと思います。そして、また、設置後の維持管理については、どのように行われているのか伺いたいと思います。

○議長（梅原好範君） 宇野学校教育課長。

○学校教育課長（宇野浩史君） 京丹波町通学路等交通安全プログラムに基づき、学校、PTA等から要望のある国道、府道、町道の通学路の安全対策について、道路管理者、警察、学校関係者等で構成する京丹波町通学路等安全推進会議において協議をし、実施を決定したもののについて、道路管理者が計画的に設置を行います。

また、グリーンベルトの設置後の維持管理につきましては、年数がたって表示が不鮮明になった場合、道路管理者が状況を確認し、修繕等を計画的に対処いただいております。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 畠中君。

○3番（畠中清司君） 3番目としまして、設置することに対してのメリットについて伺いたいと思います。

○議長（梅原好範君） 宇野学校教育課長。

○学校教育課長（宇野浩史君） グリーンベルトとは、歩道が整備されていない道路の路側帯を緑色に着色して、車のドライバーに通学路であることを視覚的に認識させ、車両の速度を抑制させるとともに、通行帯を明確にすることで、歩行者との接触事故を防ぐことを目的としています。

グリーンベルトの設置により、通学路の安全確保が図られます。

以上です。

○議長（梅原好範君） 畠中君。

○3番（畠中清司君） （4）としまして、来年度の設置予定はどのようになっているのか伺いたいと思います。

○議長（梅原好範君） 宇野学校教育課長。

○学校教育課長（宇野浩史君） 町道では、新たに設置の予定はありませんが、蒲生西階線において、グリーンベルトの表示が引き立つように、白線で表示する外側線等を引き直す交通安全対策工事の計画が予定されておるといふふうに聞いております。

以上です。

○議長（梅原好範君） 畠中君。

○3番（畠中清司君） （5）安全確保に向けた継続的な取組が必要と考えますけども、見解を伺いたいと思います。

○議長（梅原好範君） 宇野学校教育課長。

○学校教育課長（宇野浩史君） 今後も、京丹波町通学路等安全推進会議において、危険箇所での点検を行い、児童生徒の通学路の安全確保に努めてまいります。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 畠中君。

○3番（畠中清司君） グリーンベルトを施工する場合には、15センチ幅の白線と30センチ幅のグリーンベルトを施工しているというふうに聞いております。また、1メートル以上の路側帯が既に確保されている場合には、グリーン帯のみの施工とする場合もあると言われてます。グリーンベルトが設置されている道路は、小学校の通学路となっています。グリー

ンベルトを見かけましたら、歩行者に配慮しまして、特に注意して皆さん通行していただくようによろしくお願いいたしますと思います。

それでは、質問事項5番の支所の今後の在り方について、伺いたいと思います。

合併から20年となります。支所では、地域住民へのサービス提供や行政手続のサポートが行われており、地域の特性を生かした産業振興や観光促進にも力を入れています。また、地域コミュニティの活性化を図るためのイベントや活動も実施されています。支所の今後の在り方と運営について伺いたいと思います。

○議長（梅原好範君） 畠中町長。

○町長（畠中源一君） 合併20年目を迎え、その間の社会情勢の変化やデジタル化等に対応するため、適時、町組織の改編を進めてまいりましたけれども、瑞穂・和知両支所につきましては、地域住民への行政サービスの窓口として、また地域活性化の拠点として、その役割を果たしてきたと考えております。

今後の社会情勢の動向や住民ニーズを見極めつつ、住民サービスの確保に努めてまいりたいと考えております。

○議長（梅原好範君） 畠中君。

○3番（畠中清司君） 支所も、高齢者などの交通弱者への対応、そして、地区のシンボルである支所の存続の必要性などから、支所の継続を図ることが私自身も現時点では最良の方向と考えています。災害などの緊急時に、支所が現場に即座に対応したり、支所をもっと身近に感じてもらうために、地域の住民が気軽に支所を訪れて各種相談ができるような、支所長をはじめ、各担当者が対応し、必要に応じて、本庁の各担当へのつなぎ役となっていると思います。配置する職員全員が同様の窓口サービスを提供できるようになっており、今後においても、さらなるサービスの期待をしています。

以上をもちまして、私の一般質問を終わります。

○議長（梅原好範君） 畠中清司君の一般質問を終わります。

次に、居谷知範君の発言を許可します。

5番、居谷知範君。

○5番（居谷知範君） ただいま、議長より発言の許可をいただきましたので、議席番号5番、居谷知範の一般質問を行います。

本日、最終の7人目ということで、皆様、大変お疲れであろうと思いますが、最後までよろしく願いいたします。

さて、今回の一般質問では、1、観光施策について、2、グリーンランドみずほの再整備

について、3、選ばれるまちづくりについて、4、施政方針、特に学校教育につきまして、質問をさせていただきます。

まず、質問事項1、観光施策についてです。

コロナ禍が明けて以降、国内観光において、旺盛な需要が回復し、インバウンドがさらにその需要を引き上げている状況にあります。

本町におきましても、食や観光支援に誘客を図るべく、様々な取組が展開されておりますが、その力ある需要の恩恵は、本町ではまだ多くは受けられていないのではないかと考えています。裏を返しますと、まだまだ需要を受け入れ、観光客、ひいてはその先の関係人口を増やす余地や伸び代が多くあるのではないかと考えています。

質問事項1では、本町における観光施策を検証し、今後につなげていくための前向きな質問をしていきたいと考えています。

(1) です。

京都府が発表しております京都府観光入込客等調査報告書によりますと、本町の令和5年の観光入込客数は、414万8,301人となっており、京都府内では、京都市、宇治市に次いで3番目に多い数字となっています。これは、味夢の里などが牽引する本町特有の数字であり、この数字に基づく各種計画の策定や政策の立案は、適切ではないとは考えますが、一方で、400万人を超える観光客が来られていることもまた事実であります。

本町における観光入込客数に対する現状認識と課題を町としてどのように捉えておられるのか、見解をお伺いしたいと思います。

○議長（梅原好範君） 片山商工観光課長。

○商工観光課長（片山 健君） 京丹波町におけます観光入込客数でございます。議員から令和5年の入込客数のお話ございましたけれども、直近、令和6年におきまして、約420万人余りという数値が出ております。近年の推移を踏まえますと、一定の増加傾向が見られるというふうに考えておりますが、特定の季節やイベント時期、また特定の施設、味夢の里という話もありましたが、集中しているということも認識をしているところでございます。

現状の入込客数の多くは、やはり今申しましたとおり、道の駅への誘客となっていることから、今後は、道の駅「京丹波 味夢の里」をハブにした地域への送客、これが依然課題であるというふうに町としては認識しているところでございます。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 居谷君。

○5番（居谷知範君） 続きまして、(2)です。

先ほど（１）におきまして、観光入込客数が４００万人、令和６年は４２０万人ということであったんですが、京都府の３番目の多さであるということをおし上げました。

一方で、観光消費額に目を移しますと、本町での消費額は３７億２，１７８万円であるのに対しまして、お隣の南丹市では、入込客数が２４５万人と、本町の６割に満たない数字にあるにもかかわらず、消費額は３８億５，１６９万円、亀岡市は２７７万人に対して、７０億３，６７４万円ということになっておりまして、いかに１人当たりの消費額が少ないかということが分かるかと思えます。亀岡市につきましては、温泉地があったりとか、保津川下りだとか、サンガスタジアムなど、高単価のコンテンツもあり、単純に比較することは適切ではないとは思いますが、観光消費額及び町内周遊観光に対する現状認識と課題を町としてどのように捉えておられるのか、お伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 片山商工観光課長。

○商工観光課長（片山 健君） 観光消費額の件でございます。まず、今も議員からありました令和５年データでございますけれども、総額で３７億２，１７０万円ということになります。これは、１人当たりの客単価に直しますと、８９７円と算出をしているものでございます。これは、ご指摘もありましたとおり、買物目的の日帰り観光客が多いということが分析できるものでございまして、滞在時間の短さなどから、客単価や全体の消費が大きく伸びていないという状況があると認識をしております。

また、もう一点ございました町内周遊型観光につきましては、複数の観光スポットや体験プログラムを組み合わせた滞在を促進しようとする動きが現在進みつつあるものの、現状では限られた範囲にとどまっているという傾向があると認識をしているところでございまして、課題であると考えております。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 居谷君。

○５番（居谷知範君） 続きまして、（３）です。

本町への入込客数は、京都縦貫道や国道９号・１７３号などを利用して、京阪神やその他の地域から車で来られるお客様が圧倒的に多いというふうに推察をします。中でも、その多くが京都縦貫道を利用され、北部や南部の目的地へ行かれる途中の休憩場所として、味夢の里に立ち寄られていることが多いのではないかと思います。

先ほども答弁にありましたが、味夢の里をハブにして周遊型につなげるということがありましたが、周遊型観光につなげるため、町内３か所のインターチェンジを起点・終点として、「一日楽しめる」をキーワードとしたモデル的な観光ルートマップを作成して、味夢の里や

各道の駅などで配布するとともに、ネット上にアップしてはどうかと考えます。そうすることによりまして、当日でなくとも、次回以降の来町時に、観光の目的地として選んでいただける可能性が生まれてくるのではないかというふうに考えますが、町としての見解をお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 片山商工観光課長。

○商工観光課長（片山 健君） インターチェンジを起点・終点とするルートマップの作成ということでございます。これは、非常に観光客が町内を巡る上で、理にかなっているものと認識しております。

実は、本町におきまして、この3月に観光パンフレットのリニューアルをすることになっておりまして、これは目的別に応じた観光周遊プランを新たに作成することとしておりますし、また、今もあったとおり、その内容を、現在、既にウェブ上に公開しています「京丹波町おでかけマップ」という、デジタルマップへの反映も予定しているところでございます。

以上でございます

○議長（梅原好範君） 居谷君。

○5番（居谷知範君） 仮に、400万人のうち、1%でも町内周遊につながっていけば、4万人ということで、これは本町にとって非常に大きな数字だというふうに思いますので、積極的な取組をよろしくお願いいたします。

続きまして、（4）です。

さきに述べました令和5年度の京都府観光入込客等調査報告書を見ますと、観光入込客414万人に対して、外国人の入込客数はデータがないということになっています。分析が難しいところではありますが、現在旺盛なインバウンド需要の恩恵に、本町はほぼあずかされていないのではないかとこのように思っています。インバウンド需要に対する現状認識と、外国人の誘致における課題を町としてどのように捉えておられるのか、見解をお伺いをいたします。

○議長（梅原好範君） 片山商工観光課長。

○商工観光課長（片山 健君） インバウンド観光客は、全国的には増加をしていることはご承知のとおりでございまして、京都府におきましては、これもご承知のとおり、特に京都市に集中しているという状況でございます。

京都府域におけます広域DMOを中心といたしまして、京都市に偏りがちなインバウンド観光客を府内各地へ分散させる取組を進めていただいておりますし、本町もその流れに連携をして、あらゆる取組を進めていくということにしております。

具体的には、来年度から京都府の広域事業において、道の駅「京丹波 味夢の里」を拠点とした観光周遊事業の実施を予定しております。京都府や森の京都DMOと連携しながら、インバウンドを含む幅広い観光客の誘客を図ってまいりたいと考えております。

他方で、外国語対応ですとかキャッシュレス決済のインフラ整備といった受入れ側の環境整備も重要な課題の一つでありまして、今後も、関係機関と連携することで、魅力ある周遊コンテンツの整備とプロモーション活動を強化してまいりたいと考えております。

以上でございます

○議長（梅原好範君） 居谷君。

○5番（居谷知範君） 京都市に集中しているというお話もありましたが、僕も伊根町のほうに行ったことがあるんですが、伊根町のほうも大変なインバウンドになっておりました。逆に言いますと、ここを通過されてる可能性も非常に高いかなというふうに思いますので、またそういったところの取組も目指していけたらいいのかなというふうに思います。

続きまして、（5）です。

和知の河岸段丘などの田舎ならではの風景、神社仏閣、食、伝統文化など、本町が有する観光資源は素晴らしいものがあり、国内外の観光客にきっと満足いただけるものであると確信しています。当然ながら、来町される観光客は、様々なSNSやインターネットなどの媒体を使い、非常によく調べられてから来られているのではないかと思います。これら観光リソースの発信のため、ホームページはもとより、インスタグラムや外国人が閲覧する観光媒体を研究し、発信の強化をすべきではないかと考えますが、見解をお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 片山商工観光課長。

○商工観光課長（片山 健君） ご指摘のとおり、田舎ならではの日本の原風景とか食、伝統文化などといったものは、本町が有する観光資源として、国内外の観光客に十分満足いただける魅力的なものであるということを認識しております。

そして、外国人にも訴求する、いわゆるグローバルソーシャルメディアといったものを活用いたしまして、情報発信の強化ということは非常に重要であるというふうに考えています。

一方で、先ほども答弁いたしました、宿泊施設の不足ですとか、交通網の脆弱性といった観光客を迎えるためのインフラ整備の課題もあるということを認識しているところでございます。

今後も、効果的な情報発信とインフラ整備を両輪で進めることで、国内外からの誘客促進と地域経済の活性化に努めてまいりたいと考えております。

○議長（梅原好範君） 居谷君。

○5番（居谷知範君） オーバーツーリズムは困りものなのですが、今年は、大阪・関西万博も開催され、インバウンドは一層盛り上がるのではないかとこのように思います。少しでもそういった部分の取組につながる施策の推進を期待しまして、次の質問にまいります。

（6）です。

さきの質問でも僅かに触れましたが、和知地区の河岸段丘の眺めは、本町を代表するようなすばらしい眺めだと感じています。この河岸段丘を高所から展望できるのが中区にある「ぶらりわち展望台」なのですが、本当に分かりにくい場所にあります。案内板などを設置しPRすることによりまして、観光客にもっと分かりやすくして誘客を図るべきではないかと考えます。町としての見解をお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 片山商工観光課長。

○商工観光課長（片山 健君） 中区にあります「ぶらりわち展望台」は、和知地区の河岸段丘も含む日本の原風景を高所から一望できるという貴重な観光スポットとなっております。これは、道の駅「和」を拠点といたしました和知地区周遊圏観光協議会というところが立案・整備されたものでございます。

整備以降、現在も、順次、協議会によって整備が進められている。少しサインも整ってきているというふうに認識しておりますが、そういう中で、今後も、展望台へと誘客するための動線管理ですとかプロモーションといったようなことは、協議会と町が連携しながら取り組んでいきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 居谷君。

○5番（居谷知範君） 一層の活用を期待しております。

続きまして、（7）です。

近年の夏は、35度を超えるような猛暑が夏のスタンダードになってきておりまして、特に、お盆を中心とする夏休み期間中の観光の在り方にも変化が出てきているのではないかとこのように思います。

そこで、本町内には質志鐘乳洞公園を筆頭に、丹波自然運動公園のプール、琴滝、水遊びのできるような川、七色の木周辺など、クールスポットと呼べるべき場所も多くあります。夏の暑さを逆手に取って、これらの場所を夏の観光資源「クールスポット京丹波」として積極的にPRすべきではないかと考えますが、見解をお伺いします。

○議長（梅原好範君） 片山商工観光課長。

○商工観光課長（片山 健君） 町内には、質志鐘乳洞公園とか、今議員がご指摘いただきま

したような、クールスポットと呼ぶにふさわしい場所が多く所在しているということは確認しておりまして、夏の観光資源として大きな可能性を秘めていると認識しています。質志鐘乳洞公園には、涼を求めて来られるお客様もございます。

四季に応じた観光誘客を行う上では、明確なテーマ設定とか話題性のあるPRが重要でありまして、そうした点を踏まえた情報発信を進めていく必要があると考えております。SNSですとか観光パンフレットなどを通じまして、各スポットの魅力を発信すべく、引き続き、調査・研究を進めてまいりたいと考えています。

○議長（梅原好範君） 居谷君。

○5番（居谷知範君） これも周遊型の観光につながるものと思いますので、積極的な検討をお願いできればと思います。

続きまして、（8）、夏の次は冬です。

冬季、特に1月・2月は、本町の入込客数が最も少ない時期であることがデータからも読み解くことができます。雪や凍結の懸念もあるのではないかと思うのですが、雪や雨の多い京都北部、日本海沿岸部は、この時期、カニを目当てに多くの観光客でにぎわっています。

本町では、ジビエがおいしい時であり、郷土料理であるボタン鍋をはじめとするジビエ料理をカニに対抗すべく熱くPRして、ふるさと納税や観光客の増加を目指すべきではないかと考えます。見解をお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 片山商工観光課長。

○商工観光課長（片山 健君） 冬季は、ボタン鍋をはじめとしました、本町が誇りますカニにも勝るジビエ料理をPRする意義は大きいと考えておりますし、また、冬季ならではの魅力を打ち出すことで、観光客だけでなく、幅広い方々に本町の特色を知っていただく機会になるというふうに考えています。

そこで、現在も、道の駅によりますジビエメニューの提供ですとか、例えば熊汁による誘客イベントですとか、一部ジビエ商品のふるさと納税の返礼品など、既に取り組んでおりまして、具体的なテーマ性を持った取組や、付加価値を高める工夫によりまして、町全体の認知度向上と経済活性化につなげられるように、さらに調査・研究を進めてまいりたいということでございます。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 居谷君。

○5番（居谷知範君） 続きまして、（9）です。

これは、私がグリーンランドみずほ内のレストラン「みずき」に勤務していた頃から感じ

ていたことでもあるんですが、冬季、本町への入込客が少ないことなどにより、町内の飲食店は町外からの来店客が本当に少なくなりまして、営業的にとても厳しい時期となります。あるお店を経営されている方のお話では、実際の天気というよりは、天気予報に大きく左右されるというようなこともおっしゃっておいりました。町内には、古民家を改装したり、オリジナリティあふれるクオリティの高いお料理やサービスを提供されるすばらしいお店が多くあります。こういった時期にこそ、町民の皆様の来店を促して、町内の飲食店を応援していただけるような手段を研究してはどうかと考えます。見解をお願いいたします。

○議長（梅原好範君） 山森副町長。

○副町長（山森英二君） 冬季は、今議員おっしゃったように、京丹波町の入込客数が少ないということでございます。特に、その関連で飲食店では来客数が減少傾向にあるという状況は、課題というふうに認識をしているところであります。

こうした時期こそ、町民の方々に積極的に利用していただき、町内の飲食店を支えるという取組を検討することは、非常に有効だというふうに考えております。

冬季は、幸いにもクリスマスとか、お正月とか、また節分といった季節行事が多くありますので、例えば、今、町で取り組んでおりますクリスマスマーケット等の開催と併せまして、キッチンカーとしての販売促進とか、それからそうしたイベントとひもづけすることで、町民が足を運びたくくなるような横断的な企画とすることも検討してまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 居谷君。

○5番（居谷知範君） よろしくお願ひします。

続きまして、（10）になります。

国重要文化財の指定を受けております、蔵区の渡邊家住宅の屋根をふき替えるための費用を集めるガバメントクラウドファンディングが、目標の103%、金額にして717万7,000円を達成し終了しました。同住宅の歴史的・文化的価値と観光資源としての評価、これからの改修に向けたロードマップをお伺いしたいと思ひます。

○議長（梅原好範君） 西山社会教育課長。

○社会教育課長（西山直人君） 渡邊家住宅は、江戸時代中期、かやぶき入母屋造りで丹波地方の典型的な民家として、重要文化財の指定を受けております。

また、京都府内でも民家としては、最も古い時代のものと言われております。

こうしたことから、当時の農村の暮らしを知る上で貴重な歴史的資料であると同時に、今

後、観光資源としての可能性を秘めたものと考えています。

今回の改修に当たりまして、クラウドファンディングに多くの皆様にご協力をいただき、目標金額を達成することができました。

おかげをもちまして、改修に着手することができます。改めてお礼を申し上げます。

改修の内容としては、かやぶき屋根の全面ふき替え、北側土壁の崩落箇所の修理等を予定しております。

工事については、京都府文化財保護課に受託していただき、工期としては、令和7年11月から翌年の10月までを予定しております。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 居谷君。

○5番（居谷知範君） そうでしたら、（11）です。

今後、渡邊家住宅の屋根のふき替えを行う際、ふき替えを行うこと自体が貴重な機会となることから、改修風景をクラウドファンディングで応援いただいた方や地域の皆さんにお見せする機会を設ける考えはないかお伺いをいたします。

あわせて、ふき替えの終了後は、歩いてすぐの、同じく重要文化財である大福光寺と絡めた観光PRを強化すべきではないかと思えます。見解をお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 西山社会教育課長。

○社会教育課長（西山直人君） ご提案いただいております改修工事の公開ですが、所有者並びに京都府文化財保護課のご理解をいただいた上で、改修工事の一部公開や、現地説明会の開催を検討したいと考えております。

さらに、ホームページなどにより情報発信をし、町民大学の講座も検討したいと考えております。

また、改修後は、隣接する大福光寺も重要文化財でありますので、渡邊家住宅と大福光寺を併せた企画ができないか、商工観光課や観光協会と検討したいと考えております。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 居谷君。

○5番（居谷知範君） 同じ区内で、歩いてすぐに重要文化財が2つあるというところはなかなかないと思えますので、一層の活用と観光振興をお願いして、次の質問にまいります。

（12）です。

現在のSNSの進歩によりまして、町民や観光客の誰もが手軽に気軽に鮮度の高い生きた情報を発信し、町の営業パーソンとなり得るのではないかと考えます。町の風景や風土、食、

イベントなどの情報やリソースを町民自らが積極的に発信していく仕組みを研究・広報し、京丹波町民総営業パーソンを目指していくべきではないかと提案いたします。

これができるすと、情報が非常に鮮度の高いものになりますし、また、ひいては、若年層の郷土愛の醸成とかにもつながり得るものというふうに考えます。見解をお願いいたします。

○議長（梅原好範君） 片山商工観光課長。

○商工観光課長（片山 健君） SNSの進歩によりまして、一人ひとりが情報発信者となる時代となりまして、京丹波町の魅力を広くPRする可能性が広がってまいりましたし、現在も、もう既に多くの方がそのようにされております。

そういった時代の中で、町民一人ひとりが町の営業パーソンとなるという視点は、非常に重要であると認識しております。

本町といたしましても、来年度、令和7年度にSNSを活用したキャンペーンを予定しておりまして、町民の皆様が自ら町の魅力を発信していただけるような仕組みづくりや広報手法について、現在、調査・研究を進めているという段階でございます。

この取組を通じまして、京丹波町ならではの様々な魅力を多面的に発信し、町民総営業パーソンとも言うべき役割を担っていただけるような環境を整えてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 居谷君。

○5番（居谷知範君） ここまで、本町の観光政策につきまして、現状の確認をしながら提案もいろいろさせていただきました。観光客のさらなる増加を目指しまして、本町の持つポテンシャルを最大限発揮し、さらなるファンの獲得に向けまして、町を挙げて本気で取組を進めていただきますようお願いをいたします

質問事項1を終わります。

続きまして、質問事項2、グリーンランドみずほの再整備につきましてお伺いをいたします。

(1)です。

来年度、道の駅「瑞徳の里・さらびき」、以下、道の駅さらびきと申し上げますが、再整備が行われます。令和7年度当初予算におきましても、道の駅さらびきの6億8,000万円近い予算計上がありました。今後は、同駅は大きく変わることが予想されますが、具体的な整備内容や規模、コンセプトにつきまして、お伺いをしたいと思います。

○議長（梅原好範君） 片山商工観光課長。

○商工観光課長（片山 健君） 道の駅「瑞穂の里・さらびき」のリニューアルについてでございます。

目的等につきましては、午前中の伊藤議員からのご質問に対する答弁のとおりでございますが、具体的な整備内容についてでございます。主には、物販拠点となっています既存棟の拡充と、あともう一つ、ニーズが高まってきています飲食サービス事業エリアの独立化・新築棟の建設というものでございます。

少し具体的に申しますと、延べ床面積446.48平米の既存棟の拡充につきましては、構造となる部材を残しまして改築をし、多目的スペースを設置し、地元農産品の販売だけでなく、生産者を交えたイベントの開催ですとか、情報発信を強化するというものでございます。

それから、もう一点、延べ床面積269.87平米の新築棟につきましては、既存棟に接続する形で新設をいたしまして、地元産の木材をデザイン性のある形で活用することで、地元産材の魅力的な活用の姿をPRしたいと考えております。

今申しました新築棟は、飲食サービスエリアを独立化・拡充しまして、京丹波食材を用いた豊富な食事メニューの提供ですとか、加工品等の販売を新たに行うことで、集客・収益構造を厚くするとともに、関連産業への波及効果も強化してまいりたいと考えてございます。

それから、もう1点、リニューアルへの基本コンセプトでございますけれども、京阪神の都市部から京丹波の深い森へ誘客いたしまして、本物の食、本物の健康・癒やし、本物の活力によりまして町にいざなう、京丹波町の象徴的なランドマークとして、ブランド力を強化したいと考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 居谷君。

○5番（居谷知範君） なかなかいいコンセプトやなと思いついて聞かせていただいております。

続きまして（2）です。

ただいまの答弁にありましたように、道の駅さらびきの改修工事は、かなり大規模なものになることが容易に想像できるわけなんです、再整備に関わる今後の改修スケジュールと、工事期間中の営業はどのようになるのかという点をお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 片山商工観光課長。

○商工観光課長（片山 健君） 再整備工事につきましては、6月議会上程に向けて、現在、入札に向けた準備を進めているという状況でございます。

完成につきましては、年度内を想定しておりまして、令和8年度にリニューアルオープンを行えるよう、必要な取組を進めてまいるという予定でございます。

また、工事につきましては、年間を通して営業を止めることのないように、新築棟の建設から進める予定としております。新築棟建設後は、それを仮設店舗として営業を継続いたしまして、既存棟の改築を実施するスケジュールと考えております。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 居谷君。

○5番（居谷知範君） よく分かりました。

続きまして、（3）です。

今後、改修される道の駅は、食の町・京丹波を体現する施設として、重要かつアイコン的な存在になろうかと思えます。改修後の道の駅さらびきにおいて、どのようなビジョンや仕掛けを打ち出そうとしているのかお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 山森副町長。

○副町長（山森英二君） 現在、年々売上げが伸びているという状況でございまして、グリーンランドみずほの中核施設となっている道の駅でございます。さらに施設の充実を実施することで、物販機能及び飲食機能の拡大を図りまして、単なる休憩スポットということではなくて、食を含めた京丹波の魅力を発信する場として、進化をさせることを目指しているところでございます。

具体的には、先ほども少し触れさせていただきましたけれども、販売環境を改修することで、農産品等の高付加価値を図るほか、飲食スペースの拡充を行い、人気の瑞穂そばとか、地元食材をふんだんに使ったメニューの提供を予定しております。

また、多目的スペースを活用したイベントの実施とか、町内の起業家が試験的に出店ができるチャレンジブースの設置なんかも予定しております。このことを生かして、さらに弾みをつけてもらいたいというふうな希望を持っております。

また、須知高校と連携したテストマーケティングなど、ハブ機能を活用した積極的な取組を進めるような仕掛けを打ち出す所存でございます。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 居谷君。

○5番（居谷知範君） 続きまして、（4）です。

来年度の再整備に伴いまして、来客数の増加が見込まれますが、駐車場を拡張する考えはないのかお伺いいたします。

また、道の駅さらびきに入出入りする際の国道173号との交差点は、見通しが悪く、スピードを出す車も多く、交通量も比較的多いのが現状としてあります。安全対策として、国道173号との交差点に信号を設置することについて、公安委員会などに要望すべきではないかと考えますが、併せまして見解をお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 片山商工観光課長。

○商工観光課長（片山 健君） もちろん集客が伸びていくということを想定しておりますが、駐車場容量に関しましては、隣接するグリーンランドみずほの各施設との連携を図っていきたいと考えております。

グリーンランドみずほは、広い駐車スペースですとか様々な施設を有してしまして、道の駅との相互送客ができる体制を整えるということで、一体的な誘客ができるという仕組みにしてみたいと考えております。

また、ご指摘のありました国道173号との交差点への信号の設置に関しましては、リニューアル後の交通等の状況を注視しながら、必要に応じて柔軟な対応を検討してみたいと考えております。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 居谷君。

○5番（居谷知範君） 続きまして、（5）です。

関係人口・交流人口の方々の滞在、交流拠点として、みずほガーデンロッジの客室改装及びコワーキングスペースの設置が昨年末に完了したというふうに聞いております。今後の営業再開に向けましたスケジュールと、宿泊施設は稼働率の向上が常に求められるわけですが、稼働率を上げるための具体的な取組をどのようにされるのか、お伺いをいたします。

○議長（梅原好範君） 堀企画情報課長。

○企画情報課長（堀 友輔君） みずほガーデンロッジの改修工事につきましては、令和7年1月に完成しまして、令和7年9月の開業を目指して準備を進めているところでございます。

施設の安定した運営には、稼働率を高めることが重要でありまして、以前から利用いただいている方々に加えまして、SDGsプラットフォーム参加者や観光客の利用が進むよう、各課と横断的に連携をしまして、しっかりとPRを行っていききたいというふうに考えております。

また、浴場施設の効果的な活用やコワーキングスペースの整備を売りとして、企業や特定の場所を決めずに働くノマドワーカー等の利用を高めていくことが重要であるというふうに考えております。

このため、フードバレーの推進で協力関係を築いてきた企業や協定等を締結する大学等とのつながりを生かしまして、社員研修やゼミなどの利用を促し、稼働を高めるとともに、企業誘致や起業、関係人口の増加にもつなげていきたいというふうに考えております。

○議長（梅原好範君） 居谷君。

○5番（居谷知範君） 続きまして（6）です。

みずほガーデンロッジの前には人工芝ホッケー場がありまして、このようなロケーションの宿泊施設は全国的にもかなり珍しいのではないかと思います。大会や合宿など、宿泊とホッケー場をセットにした需要は、かなりあるのではないかとというふうに思います。そして、グリーンランドみずほは、ホッケー場に限らず、スポーツと宿泊というパターンが、私が実際に勤務しておりましたとき、週末を中心に非常に多かったです。これを強みとしてPRして、稼働率の向上につなげていくべきではないかと考えますが、見解をお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 堀企画情報課長。

○企画情報課長（堀 友輔君） 改修しました施設は、これまでの利用に加えまして、様々なニーズに対応できるよう、運営開始に向けてさらに検討を進めているところでございます。

隣接するホッケー場につきましては、他府県からの利用もありまして、ジュニアチームがナイターを利用されているというふうにも聞いております。

これらのホッケーに取り組む方々は、既に関係人口でもございますし、子どもたちには親子で宿泊をしてもらい、稼働率を上げるとともに、滞在時間を長くすることで、京丹波町への愛着も育み、将来的な定着等につながればよいというふうに考えております。

○議長（梅原好範君） 居谷君。

○5番（居谷知範君） みずほガーデンロッジは、私が17年勤務した場所ですので、その運営の難しさは誰よりも分かっているつもりでおります。様々な施策の組合せで、魅力と顧客満足度を高めていただきまして、稼働率の向上を目指していただきますようお願いいたします。

続きまして、（7）です。

人工芝ホッケー場は、夜間照明や観戦スタンドなども整備された、全国大会も行われる関西屈指のホッケー場です。実業団のホッケーチームもありますし、施設やホッケーの魅力、スポーツとしての魅力、認知度の向上、財源の確保などのため、ホッケー場に企業や団体の名前を付するネーミングライツの導入を研究・検討すべきではないかと考えます。見解をお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 松本教育長。

○教育長（松本和久君） フィールドホッケー競技は、オリンピック種目に採用されるなど、世界的に見れば非常にメジャーなスポーツではございますけれども、日本では競技人口が3万人程度と、さほどメジャーではまだありません。

ご提案の、みずほホッケー場のネーミングライツ制度の導入ですが、ホッケー競技の普及、みずほホッケー場の知名度の向上、さらには施設維持管理の財源確保など、様々な可能性とメリットがあるというふうに考えます。

既に、他のホッケー場でネーミングライツの導入事例もありますので、導入に向けて調査研究をしたいと思えます。

以上です。

○議長（梅原好範君） 居谷君。

○5番（居谷知範君） よろしくお願ひします。

続きまして、（8）です。

本日も多くの議員から質問がありましたが、本年度、民間活力導入可能性調査が行われました。その進捗状況と現時点で判明したり指摘されているグリーンランドみずほ全体としての課題はないのかどうか、お伺いをいたします。

あわせて、調査結果の公表は今後どのような方法で行われていくのか。この点につきましてもお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 片山商工観光課長。

○商工観光課長（片山 健君） いわゆるサウンディング調査の進捗状況につきましては、午前中、伊藤議員からのご質問に対しましての答弁のとおりでございまして、最終的な調整を進めているという状況でございます。

それから、現時点で判明している課題ということでございますが、当施設の持つポテンシャルを高く認知をいただきまして、最大限利活用できると評価する企業も出てきている状況でありまして、円滑に進捗しているものであるというふうには認識をしております。

調査結果につきましては、国土交通省のホームページ並びに京丹波町のホームページでも公表を予定しているというところでございます、時期につきましては調整中でございます。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 居谷君。

○5番（居谷知範君） 続きまして（9）です。

グリーンランドみずほ株式会社の指定管理期間が来年の3月末までとなっております。来年度、どのようなスケジュールや基準・方法で、令和8年度以降の指定管理者の選定を進め

ていく予定なのかお伺いをいたします。

○議長（梅原好範君） 片山商工観光課長。

○商工観光課長（片山 健君） グリーンランドみずほの指定管理業務でございますけれども、今ご指摘のあったとおり、令和8年度以降の指定管理者の公募を令和7年度に予定をしているというところでございます。

今もあった民間活力導入調査、サウンディング調査の結果を踏まえまして、募集要項を調整するというところでございまして、その上で、公募の受付を進めていきたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 居谷君。

○5番（居谷知範君） 質問事項2におけます最後の質問、（10）です。

グリーンランドみずほは、テニスコートやグラウンド、体育館などのスポーツ施設と道の駅さらびきを筆頭として、宿泊、レストランなどの商業的な部門で構成された複合施設であります。ただ、経営的な視点から考えた場合、運動施設にはそもそも町民や利用者の福祉向上や健康増進、各種スポーツの発展を目指す施設であり、利潤を追求する施設ではないことから、年間2,000万円の委託料なしで全体として利益を出すことは極めて難しいというのが構造的な課題であると考えます。将来的に両者を、例えば運動公園施設部分を施設的にかぶりのある京都府立丹波自然運動公園のアネックス的な施設として分割し、運営することも検討すべきではないかと考えますが、町としての見解を求めます。

○議長（梅原好範君） 山森副町長。

○副町長（山森英二君） 複合観光施設でありますグリーンランドみずほは、そういう特徴を持っております。運動施設等個別の施設のみを見ると、利益を拡大することは、議員おっしゃるように難しい面があるという見方もしております。

しかし、両施設を一体的に運営することで、来客者に多様なサービスを提供できるという大きな強みを生かせるものというふうにも考えております。

提案のありますように、分割するというのも一つの方法かというふうには思いますけれども、施設ごとに運営主体を分けると、それぞれコンセプトや目的にミスマッチが生じてしましまして、利用者にとって分かりづらいという施設になってしまうリスクも少しあるというふうに思っております。

対外的に、グリーンランドみずほが今持っておりますスポーツ、ショッピング、食事も、一度に楽しめるという総合施設であるという認知がされておりますので、継続的な集客と収

益安定につながるというふうにも思っております。

現状では、一体的な運営を基本的としながら、各施設の魅力を最大限に引き出すことで、地域全体の活性化と経営の安定を両立させていきたいというふうに考えております。

また、分割するというよりも、受皿は一つにしなが、それぞれのぶら下がりの持分を分けて、責任を持ってやるという方法もありますので、そういうことも含めながら、今後、よりよい方向で運用していきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（梅原好範君） 居谷君。

○5番（居谷知範君） 来年度、グリーンランドみずほは大きく生まれ変わる年になります。

ハード面の改良は、お客様の期待値が最大化されると思いますが、その期待を裏切らないだけのソフト面、商品であったり提供されるサービスなど、高いレベルが同時に要求されることを意味していますので、一層のグリーンランドファン、ひいては京丹波町ファンの獲得につながりますよう、さらには、町内、特色ある4つの道の駅が連携した形で、町内周遊につながることを強く期待いたしまして、質問事項2を終わります。

続きまして、質問事項3、選ばれるまちづくりについてです。

（1）です。

本町の若者が町を離れる理由としてよく言われるのは、働くところがないということです。町内の企業・団体では、人材不足で苦勞されているところも多いので、働くところがないのではなく、働きたいところがないというのが正確なところではないでしょうか。

しかしながら、若年層の定住促進において、魅力的な職場、働きたい職場、やりたい仕事ができる職場とのマッチングは必要不可欠であると考えます。企業誘致に係る本町の考え方、方針につきましてお伺いをしたいと思えます。

○議長（梅原好範君） 片山商工観光課長。

○商工観光課長（片山 健君） 本町の企業誘致の考え方でございますけれども、豊かな農林産物ですとか、それらを育てている気候や風土、あるいは京丹波という地名が持つイメージなど、本町の強みを生かすことができる、食品ですとか農業関連産業、あるいは木材関連産業の企業誘致を第一義に目的としているところでございます。

町内には、既にすばらしい魅力的な企業も多数存在していると認識をしております、このような企業を、若年層、特に就職を控えております須知高校生に向けて、キャリアアップ講座の実施ですとか、インターンシップといったものを通して広く認知されることで、定住促進を図ってまいりたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 居谷君。

○5番（居谷知範君） 続きまして、（2）です。

I T・A I 関連企業の誘致における現状認識や課題は、こういったところにあるかお伺いをいたします。

○議長（梅原好範君） 片山商工観光課長。

○商工観光課長（片山 健君） 近年、デジタル技術の発展によりまして、I T・A I 関連の成長は著しく、大きな可能性を持つ分野であると認識をしております。

昨今、本町ではタウンプロモーション方針というのを立てまして、これに呼応していただく、クリエイティブですとかマーケティング関連企業も注目が集まっているところでもございまして、併せて誘致をしてまいりたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 居谷君。

○5番（居谷知範君） 続きまして、（3）です。

I T・A I 関連企業は、広大な土地や建物を必要とせず、パフォーマンスの高いネット環境が整うことによりまして、空き家の活用なども含めて誘致のハードルは低いと考えます。小規模でも地方創生や地方への進出に積極的なI T・A I 関連企業は多いという話も聞きます。若年層にとっても魅力的なこういった企業の誘致を目指すべきではないかと考えますが、町としての見解をお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 片山商工観光課長。

○商工観光課長（片山 健君） 先ほど来から申してますが、食品ですとか農業関連産業、あるいは木材関連産業、この企業誘致を第一に目指しているところなんですけれども、今ご指摘のあったI T関連企業につきましても誘致が実現するように努めてまいるということでございます。

また、I T関連企業の誘致につきましては、今もご指摘があったんですが、例えば、空き家バンク制度との連携によりまして、空き家ですとか空き店舗のリノベーションによる企業誘致を推進するといったこと、地域の空き家対策ですとか商店街の地域の活性化にもつながるといったような、副次的な効果も期待をしていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 居谷君。

○5番（居谷知範君） 続きまして、（4）です。

安価で良質な住宅の確保や提供も移住・定住促進における重要な要素であると考えます。

現状の空き家バンクや町営住宅の状況をどのように捉えておられるのかお伺いをいたします。

○議長（梅原好範君） 堀企画情報課長。

○企画情報課長（堀 友輔君） 移住を促進するに当たり、住まいは重要な要素と捉えており、町では空き家バンクを整備しております。

状況を申し上げますと、令和4年度19件、令和5年度37件、令和6年度は現時点で23件の登録をいただき、現在の登録件数は38件となっております。

しかしながら、移住希望者のニーズ等に対応し切れない状況も生じておりまして、さらに空き家の掘り起こしを強化する施策として、空き家活用促進事業補助金を令和4年度から創設をいたしました。

地域の働きかけにより、空き家情報バンクに登録された場合は、奨励金を交付する内容でございますが、これにより徐々にではありますが、空き家の掘り起こしが進んでいることから、引き続き、地域との連携を強めながら取り組んでまいりたいというふうに考えております。

また、京丹波町の町営住宅は、公営住宅88戸、特定公共賃貸住宅55戸を設置しています。

町営住宅の入居に関し、令和2年度より町内在住や在職にかかわらず、空き家戸数にもよりますが、公営住宅は年4回程度、特定公共賃貸住宅は随時募集をしております。

公営住宅と特定公共賃貸住宅では、月額所得基準により応募できる住宅が異なります。

中には、築40年を経過した住宅もあるため、京丹波町公営住宅等長寿命化計画に基づき、老朽化した住宅の改修、改善、取壊し等を含めて検討しているところでございます。

○議長（梅原好範君） 居谷君。

○5番（居谷知範君） 状況がよく分かりました。

続きまして、（5）です。

昨年、解体をされました役場旧庁舎の跡地を有効活用するための方針が現在のところまだ示されておりません。町の中心地であり、小中学校や商業施設にも近い立地であることから、若年層の定住に向けた公営住宅の建設も検討すべきではないかと考えます。

昨年、教育福祉常任委員会で視察をいたしました、子育てに先進的な施策を展開されている岡山県奈義町におきましても、行政が主体となり、積極的に若年層向けの住宅を供給されておりました。本町も取り組むべきと考えますが、町としての見解をお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 山内財政課長。

○財政課長（山内明宏君） 旧庁舎跡地の活用につきましては、令和7年度以降に京丹波町町有土地及び施設等活用検討委員会におきまして、適切な活用方法について検討してまいりたいと考えております。

それまでの間は、蒲生野中学校及び社会体育施設等のイベント時における一時的な駐車場として、活用していきたいというふうに考えております。

また、新たに若年層向けの住宅については、公営住宅等を整備するのではなく、空き家バンクを活用し、移住、定住を促進してまいります。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 居谷君。

○5番（居谷知範君） 続きまして、（6）です。

女性に選ばれるまちづくりを推進することも、これからのまちづくりを行う上で重要であると考えます。人口戦略会議が示す若年女性人口変化率、減少率と言い換えることもできるかと思いますが、京都府内で4番目に高い現状、具体的に申し上げますと、20歳から39歳までの本町における若年女性人口変化率は、マイナス71.2%と、10人この層の女性がおられたとしても、3人も本町に残られないというような危機的な数字を示しています。

このことにつきまして、どのように捉え分析をされているのかお伺いをいたします。

○議長（梅原好範君） 山森副町長。

○副町長（山森英二君） 都市部への若年人口の流出は全国的に見られる状況であります。また、男女を比較すると多くの道府県において男性よりも女性の割合が高い状況になっているということでございます。

これは地方の大きな課題でありまして、様々な研究や分析が行われているところでございます。

転出の理由として挙げられますのは、まず大学への進学でありまして、通学圏内に高等教育機関等が少ない地域において生じておりまして、次の新卒時には働く側の多様性が欠けているという課題等もあるというふうに思っております。

また、ライフスタイルにおける価値観では、理想の子育て環境については都市部よりも地方がよいと考える方が多いという分析もありまして、京丹波町で進めている水準の高い子ども・子育て施策を継続しながら、さらに多様な仕事づくりや女性が活躍できる社会づくりを進めていくことが必要というふうに思っております。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 居谷君。

○5番（居谷知範君） ありがとうございます。

続きまして、（7）です。

本町におけます女性の固定的な性別役割分担意識の現状をどのように認識されているのかお伺いをいたします。

○議長（梅原好範君） 大西住民課長。

○住民課長（大西義弘君） 令和2年に実施されました府民意識調査では、男性は外で働き、女性は家庭を守るべきであるという考えについて、反対の人が約7割と増加しており、一定の意識の変化が見られると考えておるところでございます。

しかしながら、職場、家庭、政治の場、社会通念、慣習、しきたりでは男性優遇と感じている人が多く、また、家事の分担も女性が多いと感じている人が多いことから、依然として男女の固定的性別役割分担意識は残っているものと考えられます。

今後も、地道な周知・啓発活動を継続して行い、意識の変革や解消に努めてまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（梅原好範君） 居谷君。

○5番（居谷知範君） 続きまして、（8）です。

今、私の目の前には多くの執行部の皆さんや理事者の皆様がおられますが、本議場内の女性は、議会事務局の職員を含めまして5名ということになっております。役場における女性管理職の割合につきましてお伺いをいたします。

○議長（梅原好範君） 田中総務課長。

○総務課長（田中晋雄君） 令和6年4月1日時点におきまして、27.8%でございます。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 居谷君。

○5番（居谷知範君） 女性には、結婚・妊娠・出産・育児など、キャリアに大きく影響を及ぼすライフイベントがあります。このようなライフイベントを機に生活の変化を余儀なくされ、自身のキャリアに不安を抱かれる職員も多いのではないかと考えます。役場内において、多様なキャリアプランを示すことにより、活躍の機会を増加させ、適材適所で管理職や責任ある立場に女性を積極的に登用することにより、将来にわたる人材確保を目指すべきではないか。そして、町内の企業や団体にも同様の施策を波及させていく考えはないかお伺いをいたします。

○議長（梅原好範君） 田中総務課長。

○総務課長（田中晋雄君） 役場内におきましては、市町村職員等共同研修の中で、階層別研修でありましたり、能力開発研修の実施をしております、女性職員のためのキャリアデザイン研修も実施させていただいております。

また、毎年、人事異動に当たりましては、職員の自己申告等による異動に含めまして、昇格等希望制度を実施しております、適材適所の配置に努めているところでございます。

現在、町内企業におかれましても、それぞれの方針に基づきまして取組を実施されているものと存じております、各事業所において推進していかれるべきものと認識をしております。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 居谷君。

○5番（居谷知範君） 続きまして、（10）に行きます。

DX化やAIの進化が急速に進む今日におきまして、在宅・リモートワークをはじめとする多様な働き方を創出するために、町として女性のためのITリスキリング講座の開催を検討してはどうかと考えます。見解をお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 大西住民課長。

○住民課長（大西義弘君） 年齢や性別にとらわれず、多様な働き方の創出のための施策は必要というふうに感じておりますが、女性に特化した事業については、現在のところ考えておりません。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 居谷君。

○5番（居谷知範君） それでは、続きまして、（11）になります。

本町の小中学校では探求的な学習の成果として、ジュニア世代の学びと提案やこども議会などを通じまして、これまで我々も様々なすばらしい提案を受けてまいりました。この提案を具現化することにより、子どもたちの成功体験や喜び、自己肯定感の向上、郷土愛の醸成、ひいては子どもたちが成長したときに選ばれる町となり得るものと考えます。まちづくり・教育それぞれの観点から見解をお伺いをいたします。

○議長（梅原好範君） 畠中町長。

○町長（畠中源一君） 子どもたちが学び、考えた結果のモノ・コトを具現化することで、子どもたちの肯定感が高まると考えられます。

自分たちの提案が町の中に受け入れられることで、郷土愛についても育まれ、大学への進学などにより町を離れても、就職などを検討する際に、京丹波町への思いが残っているということ

で、帰郷などにつながるんじゃないかなと思っております。

○議長（梅原好範君） 松本教育長。

○教育長（松本和久君） 教育的観点から、探求的な学びは、町内の児童生徒、須知高校生が探求的な学びを通じ、様々な提案をすることにより、まちづくりに対する参画意識を育む上で大変大きな役割を果たしていると、効果があると考えています。

また、京丹波町を丸ごと学びのフィールドにすることにより、地域課題の理解、ふるさとへの愛着を深める機会にもなっております。

児童生徒ならではの発想は、まちづくりの参考になることも大変多くあり、こども議会、ジュニア世代の学びと提案でなされたことは、町にとっても貴重な機会になっているというふうに感じております。教育的な観点においても、児童生徒の自己肯定感の向上、あるいは意欲を高める上で大変大きな役割を果たしております。

この間、児童生徒が提案をしましたことが具現化されつつある事例として、下山小学校が取り組んでおります丹波八坂太鼓の演奏の機会が増えたり、それからまた、竹野小学校、過日、京都新聞で大変大きく取り上げていただきましたが、竹野の魅力、山城の魅力を伝えるパンフレットが道の駅やこの役場にも置かれるようになりました。このように、提案したことが具現化されたことによりまして、児童生徒の意欲、そしてまた学校全体のモチベーションの向上にもつながっております。

また、瑞穂中学校の栗マカロンの提案が須知高校での製品化につながる。このように、小中高の学びがつながり、児童生徒の非認知能力の向上、ひいては、まちづくり、人づくりに大きくつながっていると。そのことを期待をし、今後もこの取組を進めていきたいと考えております。

以上です。

○議長（梅原好範君） 居谷君。

○5番（居谷知範君） これまで提案を受けてきましたものは、本当に僕らの発想からなかなか出てこないようなすばらしいものが多かったというふうに思います。このすばらしい学習成果や提案を、これからの選ばれるまちづくりに生かすために、聞きっ放しにするのではなく、実現する施策を町として展開すべきではないかと考えます。多分、この探求学習というのは、これからも続いていくものだというふうに思います。見解をお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 畠中町長。

○町長（畠中源一君） こども議会等で提案され、本町で取り組むべき内容につきましては、既に指示を行っております。今後に向けての提案を実現する施策の展開といたしましては、

例えば、本町が取り組むべき内容と判断した場合、子どもたちと事業化プロジェクトを組むなど、より議論を重ねて、具現化に向け工夫を凝らしながら、事業化をしてみたいと考えております。

○議長（梅原好範君） 松本教育長。

○教育長（松本和久君） 学校では、地域に根差した探求的学習のさらなる深化を目指し、地域課題として、なぜそれを選ぶのか、何をするのか。繰り返し評価を受けることによりまして、さらに自己肯定感を高める取組につなげていきたいと考えております。こうしたことをまちづくりに生かすべく、教育委員会としては、令和7年度当初予算に次世代を担う小中学生の夢と提案を実現するプロジェクトとして予算化を提案させていただいております。ぜひともご理解いただき、今後こうした取組を進めていきたいと考えております。

○議長（梅原好範君） 居谷君。

○5番（居谷知範君） 一層の取組の推進をお願いいたします。

ここまで、選ばれるまちづくりについて質問してまいりました。

少子化や人口減少に対して、非常に大きな危機感を抱いているのは、ここにいるほぼ全員が抱えていることだろうと思います。町として相当な覚悟を持っていただいて、この問題に取り組んでいただきたいというふうに思います。

続きまして、質問事項4、施政方針につきまして、二つ目の柱、教育と子育てのまちにおける、学校教育に特化した部分で質問をさせていただきます。

まず、（1）です。

今回の施政方針には少子化に対応すべく、保護者と地域の思いを踏まえた学校の在り方の検討を進めるとありました。

午前中の隅山議員の質問では、和知地区での小中一貫校についての答弁がありましたが、私からは、全町的な視点に立ちまして、これまでとこれからの学校の在り方に関しまして、具体的な取組や方向性についてお伺いをしたいと思います。

また、中学校におけるクラブ活動の選択肢を広げる必要性を強く感じております。保護者の方々からも、不安と要望を多くお伺いしてるようなところでございます。この点につきましても、町としての考え方や見解を併せてお伺いいたします。

○議長（梅原好範君） 畠中町長。

○町長（畠中源一君） 施政方針で申し上げましたように、少子化の進行によりまして、小中学校の小規模化が進んでおります。

こうした学校を取り巻く環境の変化を受けて、学校の在り方について考えていく必要があ

ると思います。

○議長（梅原好範君） 松本教育長。

○教育長（松本和久君） 小中学校の在り方の検討に当たりましては、まずは、それぞれの学校の保護者、地元地域の思いをしっかりと受け止めることが大事だと考えております。

和知地区の小中学校の在り方については、隅山議員のご質問にお答えしたとおりであります。今後、小規模化が進んでおります学校については、保護者や地域の代表などで構成をされます学校運営協議会を通じ、保護者、地域の皆さんの思いをしっかりと聞かせていただきたいと考えております。

また、現在の中学校における部活動の状況であります。生徒数の減少による学校の小規模化、指導にあたる教職員の専門性の課題等により、生徒が希望する部活動を設置することが難しい状況にあります。

本町における今後の中学校での部活動の方向として、複数校での合同練習、チーム編成、さらには、希望の多い部活動については、町内の拠点校を設置することができないか、こういうことも含めて現在検討しております。

以上です。

○議長（梅原好範君） 居谷君。

○5番（居谷知範君） 続きまして、（2）です。

今年、災害時の大規模避難所として蒲生野中学校にガスヒートポンプエアコンが整備される予定となっております。ガスヒートポンプエアコンとした理由、メリットと整備に係ります今後の予定、さらに、平常時における活用方法についてお伺いをいたします。

○議長（梅原好範君） 松本教育長。

○教育長（松本和久君） 蒲生野中学校のガスヒートポンプ式のエアコン導入につきましては、災害発生時に停電であっても作動し、少量ながら発電することも可能なものと考えております。

また、ガスボンベ保管庫を活用した、災害時の炊き出しにも対応できることがメリットとして考えております。

令和7年6月に着工し、10月頃の完成を見込んでおります。通常は、中学校の体育館の設置であることから、学校行事も含めて夏季、冬季の催し等での使用も見込んでおります。

以上です。

○議長（梅原好範君） 居谷君。

○5番（居谷知範君） 本日、最後の質問となります。

(3) です。

須知高校の活性化と存続は、本町における教育の根幹かつ要であるというふうと考えております。さらなる魅力化を目指し、京丹波町・高校・PTA・同窓会などと勉強会を立ち上げたとのことですが、勉強会の今後のロードマップや、学校として選ばれるための方策や魅力をどのように具現化するのか、目指す方向、見解をお伺いをいたしたいと思っております。

○議長（梅原好範君） 堀企画情報課長。

○企画情報課長（堀 友輔君） 全般的には、さきの隅山議員への答弁と同様でございますけれども、議員からありましたように、町・高校・PTA・同窓会などと勉強会を立ち上げたところでございます。須知高校の応援団というものがやはり必要かなというふうと考えておりました。まずは、地域の教育に係る魅力を図ることを専門としております事業者と手を組みまして、まずは、魅力化向上に向けたビジョンづくりを行っていったらというふう考えております。

その上で、あわせまして、魅力化コーディネーターの配置等も行っていくということで考えております。

以上でございます。

○議長（梅原好範君） 居谷君。

○5番（居谷知範君） ここまで、長時間にわたりまして、多くの質問をさせていただきました。僕の中では、10年、20年先の京丹波町の姿を思い描きながら質問をさせていただきました。ここまでたくさん質問をさせていただきましたが、執行部の皆様には、真摯かつ丁寧な答弁をいただきましたことに感謝を申し上げまして、居谷の一般質問を終了いたします。

ありがとうございました。

○議長（梅原好範君） これで、居谷知範君の一般質問を終わります。

以上で、本日の議事日程は、全て終了いたしました。

よって、本日は、これをもって散会いたします。

次の本会議は、明日、3月7日に再開しますので、定刻までにご参集ください。

長時間にわたり、大変お疲れさまでした。

散会 午後 4時31分

地方自治法第123条第2項の規定により、署名する。

京丹波町議会 議長 梅原好範

〃 署名議員 松村英樹

〃 署名議員 森田幸子